

之ヲ、セーリングクハ宇宙精神トハ名付ツケシナリ、正面的即チ理想ノ極ハ、所謂精神是レナリ、其開發ノ順序ハ理論、實行、及ヒ技術トナル、技術ハ宇宙ニ於ケル無意識的同一ヲ(即チ意識ナクシテ能ク其本來ノ形ヲ顯ハスモノアルナリ)意識的ニ摸シ來ルモノナリ、即チ理論ト實行トヲ能ク調和綜合スルモノナリト、以上ハ氏カ所謂同一哲學ナルモノ、大略ナリ、然レモ氏カ晩年ニ至リテハ、其說大ニ神祕論ニ傾ケリ、氏ハ神ノ中ニ於テ三種ノ成分元子アルヲ唱ヘリ、第一無差別ト稱スルモノニシテ、是レハ神性ノ始原的根柢ナリ、第二根本(即チ原因)ト實在トノ差別、第三ハ差別的ノモノ、同一ト是レナリ、第一ハ尙ホ人格ノ未タ現存セサル時期ニシテ、神性ノ始原的状態ナリ、神ナラサル所ノモノ尙ホ神ノ中ニ存在ス、即チ實在ノ根本ナリ、乃チ有限的物體ニ存在スル不完全及ヒ惡ナルモノ亦皆此中ニ存ス、宇宙ニ於ケル万有ハ、未タ開發セサル状態ニ於テ、此中ニ包含セラル、人ハ神ヨリシテ自發的ニ開發シ來レルモノナリ、是故ニ其自由ノ性ヲ有ス、然リト雖モ其自由ヤ、時間ノ未タアラサル以前ニ於テ爲サレタル知力ノ作用ノ中ニ僅カニ實行セラルルモノナリ、實驗的動物トシテハ其行爲ハ必ラス必然的ノ規定ヲ受ケサルヘカラ

ス、個人的意志ト万有的意志トハ、善ニ於テ合シ、此兩者カ分離スルモハ即チ惡トナル、人ハ万物ノ中ニ交リテ其中心ノ位置ヲ占ムルモノナリ、万有ハ總ヘテ人類ヲ通シテ造ラル、モノナリ、神カ自然界ヲ取りテ之ヲ己レト冥合スルモ、亦唯人類ヲ通シテ始メテ之ヲ成シ得ルナリ、人ハ實ニ自然界ノ救濟者ナリ、一度ヒ分離シ來レル自然界カ、神ニ復歸スルカ爲メニハ、必ラス人類ノ媒介ヲ經サルヲ得サルナリ、氏カ晩年ノ哲學ハ即チ第二種ノ實驗說ニ屬スルナリ

(二) 非實驗說

非實驗說トハ哲學ノ大本ヲ實驗的材料ニ取ラスシテ、合理的、或ハ論理的、元理ニ取ルモノナリ、此說ヲ取ルモノハ以爲ラク、合理的ナルモノハ必ラス必然的ノモノナリ、宇宙ノ顯象ハ又皆之ニ由リテ生成變化セサルヘカラザルナリ、不合理のモノハ必然的ノモノニアラス、何トナレハ是レ能ク其他ノモノ、爲メニ代リ生成セラレ、マテ得ヘクシテ、必ラスシモ現ニ實在スル如クニ生セサルヘカラザルノ理ナクレハナリ、此論ノ首唱者ハ、ヘーゲル是レナリ、ヘーゲルノ論ハ純正哲學ノ條下ニ於テ述フルヲアルヘケレハ、此ニハ之ヲ詳述セ



サルヘシ、但一言之ヲ要スルニ、「ヘーゲル」ハ理或ハ絶對ナルモノヲ以テ、万有ノ大元トナシ、此理ナルモノカ漸々開發進歩シ、未發達ノ状態ヨリシテ遂ニ絶對的完全ノモノトナル、宇宙ノ万有ハ皆此未發達ノ理ヨリシテ絶對的完全ノ理ニ至ル發達ノ階段ニ於テ發生ストナスナリ、是故ニ氏ノ哲學ハ一切實驗的材料ニヨリテ之ヲ構成スルモノニアラスシテ、極單極純ナル理ノ状態ヨリシテ徹頭徹尾必然的關係ヲ以テ之ヲ論述スルモノナリ、

之ヲ要スルニ實驗的哲學ハ主トシテ經驗論及ヒ感覺說ヨリ入り來リ、非實驗說ハ合理論ヨリ變シ來ルモノナリ、但シ此二者ノ區別ハ固ヨリ知識學ノ見解如何ニヨリテ起ルモノナリト雖モ此等ノ名稱ハ寧ロ純正哲學ニ關スルモノト謂フヘキナリ、

上來叙シ來ル所ニヨリテ知識學中知識ヲ論スル古來ノ見解ハ大畧之ヲ論シ了レリ、以下其第二部方法篇タル

### 第三 論理學

ニ付キテ述フルトコロナカルニカラス、然レモ論理學ハ本館學課ノ一トシテ已ニ

之カ設ケアリ、余輩カ論理學ニ於ケル講說ノ方法ハ固ヨリ通常形式の論理學ト稱スルモノトハ、自カラ其流ヲ異ニセサルヲ得ス、何トナレハ是レ知識學ノ一部トシテ之ヲ解クモノナレハナリ、然レモ其實際上ノ應用ニ至リテハ又多ク之ト相異ナラス、是ニ於テ乎兩者重複ノ嫌ヒナキヲ得ス、依リテ此ニハ之カ叙述ヲ畧シ、唯一般論理ニ付キテノ古來ノ見解ヲ畧叙シ、以テ此篇ヲ畢ルヘシ、讀者幸ヒニ諒セヨ

論理學トハ如何ニシテ知識ヲ得又如何ニシテ之ヲ他人ニ通スヘキカノ方法ヲ講究スルモノナリ、是ヲ論理學ノ定義トナス、

### 論理學ニ付キテ古人ノ見解

論理學ノ講究スル問題ニ付キテハ古來種々ノ見解ヲ抱クモノアリ、今少シク之ヲ述フヘシ、

#### (甲) 形式の見解

第一ハ論理學ヲ以テ形式的ノ學トナスモノニシテ、其言ニ曰ク、論理學ハ吾人知識ノ形式ヲノミ論シ其實質ノ如何ハ更ラニ問フトコロニアラスト、此ノ說ヲ主張スル主ナル學者ヤ獨ノ「カント」「英ノ「ハミルトン」「ゼボノス」等ノ諸氏ナリ、今試ミニ此等



諸氏ノ定義ヲ掲クヘシ、

「カント」ハ論理學ヲ定義シテ曰ヘリ、論理學ハ悟性ノ必然的理法ヲ講究スル學ナリ、之ヲ換言スレハ、單ニ思想一般ノ形式ヲノミ、スルモノナリト、

「ハミルトン」ハ曰ハリ論理學ハ思想其物ノ理法ヲ論スル學ナリト、又曰ク論理學ハ思想ノ理法ヲ論究シ、其實質ノ如キハ且ラク之ヲ措ク、故ニ之ヲ形式學科トハ稱スルナリ、蓋シ是レ論理學ハ形式ノミニシテ、實質ヲ有セストノ意ニアラス、人間思想ノ形式即チ是レ論理學研究ノ目的トスル所ナリトノ意ナルノミト、

「ゼボンズ」亦之ヲ以テ思想ノ必然的理法ノ學トナセリ、

是ニ由リテ之ヲ觀レハ此等ノ學者ハ吾人カ、思想、ノ、形式、ト、其、形式、カ、應、用、セ、ラ、ル、ヘキ、物、躰、ト、ノ、關、係、ハ、更、ラ、ニ、之、ヲ、論、セ、サ、ル、ナ、リ、故、ニ、之、ハ、此、ニ、甲、ハ、乙、ナ、リ、乙、ハ、丙、ナ、リ、ト、ノ、二、個、ノ、判、斷、ア、レ、ハ、甲、ハ、丙、ナ、リ、ト、ノ、結、論、ヲ、待、ル、ト、ハ、極、メ、テ、明、了、ナ、ル、ト、ナ、リ、此、ノ、如、キ、關、係、ハ、是、レ、論、理、學、ノ、研、究、ス、ル、所、ナ、リ、

然レモ時トシテハ其實質ノ如何ニヨリテ前二個ノ場合アルモ、後ノ判斷ハ之ヲ推論シ得サルト往々ニシテ之ナキニアラス、然レモ是レ其實質ニ涉ルヲ以テ、此學ハ

毫モ之ニ論及セス、唯其一般ノ形ノミヲ論スルナリ、故ニ又之ヲ結論ノ學トモ稱セリ、

又此論理學ニ於テ論スル所ノ所謂理法ナルモノ、果シテ哲學的ノ意義ヲ有ス乎否ヤハ之ヲ究メス、即チ之ヲ換言スレハ、如何ニシテ論理ノ理法カ、外界物躰ニ應用セラレ得ヘキ乎ハ一切之ヲ問ハサルナリ、唯論理的理法ナルモノハ吾人カ心理ニ存在スル特種ノモノナルトハ、事實疑フヘカラサルナリ、此學ハ此理法ハ吾人思想ノ開發ニ對シテ、如何ニ作用スヘキモノナルカヲ論スルノミ、

然レモ余ヲ以テ之ヲ見ルニ、此形式的の見解ナルモノハ未タ正鵠ヲ得タリト謂フヘカラス、何トナレハ論理學ハ固ヨリ知識論ノ如ク、知識ノ起原或ハ範圍等ニ付キテ研究セントスルモノニアラスト雖モ、而モ如何ナル知識モ、苟モ稱シテ以テ知識トナスモノハ、必ラスヤ思想ク法ト及ヒ其實質トハ分離シ得ヘキモノニアラス、譬ヘハ物躰ニハ必ラス其之ヲ構成スル實質ト、及ヒ其形態トハ存在セサルヘカラサルカ如シ、且ツヤ思想ノ法タルモノハ、又實躰ヲ理解悟了センカ爲メニ存スルモノナリ、然ルニ今論理學ヲ以テ其實躰ニハ果シテ應用シ得ル乎否ヤ、又實際ノ場合ニ當



リテハ果シテ眞實ナルヲ得ル乎否ヤテ論セス、唯此思想ノ注ノミヲ研究スト云ハ、論理學ニ所謂眞實ナリトスルトコロノモノハ、皆次ノ如キ假定ヲ有スト謂ハサルヲ得ス、曰ク

若シ論理上決スル所ニシテ實地ニ眞ナルヲ得ハ眞ナルヲ得ヘシ

ト、是レ甚シキ認見ナリ、若シ此ノ如クンハ論理學ナルモノハ秋毫ノ實用ニ裨益スル所ナキモノニシテ、單ニ吾人カ空想ヲ弄スルニ過キサレヘシ、而シテ論理上ノ理法ヲシテ、單ニ吾人カ心裡ノ空想ニ過キスシテ實用ニ眞ナル乎否ヤハ未タ知ルヲ得サルモノナリトセハ、眞理或ハ知議ナル語モ亦遂ニ無義ノ思想トナラサルヲ得ス、是故ニ若シ吾人ノ思想ヲシテ果シテ實有ヲ理會スルニ足ルモノトセハ、其根本的理法ノ能ク外界物體ニ應用シテ誤ラサルモノタルヤ又明ラカナリ、即チ論理學ノ理法ハ、單ニ心理ノ空想ニアラスシテ、實物ノ知識ニ相應シタルモノナラサルヲ得ス、此ノ如クニシテ論理學モ亦有益ナル一科學タルノ位地ヲ失ハサルヲ得ヘシ、

形式的見解ニ反スルモノヲ

### (乙) 哲學的見解

トナス、之ヲ主張スル主ナル學者ハ「ヘーゲル」「エルドマン」等ノ諸氏是レナリ、此等ノ學者ノ定義ハ次ノ如シ、

「ヘーゲル」ハ曰ヘリ、物體ト物體ノ思想トハ言語カ已ニ之ヲ表彰スルカ如ク、全ク同一ナルモノナリ、思想ノ眞法ハ毫モ万有ノ本性ト違背セス、純粹科學(即チ論理學)トナリ、他ノ一切科學ノ根本トナルニ由リ此ノ如ク稱ス、ハ一方ヨリシテ之ヲ云ヘハ思想ヲ講述ス、而モ其思想ハ物體自家ト同一ナルモノナリ、又他方ヨリシテ之ヲ云ヘハ物體ヲ研究ス、而モ其物體ハ思想ト差別ナキモノナリ、是故ニ論理學ハ純然タル理ノ組織ナリ、純粹思想ノ完結ナリ、此完結ハ即チ是レ眞理ニシテ眞理ノ外更ラニ一物ノ之ニ混スルナシ、思想ノ必然的形式及ヒ先天的ノ理法ハ、絶對的眞理ノ内容タリト、

「エルドマン」モ亦曰ヘリ、論理學ハ範疇ノ學ナリ、範疇トハ思想ノ根基ニシテ、又万有ノ大本タリ、論理學及ヒ純正哲學ハ共ニ此範疇ヲ論ス、乃チ此二學ハ互ニ相分離スヘカラサルモノナリ、是レ共ニ範疇ヲ論スル一科ノ學ナリ、論理學及ヒ純正哲學ハ



一ニシテニアラスト、  
 是ニ由リテ之ヲ見レハ此等ノ學者ハ思想ト物體トヲ以テ互ニ同一ニシテ毫モ差別スルトコロナキモノナリトナシ吾人カ心理ニ於ケル論理的方法ハ即チ是レ外界物體ニ於ケル進歩ヲ規定スル所以ノ方法ナリト思惟スルモノナリ故ニ論理學ハ唯ニ人知ノ形式ヲノミ論スルニ止マラス理解ノ方法ヲ分析研究スルハ即チ同時ニ又實際界ニ於ケル万有ノ組織ヲモ研究スル所以ノモノナリ語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ論理學ハ哲學ト同一ナルモノナリトスルニアリ、  
 然レ此見解亦未タ以テ正鵠ヲ得タルモノト謂フヘカラサルニ似タリ形式的見解カ形式ノ一方ニ偏スルト同シク哲學の見解ハ哲學ノ一方ニ偏スルモノナリ而シテ此見解ハ獨斷ニ陥ルノ弊ナキニアラスト凡ソ吾人カ有スル真正ノ思想ナルモノハ固ヨリマタ實際ノ本性ト相離ルヘカラサルヤ疑ヒナシト雖モ而モ全然之ト同一ナルヲ得ルヤ否ヤニ至リテハ稍疑ヒナキヲ得ス吾人ノ正當ニ考ヘ得ルハ秋毫之ト異ナラス實際ニ顯ハレ來ルモノナリト云フハ固ヨリ論理的ニ之ヲ打破スヘカラスト雖モ又毫モ之ヲ證明スルヲ能ハサルモノナリ故ニ吾人ハ必ラス

然ラサルヲ得スト斷言スルヲ得サルナリ、  
 第三種ニ來ルモノハ即チ

(丙) 折衷說

ナリ此說ヲ主張スルモノハ「ミル」シグワルト「ロツエ」ユーベルウエツヒ「ウント」ノ諸學者ナリ此等ノ學者ノ說ク所ハ固ヨリ種々ノ點ニ於テ相異ナル所アリト雖モ其折衷主義ヲ探ルニ至リテハ皆其軌ヲ一ニス今少シク其實ヲ揭ケン、  
 「ウント」ハ曰ヘリ科學的論理學ハ真理探究ニ裨益スル所ノ思想ノ理法ヲ講究スルモノナリト、  
 「シグワルト」ハ曰ヘリ抑モ吾人思想ノ目的トスル所ハ絕對的正確ニシテ普遍的實ナル元理ヲ得ントスルニアリ而シテ此目的ヲ十分ニ實行セシムルモノハ即チ論理學ナリト、  
 「ユーベルウエツヒ」モ亦曰ク論理學ハ吾人認識ノ理法ヲ講究スル學ナリ言ヲ換ヘテ之ヲ云ヘハ悟性ノ作用カ認識ノ目的ヲ達スルカ爲メニハ必ラス從ハサルヘカラサルトコロノ理法ヲ研究スルモノナリト、



論 概 學 哲

其他亦皆之ト大同少異ナリ是ニ由リテ之ヲ觀レハ折衷主義ヲ採ル論者ハ以爲ラ  
ク哲學的見解ハ非ナリ何トナレハ是レ思想ト物體トヲ以テ全然同一ナリト見ナ  
シ思想ノ法即チ是レ物體進化ノ理法ナリト考フルモノナレハナリ蓋シ此事タル  
實際ノ事實ニ對照スルハ必ラスシモ皆然リト言スヘカラサルナリ然レモ又  
形式的見解モ非ナリ何トナレハ是レ思想ノ理法ト物體トノ關係ヲ明ラカニセス  
爲メニ論理學ヲシテ單ニ空想ヲ弄スルノ學トナスノ恐レアレハナリ思想ト物體  
トハ固ヨリ同一トハ見ナスヘカラス假令ヒ純正哲學ノ上ニ於テ万有ノ大本ヲ論  
スルハニ當リテハ果シテ物心二者ハ同一根本ヲ有スルモノナリト考ヘサルヲ得  
ストスルモ是レ知識學ニ於テ斷言シ得ル所ニアラス知識學ノ範圍ニ於テハ唯精  
神ト物體トカ相對峙シ存在スルモノト認ムヘキノミ然ラサレハ吾人ノ知識ハ決  
シテ生スルヲ能ハサレハナリ  
然レモ此二者ハ全ク獨立シテ秋毫モ關係ヲ有セサルモノニアラス思想ノ形式即  
チ是レ物體ノ本性ニ相應スルモノト考ヘサルヲ得サルナリ是レ知識論ノ證明ス  
ル所ナリ故ニ物體ト思想トハ全ク相異ナリト雖モ思想ノ理法ハ又物體ニ應用シ

論 概 學 哲

テ其正確ナルヲ保チ得ルモノナリト云フニアリト云フハ其論理學ニ於テ例  
ヲ採リテ分明ニ此事ヲ記セリ故ニ今其大要ヲ掲クヘシ思想ハ即チ吾人ノ知識ヲ  
得ル所以ノ方便器械タリ凡ソ器械ニハ二種ノ條件ヲ具セサルヘカラス其物體ニ  
適應スルト其技術者ニ適應スルト是レナリ物體ニ適應ストハ即チ技術家カ其技  
術ヲ施サントスルニハ材料ニ對シテ其器械ノ制作カ能ク適スル如クナラサルヲ  
得サルヲ謂フナリ而シテ思想ハ先ツ此條件ヲ具ス而シテ之カ爲ニハ吾人ハ其理  
法ノ形式ヲ以テ單ニ吾人カ心理組織ノ特有物ニアラスシテ實有ニ對シテモ不斷  
確實ナル適應ヲ爲スモノナリト考ヘサルヲ得ス技術家ニ適應スレハ技術家ノ腕  
力位置等ニ對シテ之ヲ採リ之ヲ左右スルニ適スルカ如クナラサルヲ得サルヲ謂  
フナリ此第二ノ條件ニ付キテハ吾人ノ思想ハ稍其制限ヲ受ケサルヲ得ス何トナ  
レハ吾人ハ万有ノ中央ニ立チテ万有ノ本性ヲ透見シ得ルカ如キモノニアラスシ  
テ反テ万有ノ一隅ニ存在シ其真理ヲ得ント欲スルハ彼此ニ於ケル小經驗ヲ  
積ムヲ要シ一見其本性ヲ看破スルヲ能ハサルニヨリ極メテ迂回シタル路程ヲ取  
ラサルヲ得サルナリ故ニ吾人ハ思想ノ形式ヲ以テ如何ニ善ク外界物體ニ適應ス



ルモノト考ヘサルヘカラストスルモ、其中ニハ必ラス直接ニ實際界ノ實有ヲ認識シ得サルモノ是レナキニアラス、例之ヘハ家屋ヲ構造セシニハ、必ラス之カ足臺ヲ作ラサルヲ得ス、之アリテ始メテ大厦高樓ヲ構造スルヲ得ルモノナリ、然レニ足臺ハ決シテ家屋ニアラス、真正ノ家屋ヲ見ント欲セハ、必ラス再ヒ此等ノ足臺ヲ取リ去ラサルヲ得ス、吾人カ思想ノ形式的理法ニ於ケル、亦正サニ此ノ如キナリト、是レ即チ思想ノ直接ニ物躰ニ同シカラス、而モ其間ニハ互ニ相應スル所アリトノヲ謂フモノナリ、

其他論理學ニ付キテハ種々ノ議論アリ、或ハ曰ク論理學トハ心理學ニ附屬スルモノナリト、或ハ曰フ然ラスト、或ハ又曰ク論理學ハ科學ナリト、或ハ曰フ術ナリト、然レニ此等ノ論ハ別ニ詳述スルヲ要セス、余輩ハ前條述フル所ヲ味ヘハ、此等問題ハ自ラ氷釋スルヲ得ヘケレハナリ、

#### 第四 純正哲學

余輩ハ念論ノ篇ニ於テ已ニ之ヲ言ヘリ、純正哲學トハ宇宙ニ於ケル一切顯象ノ大本ヲ研究シ、吾人ノ必ラス許サルヘカラストスル所ノ元理ヲ論シ、併セテ其元理ノ種々特殊ノ形態ヲ表出スルモノナリ、即チ之ヲ換言スレハ、此學ハ一切元理ノ大本ヲ

論究シ其歸着スル所ヲ指示スルモノトスト、蓋シ智識學ニ於テハ吾人ノ智識ノ起原ヲ論スト、雖モ到底此學ノミニテハ其究竟ノ處ニ到達スルヲ能ハス、何トナレハ智識ノ成立スルニハ、已ニ吾人カ主觀ト客觀トノ併立ヲ假定セサルヲ得サレバナリ、是ニ於テ乎吾人ハ必ラス次ノ如キ問題ヲ提出セサルヲ得ス、曰ク主觀トハ何ソヤ、客觀トハ何ソヤ、此二者ハ果シテ一ナリヤ否ヤト、之ヲ解釋スルハ即チ是レ純正哲學ノ職ナリ、是故ニ純正哲學ニ於テハ、必ラス先ツ宇宙ノ万有ノ本躰トハ果シテ何ナリヤヲ研究ス、已ニ其本躰ノ何タルヤヲ辨スルヒハ、次ニ自然界哲學ニ涉リテ、其本躰カ宇宙ヲ構成スルノ状態ヲ論スルナリ、而シテ終リニハ宇宙ニハ又目的ナルモノヲ有スル乎否ヤヲモ講スベシ、

先ツ宇宙万有ノ本躰ヲ論スルニ於テ此ニ三種ノ異說ヲ見ル、

##### 第一 唯心論

##### 第二 實有論

##### 第三 實有唯心論



ト是レナリ、

(甲) 唯心論

宇宙實體ト稱スヘキモノハ唯吾人ノ心アルノミ、万象ハ多シト雖モ、其實ハ皆吾人中心ノ作用ノ外界ニ向ツテ發シ出テタルニ過キス、心外ノ世界ニ於テ實體ト稱スル如キモノハ決シテ存在スルコトナシ、心即チ是レ唯一ノ實體タルノミト、之ヲ唯心論ニ於ケル通論トナス、

唯心論ニハ又種々ノ別アリ、次ヲ逐フテ之ヲ述フヘシ、

(一) 疑問的唯心論

是レ、デカールトノ唱フル所ニ係ル、宇宙ノ万有ハ果シテ實ニ實在スルモノナル乎ヲ疑フニ始マル、以爲ラク哲學ハ尤モ確實ナル處ヨリシテ始メサルヘカラス、若シ其レ信疑相半ハスルモノヲ探リテ之カ基礎トナス如クンハ、其上ニ構成スル哲學ノ組織亦實ニ信憑スヘキナカラントス、故ニ出來得ヘクンハ、万事ヲ探リテ之ヲ疑團ニ投シ、其疑ハント欲シ到底疑フコト能ハサルモノアレハ、之ヲ以テ哲學的基本トナサント云フニ在リ、此ノ如ク万有ハ一切之ヲ疑フニヨリ之ヲ疑問的ト云ヒ、其疑フ

ヘカラサルノ點ヲ我ニ於テ發見スルニヨリ、之ヲ唯心論中ニ加フルモノナリ、デカールトノ説ノ大要ハ次ノ如シ、

吾人カ平生ノ經驗ニ徴スルニ外界万物ハ固ヨリ言フテ俟タス、近ク吾カ一身ニ於ケル諸事ニ至ル迄テ、唯其真相ヲ得ルヲ以テ太難ナリトナス、故ニ哲學上ノ議論ニ於テハ、決シテ此等ノ事實ヲ真ナリト許與スヘカラス、吾人ハ須ラク此等ノ事實ヲ取リ、以テ悉ク之ヲ疑團ノ中ニ投シ、宇宙ノ森羅ハ多シト雖モ、吾人ハ一物ノ真相ヲモ識得スル能ハサルモノタルコト知ラサルヘカラス、然レモ此一段ノ疑團ノ中ニ於テ吾人ハ一個ノ疑ハント欲シテ而モ到着其疑フヘカラサルモノ、存在スルヲ發見ス之ヲ自己ノ存在トナス、何トナレハ吾人ハ真ニ其疑フ所ノモノナレハナリ、若シ人アリテ自己ノ存在ヲ疑ハ、是レ明ラカニ自家撞着ヲナスモノナリ、何トナレハ疑フト云フコトハ已ニ其疑フモノ、存在スルコトヲ證スレハナリ、今若シ大主宰者ナルモノアリテ、尙ホ吾人ヲ欺キ、以テ此ノ如キ感ヲ生セシムルニ過キストスルモ、欺クニハ已ニ其欺カル、所以ノモノ必ラス此ニ存在セサルヘカラサルナリ、故ニ我カ存在スト考フル時ハ、我ハ實ニ存在スルナリ、是ニ於テ平氏ノ有名ナル語アリ、



日ク我ハ考フ故ニ我ハ存在スト、此ニ故ニト云フト雖也、是レ決シテ理論的推論ニヨリテ論結シタルニアラスシテ、是レ直觀的智識タルナリ、我ノ考フト云フコトハ已ニ我ノ存在ヲ證シ得テ十分ナルモノナリトナス、而シテ吾人ノ思考スルノ作用ヲ有スルモノタルヤ、又疑フヘカラサルナリ、此事タル精確ニシテ更ラニ一毫ノ間然スヘキナキモノトス、

然ラハ此智識ト他一切ノ智識ト其異ナルトコロ果シテ何處ニカアル、思フニ其明晰詳細如何ヲ顧ルノミ、然ラハ又斷シテ言フヘシ、此ノ如キ明晰詳細ナル智識ハ悉ク以テ眞トナスヘシト、

顧テ今吾人ノ思想ヲ檢スルニ之ヲ分チテ三種トナスヲ得ヘシ、

- (一) 先天的ト
- (二) 經驗的ト
- (三) 想像的ト

ト是レナリ、万物ノ眞理物躰ノ思想ノ如キハ第一種ニ屬シ、凡テノ感覺的知覺ハ第二種ニ歸シ、翼馬天人等ノ如キ想像ニ由リナレルモノハ皆第三種ニ入ルナリ、無限ニシテ永存、遍在ニシテ不變ナルモノ、思想ハ、是レ有限ニシテ、恆變スル所ノ物躰ノ思想ニ於ケルヨリモ、一層浩大ナル理想上ノ實躰ヲ有スルモノトス、而シテ結果

ナルモノハ、其原因ニ於ケルヨリモ一層多クノ實躰ヲ有スト云フカ如キハ、決シテ道理ノ許ストコロニアラス、是故ニ若シ吾人カ其實躰ヨリモ一層多クノ實躰ヲ包含スル思想ヲ有スルモ、其思想ハ明ラカニ他ノ無限ノ實躰ヨリ來ルモノナラサルヘカラス、而シテ今神ナル思想ハ、吾人カ其尤モ明晰詳細ニ有スル所ナリ、吾人ハ已ニ有限ノモノナリ、決シテ此ノ無限ノ實躰ヲ含藏スル所ノ思想ヲ考出シ得ヘキニアラス、經驗ニ於ケルモ亦復然リトナス、何トナレハ經驗ハ有限ノ物躰ニ限ルモノナレハナリ、乃チ知ル無限ニシテ遍在、全知ニシテ全能ナル眞神ナルモノアリテ、以テ其思想ヲ吾人ニ與ヘタルモノナルコトヲ、而シテ神ノ必ラス存在セサルヘカラスアルヤ、又決シテ疑フヘカラサルナリ、蓋シ以爲ラク神ハ吾人ヲ作り、以テ自己ノ思想ヲ吾人カ心理ニ置クモノナラント、

「デカール」ハ更ラニ論法ヲ進メテ曰ク吾人ハ又外界ノ物躰ニ付キテモ明晰ニシテ詳細ナル知覺ヲ有ス、故ニ是レ亦應サニ眞ナルヘシ、何トナレハ神ハ完全ナルモノナリ、乃チ其性ニ於テモ亦必ラス正直ナラサルヲ得ス、彼レ已ニ吾人ヲ欺クコトナキモノナレハ、吾人ヲシテ其眞ナラサルモノヲ取リテ、明ラカニ眞ナリト認メシムル



所以ノ理ナケレハナリト、是ニ於テ乎「デカール」ハ其議論ノ始メニ於テ、疑問ノ中ニ投セシモノヲ、悉ク復活シ來リテ、以テ之ヲ真理ノ中ニ算入スルニ至レリ、然レモ奈何セシ神ノ存在ノ證明ハ是レ吾人カ心裡ノ先天的思想ニ根基シ、先天的思想ノ存在ハ、又神ノ存在ニ根基スルモノナレハ其論法ニ於テハ所謂循環的ノモノニシテ唯ニ一笑ニ付スヘキヲナ

氏ハ尙ホ進ンテ外界物體及ヒ其性質ヲ研究シ、以爲ラク物體ハ之ヲ分チテ二種トナスヘシト、曰ク一ハ即チ心或ハ思考的實體ニ屬スル知力上ノ物體ニシテ、他ハ即チ廣延ヲ有スル實質的物體是レナリ、此精神ト身體トヲ合シテ、以テ諸種ノ感覺的慾望情緒及ヒ感覺等ヲ生スルニ至ルナリ、此ニ所謂實體トハ自存的ノモノニシテ、毫モ他物ノ助ケヲ要セサルモノ是レナリ、是故ニ真正ニ實體ト稱スヘキモノハ、唯神アルノミ、何トナレハ他一切ノモノハ悉ク神ノ助ケニヨリテ以テ始メテ存在シ得レハナリ、然リト雖モ心身ノ如キハ是レ互ニ相反對シ、又其種類ヲモ異ニスルモノナレハ、氏ハ神ヲ以テ殊ニ第一種ノ實體ト稱シ、心身ヲ以テ第二種ノ實體トナセリ、而シテ實質的物體ハ、單ニ器械的作用ヲ感受シ、之ニ反シ思考的物體ハ唯ニ精神

的作用ヲ感受シ得ルモノナリ、故ニ此二者互ニ相感應スルカ如キヲハ、到底其能クシ得ルトコロニアラサルナリ、之ヲ連合スル所以ノモノハ神是レナリ、今精神ニ於テ一定ノ作用ヲ爲スヤ、神ハ其機會ニ際シ、身體ニ於テ正ニ之ト相應スル作用ヲ引キ起スモノナリ、身體作用ノ精神ニ感應スル亦此ノ如シト

「デカール」ハ實ニ近世哲學ノ先驅ヲナスモノナリ、而シテ其先驅ヲ爲ス所以ノモノハ全ク中古時代ニ於ケル宗教ノ範圍ヲ脱シ、以テ嚴肅ナル哲學的研究ノ方法ヲ教ヘタルニアリ、氏カ尙モ吾人ノ疑ヒ得ルタケハ成ルヘク之ヲ疑ヒ去ルヘシト云フハ即チ是ナリ、然レモ惜ヒ哉氏ハ其哲學ニ於テ十分ニ其說ヲ實行スルニ至ラザリキ、其我ハ考フ故ニ我ハ存在スト云フハ、又非難スヘキニアラス、何トナレハ我ト其考フル所ノモノトハ、元來同一物ナレハナリ、然レモ直チニ之ニ次クニ明晰詳細ナル思想ヲ以テ、真理ノ標準トナスニ至リテハ、未タ以テ容易ニ正當ナリト許與スルヲ得サルナリ、蓋シ其所謂明晰詳細ナルト否トハ、果シテ何ヲ以テ之ヲ定ムヘキカ、其明晰詳細ナルト否ヤトヲ判スルカ爲メニハ、又此ニ一ノ標準ナキヲ得ヌ、デカールトノ言ノ如ク、單ニ吾人カ此ノ如ク考フト云フニ止マレハ、人々ニヨリ、又時代ニ



ヨリテ其明晰詳細ナリトスルモノ異ナラサルヲ得ス、例之ヘハ未開ノ人ハ開明人ノ見テ以テ怪シムヘシトナスノ顯象モ反テ以テ當然ノ「トナシ、其怪シムニ足ラストナス「トハ、反テ之ヲ怪シムナリ、此ノ如ク「ハ不變ノ真理ハ到底之ヲ得ル「能ハサルニアラスヤ、是レ「デカ「ト「哲學ノ大ニ欠典トスル所ナリ、是故ニ當時ニアリテハ「デカ「ト「卓絶ナル思想モ、遂ニ其功ヲ奏スル「トヲ得ザリシナリ、何トナレハ氏ハ直チニ之ヨリシテ神ノ存在ヲ許シ、神ノ存在ヨリシテ又外界物體ノ存在ヲ許スニ至レハナリ、是レ氏カ哲學的方法ノ不是ナルニアラスシテ、其標準ヲ探ル、未ダ詳ニアラザリシニ由ルモノナリ、故ニ氏ノ疑問的唯心論ハ、強テ非難スヘキニアラサルモ氏ノ哲學ハ、毫モ取ルトコロナキモノナリト斷言セサルヲ得ス

人或ハ曰ヘリ、氏ノ哲學ニ於ケル發起點已ニ非ナリ、吾人カ哲學ヲ講スルニ當リテハ、其尤モ正確ニシテ動カスヘカラサル元理ヨリシテ出發スル「トヲナスヘキニアラスシテ、吾人ノ常識ニヨリテ已ニ有スル思想ヲ分析シテ、其誤レルモノハ之ヲ去リ、漸々以テ真正ノ思想ニ歸セシムル「トヲ要ス、是レ哲學ノ當サニ爲スヘキ所ナリト、然レモ此說ハ容易ニ以テ是認スル「トヲ得サルナリ、何トナレハ若シ此ノ如クナ

レハ哲學ハ到底其確實ニシテ誤ナキ「トヲ保スヘカラサレハナリ、漸々確實ニ近シカントスルモ確實ナル哲學ハ決シテ之ヲ得ヘカラサレハナリ、即チ是レ誤リヲ以テ誤リニ代フルモノナリ、何ノ日カ能ク之ヲ排除シ得、何トナレハ吾人ノ思想ハ如何ニ發達スルモ、其完全無欠ニ至ル「トハ之ヲ望ムヘキニアラサレハナリ、

(二) 懷疑的唯心論

又之ヲ顯象的唯心論ト稱ス、是レ「バルクレ「ト「唱フルトコロナリ、此說ニヨレハ宇宙万有ノ本體ナルモノハ決シテ存在スルニアラス、吾人カ一見以テ實質的實體ナルモノ存在スト考フルモ、仔細ニ之ヲ研究スル「トハ、單ニ是レ名稱ニ過キサレナリ、吾人ノ知覺スルモノハ、物テ是レ主觀的ノモノタルニ外ナラス、主觀的ノ顯象ヲ離レテ別ニ實質的ノモノ實在スト思惟スルカ如キハ、抑モ愚ノ至レルナリト、此ノ如ク實質的本體ノ實在ヲ否定スルニヨリテ之ヲ懷疑的ト云ヒ、又顯象界ノミカ實在シ、本體ハ實在セスト云フニヨリ之ヲ顯象的唯心論トハ稱スルナリ、

「バルクレ「ト「說ハ大畧次ノ如シ、

「ロツク「ト「說クトコロニヨレハ、宇宙ニハ實體アリ、又之ニ第一性ナルモノ固有スト



然レモ吾人カ見ル所ハ是レ何ソ、吾人ハ決シテ實躰其物ヲ見ルヲ能ハス、其見テ以テ外界トナスモノハ、是レ豈ニ我カ心理ニ於ケル映象ニアラスヤ、凡ソ吾人カ日常ニ知覺シ思考スル所ノモノハ、惣ヘテ此ノ映象ヲ以テニアラスト云フヲナシ、故ニ宇宙唯主觀的實在アルノミ、心理以外ニ於テ實躰ト稱スル實質的ノモノ存在スト考フル如キハ、大ナル誤謬ニ陷ルモノト云ハサルヘカラス、實躰ハ單ニ是レ空名ノミ、唯吾人ハ之ニ由リテ以テ數種ノ感覺ヲ物<sup>〇</sup>括<sup>〇</sup>シタルニ外ナラス、否氏ハ尙ホ一步ヲ進メテ次ノ如ク斷言セリ、曰ク吾人ニハ實躰ノ概念アルヲナシ、實躰トハ唯是レ名稱ノミト、

是故ニ抽象的概念ナルモノハ、決シテ存在スルヲナシ、何トナレハ是レ其中自家撞着スル所アレハナリ、吾人ハ一個ノ普通名詞(例ヘハ三角、植物、動物等ト云フカ如シ)ニヨリテ種々ノ異ナリタル物躰ヲ指示スルノミ、其抽象的概念ハ、決シテ之ヲ建立スルヲ能ハサルナリ、之ヲ換言スレハ其一個々々ニ付キテノ特有ナル性質ヲモ併セ示スヲナクシテ、唯所有特例ニ普通ノ實在ヲノミ顯ハスカ如キ概念ヲ作ルヲハ到底吾人ノ爲シ得サルトコロナリ、例之ヘハ如何ナル人モ其形狀ニ於テハ、鈍銳若

シクハ直角、其色ニ於テハ赤黃白黒、其大サニ於テハ大小等諸種ノ變態ヲ一時ニ包含表彰スルカ如キ三角形ノ概念ヲ有スルヲ能ハサルナリ、何トナレハ此ノ如キ三角形ハ、其實大ニアラス、小ニアラス、銳角ニアラス、鈍角ニアラス、又直角等ニアラサルモノナラサルヘケレハナリ、然リト雖モ若シ他ノ特殊ナル性質ニシテ其當時ノ場合ニ於テ必要條件ナラサルモハ吾人ハ特殊ナル三角形ヲ以テ姑ラク他ノ三角形ヲモ代表シ得ルモノナリトナス、

外界ニ於テハ已ニ實躰ナルモノ、存在スルヲナシ、乃チ知ルヘシ、其所謂實躰ノ性質ナルモノ亦外界ニ存在スルナキヲ、何トナレハ之ヲ維持スル所以ノモノ存在スルナケレハナリ、蓋シ物躰ノ性質ハ空ニ存在シ得ルモノニアラス、必ラス其之ヲ有スルトコロノ實躰ナルモノナカルヘカラサルナリ、然ラハ性質ハ全ク存在スルナキ乎、曰ク何ソ然ラン、性質ヲ存スト雖モ是レ之ヲ知ル所ノ主觀ニ於ケル感覺知覺ニ違キサルナリ、故ニ氏曰ク、外界物質ノ世界ハ唯ニ其存在ヲ認ムルヲ能ハサルノミナラス、又之ヲ解釋スルニ於テ更ラニ用ナキナリ、若シ物躰ニシテ存在ストセハ、吾人カ物躰ニ於ケル思想ハ是レ物躰其物ニアラサルヤ明ラカナリ、吾人ハ物躰



論 概 學 哲

ノ存在ヲ認メテ、毫モ其利益スル所ヲ見ス、寧ロ之ヲ吾人ノ心理的作用ニ歸着スルノ簡ニシテ勝レルニ如カサルナリ、  
 且ツヤ物躰ハ到底實在スルヲ能ハサルナリ、何トナレハ外界ニ物躰ノ存在ストスルハ、吾人ノ知覺ハ必ラス其映象ト云ハサルヘカラス然レモ物躰ノ本躰ト吾人ノ知覺トハ全然其類ヲ異ニスルモノナリ、吾人ノ知覺ハ物躰カ實ニアル如クニ吾人ニ映寫シ得ルモノニアラス、若シ此ノ如ク映寫ストセハ吾人カ外物ヲ見サルモ外物ハ吾人ニ映寫セラレサルヲ得ス、然レモ是レ不能ノ理ナリ、故ニ吾人ハ物躰ト思考トハ同一ナリ、而シテ是レ唯吾人カ心理ノ感覺知覺ニ過キストノ説ヲ取ラサルヲ得ス、

然ラハ吾人カ外界物躰ヲ以テ實ニ存在ストナスノ信ハ、果シテ何處ヨリシテ來ル乎、世人ハ以爲ラク、吾人ノ思想ニハ已レノ意ニヨリテ以テ之ヲ變シ得ルモノト、變シ得サルモノトアリ、其變シ得サルモノハ、是レ必ラス吾人以外ニ一ノカノ存在スルアルニ由リテ然ルナリト、是ニ於テ乎外界物躰實在ノ念ヲ生スルニ至ルナリ、  
 然レモ唯其力ヲ以テ外物ト考フ

論 概 學 哲

ルハ不可ナリト云ヘリ、氏ハ以爲ラク吾人以外ニハ眞ニ一個ノカアリ、神即チ是レナリ、神ハ實ニ吾人カ意思如何ニ由リテ變化シ得サル思想ノ性質順序ヲ定ムルモノナリ、神ハ實ニ吾人ノ心裡ニ於テ思想ヲ發生スルモノナリ、其秩序ノ如キハ全ク彼レカ預定スルトコロニ出ツ、此等ノ思想カ一定ノ目的ヲ以テ排列シタル全躰ヲ取リテ、吾人ハ之ヲ宇宙ト名ツク、其秩序ヲ自然法ト稱ス、科學ノ研究スル所亦實ニ此ニ外ナラス、

此ノ如ク一個ノ神アリテ、宇宙ニ於ケル總ヘテノモノ、心裡ニ於テ思想ヲ發生スルニヨリ、外界ノ映象万人皆同一ナルヲ得ルモノナリト、  
 「バルクレー」ハ主觀論者ナリ、希臘詭辯學者モ亦主觀的論者ナリ、而シテ其議論ノ分ル、トコロ實ニ此ニアリテ存ス學者仔細ニセサルヘカラス、詭辯學派ニアリテハ自己是レ万物ノ標準タリ、故ニ自己ニ見聞覺知スルヲ能ハサルモノハ、天下之ナキナリ、但シ「バルクレー」ハ然ラス、自己之ヲ見聞覺知セスト雖モ、天下必ラスシモ之ナシトハ云フヘカラス、何トナレハ他ノ衆人之ヲ見聞覺知スルアレハナリ、天下ノ衆人之ヲ見聞覺知セスト雖モ、尙ホ必ラスシモ之ナシトハ言フヘカラス、神ノ心中ニハ万有常ニ存在セスト云



論 概 學 哲

フイナケレハナリ、神ハ實ニ万物ヲ包含シテ遺ス所ナシト、  
 心理學上ヨリシテ之ヲ論スルハ、宇宙方有ノ智識ハ總ヘテ吾人カ心理ノ顯象ニ  
 アラサルナキナリ、然リト雖モ心理的顯象ノ外宇宙實體ナキカ、吾人ハ此ニ疑ヒナ  
 キヲ得サルナリ、顯象的唯心論ニヨレハ、心外物體アルヲナシ、所謂實體トハ是レ空  
 名ノミ、感覺知覺ノ集合ニ過キサレナリト、然レモ試ミニ問フヘシ、然ラハ吾人ノ感  
 覺ハ如何ニシテ生シタル乎、又知覺ハ如何ニシテ發スヘキカト、吾人ノ感覺若シク  
 ハ知覺ハ、必ラス主客兩觀ノ相對立スルナケレハ決シテ發生スルヲ能ハサルモノ  
 ナリ、例之ヘハ觸覺ノ如キ其感覺ハ即チ心理ノ顯象ニ過キサレヘキモ吾人ヲシテ  
 此ノ如キ感覺ヲ惹キ起サシムル所以ノモノハ何ソヤ、心理學上ヨリシテ之ヲ云フ  
 モ、感覺ノ發生スルニハ、唯精神ノミニテハ斷シテ其可ナルヲ見ス、必ラスヤ外界或  
 ハ内界ニ於ケル刺撃ノ存在スルヲ要スルナリ、即チ物體ノ吾人カ皮膚ニ觸ル、  
 アリ、以テ吾人ノ精神ヲシテ觸ノ感覺ヲ感セシムルニ至ルナリ、又視覺ニ於テモ光  
 線ノ波動カ視神經ヲ刺撃シ、此ヲ以テ吾人ヲシテ視覺ヲ感セシムルモノナリ、知覺  
 ニ於ケルモ亦正サニ此ノ如クナルナリ、果シテ外界ニ一物存在セストセハ、其刺撃

論 概 學 哲

的原因トナルモノハ何ソヤ、精神及ヒ刺撃の原因ノ感覺知覺ノ成立ニ必要ナルハ  
 譬ヘハ猶ホ木ノ燃ユルニ際シテ、其木ヲ燃ユヘキ性質ト之ヲシテ燃ヘシムル原因  
 トノ必要ナルカ如シ、木ハ始メヨリシテ燃ユヘキ性質ヲ有ス、而モ樹木ノ管燃エサ  
 ルハ何ソヤ、之ヲ燃ス所以ノ原因ヲケレハナリ、之ヲ燃ス所以ノ原因ハ存在スルモ、  
 土石ノ燃エサルハ何ソヤ、其始メヨリシテ燃ユヘキノ性質ヲ具セサレハナリ、乃チ  
 燃焦ナル現象ハ其自己ノ性質ト、其刺撃の原因トニヨリテナルモノナル知ルヘキ  
 ナリ、木ノ燃ユヘキ性質ヲ有スルハ、精神ノ感スヘキ性質ヲ有スルカ如ク、其之ヲシ  
 テ燃エシムル原因ハ、外界(或ハ内界)刺撃ノ如シ、ハルクレハ如何ニシテ精神ノミ  
 ノ存在ヨリシテ、種々ノ顯象カ發生シ來リ得トナスカ、吾人ノ到底解シ得ル所ニア  
 ラサルナリ、  
 若シ又吾人ノ精神ノミニヨリテ、所有外界ノ顯象成立シ得ルモノナリトセハ、神ノ  
 存在ハ全ク其用ナキニアラスヤ、神ハ恐ラクハ無限ノ性質ヲ有スヘシ、ハルクレ  
 ノ說ヲ以テ正當ナリトセハ、實體カ感覺知覺ノ集合シテ成レルカ如ク、神モ實ハ存  
 在セスト雖モ、吾人カ精神上ニ考フル所ノ種々ノ性質ヲ集合シテ、以テ之ニ命シタ



ル名ナルニ過キサレニアラスヤ、之ヲ以テ別ニ存在スルモノトナスカ如キハ、抑モ又自家撞着ノ太甚シキニアラサル乎、何トナレハ神モ亦吾人カ精神上ニ考フルニアラサレハ、到底之ヲ知ルヲ得サルモノナレハナリ、但「バルクレ」カ神ノ存在スルヲ主張スルモノハ、氏カ耶蘇教ノ僧徒タルニ由レルナラシムル也、又感覺順序ノ變易スヘカラサルモノ、存在スルヲ説明センカ爲メノミ、若シ神ナルモノカ存在シテ吾人ノ感覺ニ順序ヲ與フト假定スルハ、實態ノ存在ヲ許シテ以テ其順序ノ一定ナルヲ致スト云フモ、毫モ異ナルトコロナキニアラスヤ、氏カ外界物態ノ存在ヲ假定スルカ如キハ、實ニ理ニ背クノミナラス、吾人ノ決シテ解スル能ハサルトコロナリト云フモノハ、此ニ至リ又自ら打破シ了レリト謂ハサルヲ得サルナリ且ツ又其自己之ヲ見聞覺知セスト雖也、天下必ラスシモ之ヲシトハ云フヘカラス、何トナレハ他ノ衆人之ヲ見聞覺知スルヲアレハナリ、天下ノ衆人之ヲ見聞覺知セスト雖也、尙ホ必ラスシモ之ヲシトハ云フヘカラス、神ノ心中ニハ万有常ニ存在セスト云フヲナケレハナリト論スルニ至リテハ、氏ノ説モ又支離滅裂スト謂ハサルヲ得ス、

(三) 主觀的唯心論

此ニ又主觀的唯心論ト稱スルモノアリ、是レ即チ「フイヒテ」ノ唱フルトコロニ係ルナリ、

氏ノ説ノ大要ハ已ニ知識論ノ部ニ於テ之ヲ述ヘタリ、蓋シ「フイヒテ」セーリングク及ヒ「ヘーゲル」諸氏ノ説ニヨレハ、知識論ヲ以テ純正哲學ト同一ナリトナス、故ニ知識ハ即チ是レ宇宙万有ノ本體ナリ、之ヲ分チテ兩邊トナスハ、抑モ誤レルノ甚シキナリト、是ニ於テ「フイヒテ」ハ其宇宙ノ本體及ヒ開發ヲ論スル書ニ題シテ、知識學ト云ヒ、「ヘーゲル」ハ論理學ト稱セリ、

「フイヒテ」ノ説ハ之ヲ要スルニ、我ナル絶對的ノモノヲ立テ、之ヨリシテ宇宙ノ万有ヲ開發シ出サントスルニアリ、故ニ心物兩體ノ如キハ分レテ兩邊トナルト雖也、而モ其實ハ一我ノ發表スルニ過キス、其本體ハ皆我ニ於テ歸着スルモノナリト曰ヘリ、

「フイヒテ」ノ哲學ニ反シ、此ニ又

(四) 客觀的唯心論



ト稱スルモノアリ、是レ「セーリング」ノ唱フル所ニ係ル、セーリングノ説ハ前已ニ其  
大要ヲ述ヘタルニ、尙ホ此ニ少シク之ニ付キテ説クトコロナカルヘカラス、  
氏ノ説ハ次ノ如シ、

「セーリング」ハ「フイヒテ」ト同シク絶対的の我ヲ以テ哲學ノ大本元理トナセリ、知識ノ  
主觀的の我ハ是レ必ラス客觀ニヨリテ制限サレザルヲ得ス、而シテ主觀客觀兩者ノ  
區別ハ已ニ絶対的の我ナルモノ、存在セラルヘカラサルヲ證シ得テ餘リアリ、而シ  
テ此絶対的の我ナルモノハ、決シテ客觀ニヨリテ制限セラル、ヲナシ、是レ絶対的の  
力ナリト、

氏ハ之ヨリシテ知識ノ起原ヲ説ケリ、以爲ラク始メ絶対的の無差別ノキニ當リテハ、  
吾人ノ所謂知識ナルモノハ決シテ生スルヲナシ、知識ハ必ラス主客兩觀ノ分立以  
後ニ於テナルモノナリ、何トナレハ知識ニ於テハ必ラス之ヲ知ル所以ノ主觀ト知  
ラル、所以ノ物體トカ存在セサルヘカラサレハナリ、是故ニ哲學ハ又分レテ二科  
トナル、即チ第一ハ其論法ノ順序ニ於テ客觀ヲ最初ニ取り、主觀ヲ後ニス、即チ如何  
ニシテ客觀ヨリシテ主觀ニ移リ得ル乎ヲ論ス、第二ハ主觀ヲ先トシ客觀ヲ後トス、

論 概 學 哲

即チ如何ニシテ主觀ヨリ客觀ニ移リタル乎ヲ説ク、第一ハ之ヲ理論的の、万有學ト稱  
シ、第二ハ之ヲ先在的の哲學ト云フ、先在的の哲學ニアリテハ、宇宙ヲ以テ吾人カ悟性ニ  
ヨリテ成立スル有機體ト見做シ、理論的の万有學ニアリテハ如何ニシテ理想カ實在  
ヨリシテ説明シ得ヘキ乎ヲ説クモノナリ、

氏ハ自ラ万有哲學ノ要點ヲ約シテ、次ノ如ク曰ヘリ、自然界ニ於ケル總ヘテノ科學  
ハ皆自然界ヨリシテ知力ニ經過セントスルノ傾向ヲ有ス、宇宙ニ於ケル完全ナル  
學説ハ又自カラ自然界ノ顯象ヲ説テ十分ニ知力ニ歸セシムルモノナラサルヘカ  
ラス、何トナレハ無生ノ万有ハ是レ唯不完全ナル知力ナレハ、之ヨリシテ其知力漸  
ニ發揮シ無意識ニ所有顯象ニ顯ハレ出ツヘケレハナリ、而シテ其發達ニ於ケル最  
高目的ハ、吾人カ理性ニ於テ十分ニ反省シ、以テ自然界ト吾人ノ知力トハ全然同一  
ナルモノタルヲ知ルニアリト、

先在的の哲學ニアリテハ、氏曰ク物質ハ死シタル心ナリ、其自己意識ノ作用ハ其有ス  
ル力及ヒ其發達ニ於テ僅カニ之ヲ發見スルヲ得ルナリ、宇宙ニ於ケル總ヘテノ  
勢力ハ畢竟吾人カ心理思想ノ力ニ歸スルヲ得ルナリ、個體ハ又其間ニ於テ相互



ノ作用ヲ爲ス、是ニ於テ乎彼レハ又各其自體ヲ有スルモノタルヲノ意識ヲ得ルモ  
 ノナリ、何トナレハ他體ナケレハ決シテ又自體アルヲ知ルヘカラサレハナリ、又  
 他體ト相互ノ關係ヲ爲スニ由リ、吾人カ自由ノ意識ヲ得ルニ至ル、已ニ吾人ヲ以テ  
 自由ナルモノトスレハ、此自然界ヨリモ一層高尚ナル宇宙存シ、此ニハ自然界ノ理  
 法ノ如ク、道德上正義ノ破ルヘカラサル理法ノ支配スル所ナカルヘカラス、之ヲ破  
 ルモノハ即チ亂臣ナリ、國家ハ總シテ皆之ニ服従スルヨリシテ成ルモノナリ、而シ  
 テ十分ニ此道德法ヲ實行スルハ世界ノ歴史ニ於テ始メテ之ヲ見ルヲ得ルナリ、  
 歴史ハ實ニ絶對ヲ實際界ニ發顯スル所以ノモノニシテ、吾人カ歴史ニ於テ漸ニ客  
 觀的ト主觀的理法トノ調和合一セントスルヲ見ルモノナリ、而シテ氏ハ歷史上絶  
 對カ、實際ニ發顯セラル、順序ニ付キテ次ノ如ク目ヲ分テリ、

(一) 宿命ノ時期、此時期ニアリテハ、單ニ限りナキ人慾其勢ヲ逞ウシ、高尚ナル人  
 性ハ全ク其跡ヲ絶チ、高大雄偉ノモノハ悉ク破壊滅盡セラレ、悲愴愁嘆スヘキノ時  
 ナリトス、

(二) 自然ノ時期、此期ニ於テハ前ニ天命トシテ顯ハレ出テタルモノカ自然法、器

械的作用等ノ形ニ於テ顯ハレ來ル、

(三) 天意ノ時期、此時ニ至レハ、前時期ニ宿命或ハ自然力等トシテ考ヘラレタル  
 モノハ、悉ク皆天意ノ不完全ニ顯ハレ來ルモノニ過キストナス、而シテ宇宙ノ顯象  
 ハ物テ是レ一個ノ目的ヲ有スルモノタルヲ知ルナリ、

我ナルモノニ於テハ、意識ト無意識トカ相合一ス、即チ眞實界ニハ自由ニシテ、顯象  
 界ニハ宇宙ノ理法ニ拘束セラル、ナリ、而シテ此二者ハ又技術ニ於テ合一ス、美ハ  
 實ニ此兩者ノ無限ニ分立スルモノヲ有限ノ物體ニ於テ統一スルモノナリ、故ニ美  
 術ハ自由ト必然ノ最高歸一ノ處ナリト、

唯心論ハ元來皆主觀的ノモノナリ、而ルニ「フイロテ」ノ唯心論ハ、之ヲ主觀的ト稱シ、  
 「セーリング」ノ唯心論ハ、之ヲ客觀的トナス、而シテ其論スル所ヲ見レハ、共ニ皆無差  
 別絶對ノ我ト、差別的方有トニ外ナラス、然ラハ其區別スルトコロ果シテ何處ニ存  
 スル乎、「セーリング」ハ氏カ哲學組織ヲ論述シタルノ書ニ於テ曰ヘリ、宇宙ニハ絶對  
 的理ヲ除クノ外、一物モ存スルコトナシ、万物ハ悉ク其中ニ包含セラレ、殘ル所ナシ、  
 而シテ此絶對的理ナルモノハ實ニ主觀ト客觀トノ合一シタル無差別ノモノトナ



サ、ルヘカラス、理ハ實ニ是レ眞ナリ、万物ノ眞體ヲ知ラント欲セハ、須ラク其理ノ中ニ存在スル所ニ之ヲ觀セサルヘカラスト、セーリングクハ比喩的ニ數學上ノ式ヲ用ヒ、氏ノ哲學發起點ト、フイヒテノ哲學發起點トカ如何ニ異ナル所アルカタ顯ハシテ左ノ如ク曰ヘリ、

第一式……………(第一式)

第二式……………(第二式)

第一式ハ即チ「フイヒテ」ノ唯心論ニヨリテ主張セラル、所ナリ、第二式ハ即チ是レ「セーリングク」カ自カラ唱アル所ノ客觀的唯心論ナリトス、而シテ氏ハ又之ヲ絕對的同一ノ哲學ト稱セリ、此二式ハ實ニ「セーリングク」ト「フイヒテ」兩氏哲學ノ傾向ヲ見ルニ最モ妙ナルモノナリ、前已ニ之ヲ述ヘタルカ如ク、「フイヒテ」ハ我ヨリシテ万有ヲ展開シ來ルモノナリ、而シテ「セーリングク」ノ論法ハ始メヨリシテ此ノ如キ我ヲ立テス、主觀客觀ノ對立スル所ヨリシテ、絕對的の我ノ必ラス存セサルヘカラスナルヲ説キ、而シテ万有哲學ニ於テハ其理法漸ニ理想ニ傾キ、先在的哲學ニアリテハ其理法漸ニ客觀的物體ニ合一スルノ傾キヲ有スルヲ以テ、遂ニ此二者ノ同一ナラサルヘカ

ラサルヲ證スルモノナリ、故ニ其全體ヨリシテ之ヲ一見スル所ハ、此二氏ノ體クトコロ同一ナルガ如シト雖、其論法ノ順序ハ全ク相反スルモノト謂ハサルヘカラスナルナリ、其名稱ノ由リテ來ル所亦實ニ此ニアリ、

「フイヒテ」及ヒ「セーリングク」ノ哲學ニ對シテ「ヘーゲル」ノ哲學ハ之ヲ

(五) 絕對的唯心論

或ハ又具體的唯心論ト稱セリ、蓋シ「フイヒテ」ハ絕對ヨリシテ主觀客觀ヲ論シ、而シテ其兩者ノ中殊ニ主觀ヲ詳カニセリ、セーリングクハ之ニ反シ、差別的ヨリシテ無差別的ニ論及シ、主トシテ客觀ヲ論セリ、然ルニ「ヘーゲル」ハ全然主觀ト客觀トヲ合一シ、思想即チ是レ物體、思想ノ法即チ是レ物體開發ノ理法ナリトセリ、故ニ之ヲ絕對的ト稱スルナリ、又氏ノ哲學ハ最モ抽象的ノモノニ始マリ、最モ具體的ノモノニ於テ終ルモノナリ、即チ最モ具體的ノモノヲ以テ最モ完全ナルモノトナスニヨリ、又之ヲ具體的唯心論トモ稱スルナリ、

氏ノ哲學ハ泰西哲學中最モ深遠ニシテ、又最モ難解ノモノトナス所ナリ、然レ、氏今此ニハ其大要ヲ述フベシ、



論 概 學 哲

ヘーゲルノ説ノ大畧ハ次ノ如シ、  
 氏ノ哲學ハ吾人ノ考へ得ヘキ尤モ簡單ナル抽象的思想ヨリシテ、漸々複雑ナル具  
 體的思想ニ移リ、最後ニ尤モ完全ナル具體的ニ至リテ止マルモノナリ、而シテ、ヘー  
 ゲルハ此尤モ簡單ナル尤モ抽象的思想ヲ有ニ於テ發見セリ即チ有(Seyn)ハ是レ  
 氏カ論理學ニ於ケル發起點ナリ、此ニ所謂有トハ決シテ其内容アルモノニアラス、  
 純然タル有ニシテ、尤モ抽象的註ニ曰ク、ヘーゲルカ謂フ所ノ抽象的具體的トハ通  
 常世人カ謂フ所ノ抽象的具體的ノ語義ト全ク相反スルモノナリ、氏カ抽象的トハ  
 物ノ一面ヲノミ觀察シ得タルノ思想ナリ、而シテ具體的トハ種々雜多ノ特性相合  
 シテ、以テ殊別ノ一殊躰ヲ成スモノヲ云フ、故ニ氏カ所謂抽象トハ、偏見ニシテ眞理  
 ノ一半ヲ見ルモノナリ、物ノ全躰眞實ノ處ヲ窺フコト能ハサルモノナリ、分析的方法  
 ニ由リテ、一々ノ元素ニ付キテ之ヲ考フルナリ、之ニ反シ具體的トハ思想或ハ物躰  
 ノ全躰ヲ其儘ニ取リテ考へタルモノナリ、ニシテ毫モ其内容ナキモノナリ、故ニ此  
 ニ所謂有トハ又無(Nichts)ト全然異ナラス、故ニ純然タル有ハ、即チ是レ純然タル  
 無ナリ、有即チ是レ無ナルニ由リテ此ニ更ラニ轉化(Worden)ノ思想ヲ得、何トナレ

論 概 學 哲

ハ有ノ思想ハ直チニ又無ノ思想ニ變遷シ行クハナリ、而シテ此ノ轉化ノ思遷ハ、有  
 無ノ兩思想ヲ綜合スルモノナレハ、前二者ヨリモ一層高尙ナルモノナリトス、何ト  
 ナレハ轉化ト云フハ己ニ其内ニ二個ノ思想アリテ、一ヨリ他ニ遷ルコトナカルヘ  
 カラサレハナリ、然レモ此三者ハ元來是レ一、言語ヲ以テ之ヲ言フハ、三者其次第  
 ナキヲ得スト雖モ、其實ハ有(有)無(無)轉化(轉化)ナリ、其間決シテ時間ノ算スヘキアルコト  
 シ、何トナレハ有ハ即チ無ト同一ニシテ、有無ノ同一ナルトコロ即チ是レ轉化ナレ  
 ハナリ、之ヲ思想發達ノ第一段トナス、何トナレハ轉化ハ有無ノ綜合ニシテ、有無ヲ  
 合一シ、之ヨリシテ更ラニ又新タル思想發達ヲ惹キ起セハナリ、此ノ如ク氏ノ論  
 法ハ、フイヒテニ於ケルカ如ク、徹頭徹尾斯ノ正反綜合ノ順序ニヨリ漸々發達シ去  
 ルナリ、故ニ氏ノ論法ハ此三段ノ發達ヲナシ、此ニ一小段落ヲ爲シ、之ヨリシテ、又新  
 タニ發達ヲナスモノナリ、氏ノ辨證法ト稱スルモノハ即チ是レナリ、  
 轉化ニ次キテ來ル思想發達ノ階段ヲ定限ノ有(Daseyn)トナス、是レ前ノ如ク漠然  
 無ト同一ナル有ニアラスシテ、定限ヲ有スルモノナリ、即チ否定ヲ自己ノ中ニ存ス  
 ル有ナリ、尙ホ之ヲ換言スレハ、一ノ性ヲ有スルノ有ナリ、何トナレハ定限セラル、



ニハ、必ラス之ヲ否定スルモノナカルヘカラサレハナリ、次ニ或ル物 (Ding) トナル  
 ル、定限ノ有カ否定セラレ、キハ、之ト同時ニ又自己ノ内ニ反省スルトコロナキヲ  
 得ス、此反省ノ有即チ是レナリ、此ノ如ク、ヘーゲルカ漠然タル無制限ノ思想ヨリシ  
 テ、漸々制限ヲ有スル具體的ニ至ルニハ、常ニ其否定ヲ以テス、是レ「スピノーザ」カ一  
 切ノ否定ハ定限ナリト謂フニ基ツクモノナリ、  
 次ニ來ル範疇ハ之ヲ實有 (Realität) トナス、是レハ前ヨリモ一層定限ヲ加ヘラレタ  
 ルモノニシテ、定限セラレタル有カ、自己ノ内ニ有スル否定トチ相對シテ之ヲ知ル  
 モノナリ、而シテ之ニ對スル否定ハ最早ヤ單純ナル否定ニアラスシテ、他物トナレ  
 リ、而シテ此相對ノモノ一ハ之ヲ自體ト稱シ、他ハ之ヲ他體ト曰フ、然レモ自他ハ是  
 レ定名ニアラス、自即チ是レ他ニシテ、他即チ是レ自ナリ、何トナレハ自ノ思想ノ中  
 己ニ他ノ思想ヲ有シ、他ノ思想ノ中己ニ自ノ思想ヲ有スルモノナレハナリ、此ノ如  
 ク自ハ他トナリ、他ハ自トナリ、轉々無限ニ連續シテ止マルコトナシ、然レモ自ハ是レ  
 他ニ對スルノ自、即チ他ノ他ナリ、之ヲ換言スレハ否定ノ否定ナリ、而シテ二重ノ否  
 定ハ即チ是レ實體ニ復歸スル所以ニシテ、コ、ニ獨立ノ有ヲ生ス、ヘーゲルハ之ヲ

(Fürsichseyn) ト稱セリ、

獨立ノ有ト同時ニ又思想的ナル性質來ル、即チ有限ナルノ結果ハ、其思想的ナルニ  
 アリ、是レ即チ哲學ノ大本元理ナリ、是故ニ如何ナル哲學モ其眞ヲ得ルニ至ルルハ、  
 必ラス又唯心的ナラザルヘカラス、獨立ノ有ハ是レ多ナリ、何トナレハ自體ト他體  
 ヨリ區別スレハナリ、然レモ又一方ヨリシテ之ヲ見レハ、是レ他ヨリシテ自ヲ區別  
 スト雖モ、自是レ他、他亦是レ自ニシテ、其間秋毫ノ差アルコトナシ、是ニ於テ乎此三者  
 一トナル、引カト衝カトノ如ク、或ハ他ヲ自ト區別シテ多トナリ、或ハ他ト自ト合シ  
 テ一トナル、此ノ二者ノ關係ヨリシテナル一多ノ區別ナキ間ハ、之ヲ性ト稱スルモ、  
 己ニ一多ノ區別ヲ生スルニ至ルヤ、其性ハ一變シテ量 (Quantität) トナル、  
 量ノ範疇ニ於テハ有、定限ノ有、獨立ノ有、等ノ關係ハ再ヒ繰リ返サレ、單純ナル量、定  
 量如何程及ヒ度トシテ之ヲ觀察スヘシ、單純ナル量 (Reine Quantität) トハ、是レ單純  
 ナル有ニ付スル量ニシテ、之レヲ二トナス、有自體ト同一ナルモノト、及ヒ其中種々  
 ノ個體ヨリシテナルト考フルニ由ルモノト是レナリ、後者ヲ連續ノ量ト云ヒ、前者  
 ヲ斷絶ノ量ト稱ス、五チ一數ト見レハ、斷絶數トナリ、之ヲ五個ノ一ヨリナルト見レ



ハ是レ連續數トナルナリ、故ニ此二者ハ相反對スル如シト雖モ、其實ハ互ニ相假定スルモノナリ、定<sup>〇</sup>量<sup>〇</sup> (Quantum) トハ有限ノ量ナリ、之カ性ヲ十分ニ顯スモノハ、數ナリ、定量トハ外衍的ノ大サヲ云ヒ、度<sup>〇</sup> (Grad) トハ內包的ノ大サヲ云フモノトス、定量トハ本ト是レ單一ナル量ナリ、然レモ之ヲシテ一ノ定量タラシムレハ、又之ヲ其性ト謂ハサルヘカラス、此二者ハ互ニ相離レサルモノナリ、之ヲ性<sup>〇</sup>量<sup>〇</sup>トナス (Mass) 是レハ前二者ノ相合スルモノナリ、性ト量トハ相反スルカ如シト雖モ、實ハ相倚リテ其思想ヲ成スモノナリ、而シテ此二者ノ相合一シテ其區別ヲ滅スルモ、此ニ此二者ヲ有スル所ノ躰ナカルヘカラス、之ヲ本<sup>〇</sup>性<sup>〇</sup>トナス、

本性 (Wesen) トハ、第二ノ大範疇ニシテ、否定ニヨリテ自己ノ中ニ反省シナレルモノナリ、本性ニハ先ツ單純ナル反省、殊ニ同一、差別及ヒ根本ナル性質屬ス、通常同一、差別ノ二ヲ以テ論理上ニ所謂元理トナス、是レ僻見ノ甚シキモノナリ、蓋シ通常ノ論理學ニテハ此二者ヲ以テ互ニ相容レサルモノトナセハナリ、哲學上正當ノ理論ヨリシテ之ヲ謂ヘハ、此二者ハ須ラク之ヲ同一トナサ、ルヘカラス、而シテ此二ノモノハ根本ナル範疇ニ於テ包含セラル、同一トハ自己ト自己トノ關係ナリ、差別トハ

自己ト他物トノ關係ナリ、然レモ自己ヲ自己ト關係セシムルニハ、必ラス又之ヲ他物ト區別セサルヘカラス、吾人カ自己ノ同一ナルヲ知ルニハ外界万有殊ニ動物ト之ヲ區別スルヲ要スルカ如シ、

根本 (Grunda) トハ此二者ヲ合一シタルモノナリ、本性ハ實在ノ根本ナリ、實<sup>〇</sup>在<sup>〇</sup> (Existing) ハ自己ニ對スル同一ト他物ニ對スル差別トノ二性相合シテ成ルモノナリ、此二者ハ決シテ相離レ得ルニアラス、實在スルモノハ之ヲ物 (Das Ding) ト稱ス、是レ根本ト實在ト合スルモノナリ、物ノ實在ハ其中ニ必ラス撞着ヲ有ス、即チ自己ニ於ケル成立ト、他物理ニ於ケル反省ト是レナリ、之ヲ換言スレハ、物質ト形態ト是レナリ、此點ヨリシテ云ヘハ實在ハ顯<sup>〇</sup>象<sup>〇</sup> (Erscheinung) ナリ、是レ本性ノ外ニ發表シ出テタルモノナリ、本性ヨリ區別セラレ、本性ノ直接ニ顯ハレ出ツルモノハ、之ヲ顯象界トナス、是レ發表ナリ、故ニ本性ト云フモ決シテ顯象界ノ後ニアリテ、之ヨリ全ク隔絶超越シタルモノニアラス、本性ハ其能ク外ニ顯ハレ出ツルカ、故ニ本性タルヲ得ルナリ、又顯象ハ其内ニ本性ヲ有スルカ故ニ顯象タルヲ得ルナリ、之ヲ換言スレハ、本性即チ顯象ナリ、顯象ヲ離レテ別ニ本性ナケレハナリ、顯象即チ本性ナリ、本性ヲ離レテ更



ラニ顯象ナケレハナリ、但シ此ニ注意スヘキハ、單純ナル有ト顯象トノ區別ナリ、其ニ直接的ノモノナリト雖モ、顯象ハ有ノ一段進ミタルモノナリ、何トナレハ有ハ單ニ直接的ニシテ、他物ト關係シ、又自己ノ内ニ反省スルコトナシト雖モ、顯象ハ他物ト相關シ、自己ノ内ニ反省シナレルモノナレハナリ、然レモ顯象界ナルモノハ此ノ如ク本性ナクンハ、自己ノミニテ獨立シ實在シ得サルニヨリ、尙ホ十分ナリトハ自ラヘカラス、此不完全ナルノ點ハ次ノ範疇現實ノ存在ニ於テ之ヲ補フヲ得ルナリ、

現實ノ存在 (Wirklichkeit) トハ本性ト實在、即チ内部ト外部ト合一シテ、吾人カ直接ニ知ルヲ得ルニ至ルモノヲ云フ、之ニ實躰屬性ノ關係、原因結果ノ關係、及ヒ相互ノ作用屬ス、實躰トハ屬性ノ合計ナリ、之カ爲ニ發表シテ屬性トナルナリ、又實躰カ内ニ反省シテ始原ノ事實ナルモノハ、即チ原因ナリ、而シテ之ニ對スルモノハ結果ナリ、此二者ハ互ニ相獨立スルカ如シト雖モ、決シテ然ラス、因ハ果アルニヨリテ因タリ、果ハ因アルニヨリテ果タルナリ、故ニ如何ナルモノモ一方ヨリ之ヲ見レハ、之レ因タリト雖モ、他ノ一方ヨリ云ヘハ、是レ果タルナリ、一物ハ時間上ニ於テ因タリ

果タルノミナラス、又空間上ニ於テ因タリ果タルヲ得、空間上ニ於ケル因果ノ關係ヲ立ツ相互ノ作用ニ命名ス、此ノ如ク本性カ有ト相合シ、單ニ直接的ニ吾人ニ知ラレ得ルニ至ルモノハ之ヲ思想 (Begriff) トナス、

思想ハ第三ノ大ナル範疇ナリ、是レ前二大範疇ノ本性ト有トノ相合シテ成ルトコロナリ、獨立ノ自由ナル實躰のカナリ、主觀的思想ハ先ツ展開シテ (一) 思想、自躰トナリ、其中ニハ普性、特性、及ヒ個性トノ三元素ヲ包含ス、(二) 判斷トナル是レ區別セラレタル思想ノ互ニ相連續シテナルモノナリ、是レ又發達シテ性質上ノ判斷、反省的判斷、及ヒ三段論法トナル、三段論法ノ一段進歩シタルモノハ、之ヲ客觀 (Object) トナス、主觀的ノモノカ一眺シテ客觀トナルトハ、頗ル怪シムヘキカ如シト雖モ、其實決シテ然ラス、客觀トハ通常獨立實在シ、自家ニ於テ已ニ完全ナルモノヲ意義スルナリ、而シテ自家ニ於テ完全ナルモノハ、思想ノ完全ナル躰ヨリ外之ナキナリ、故ニ主觀ニシテ一層進歩スルモ、即チ客觀トナルモノナリ、而シテ客觀ハ器械力、化學力、及ヒ目的順應 (Mechanismus, Chemismus, und Teleologie) ノ三段階ヲ經テ進歩ス、其物躰ニ於ケル目的力、其儘實質界ニ實顯セラル、ヤ、思想ハ即チ物躰ノ真正ノ本性トシテ



表彰セラル、モノナリ、而シテ思想ト實在トカ一致スルトコロ、即チ之ヲ換言スレハ、主觀ト客觀トカ合一シ、以テ獨立ノ自體ヲ爲スルハ之ヲ理想(Idee)ト稱ス、理想發達ノ順序ハ、即チ生活、智識及ヒ絶對的理想ト是レナリ、絶對的理想トハ思想ノ純然タル形ニシテ、自知ノ眞體、絶對的眞理、或ハ自考的理想トモ稱スヘキナリ、理想ノ實體トナレルモノハ、是レ宇宙ナリ、

宇宙トハ已ニ云フカ如ク、理想ノ自ラ客觀化シタルモノナリ、即チ理想カ更ラニ又最初ノ直接的ノ形ニ復歸シタルナリ、而シテ此客觀化シタル理想ハ、又種々ノ階段ヲ經テ進化發達ス、始メハ空間時間ニ於ケル抽象的客觀ナリト雖モ、漸々主觀的ニ開發シ、遂ニ動物界ニ於ケル個體ノ如キ獨立體トナルニ至ルナリ、其主ナル階段ハ器械的、物理的、及ヒ有機的ノ物體是レナリ、固ヨリ從來述ヘ來リタル階段ナルモノハ、時間上ニ此ノ如ク展開スト云フニアラス、吾人ノ精神ナルモノハ、此ノ如キ歴史ヲ有スト云フノミ、若シ其レ、宇宙ニ於テ之ヲ論セハ、是レ皆同時ニ成ルモノナリ、是故ニ辨證法ニ於テ最後ニ開發シ來ルモノモ、唯是レ精神的ノ生活ニ於ケル順序ヨリ云ヘハ、最後ニナルモノト雖モ、論理的ニ之ヲ云ヘハ、最下ナルモノ、理想的根本

ヲ形成スルモノナリ、

ヘーゲル哲學ニ付キテハ古來之ヲ批評スルモノ頗ル尠シニアラスト、雖モ、多クハ是レ杜撰ノ評論タルヲ免レス、其中尤モ吾人ノ重キヲ措クヘキハ、次ノ二條ニアリトス、

(一) 「ヘーゲル」ノ論理學ニ云フ所ハ、是レ物體ノ本體論ニシテ、時間ノ思想ヲ全ク除去シタルモノナリ、而シテ「ヘーゲル」ハ歴史的發展モ亦此思想發達ト同一ノ順序ヲ以テ進歩ストセリ、然ラハ其物體本體ノ論ト歴史的發展ノ論トハ如何ニシテ互ニ相交涉スヘキカ、是レ其疑問ノ一ナリトス、

(二) 次ニ主觀ト客觀トハ是レ相對的ノモノニシテ或點ヨリシテ之ヲ云ヘハ、互ニ反對シテ相容レサルモノナリ、而ルニ「ヘーゲル」ハ主觀的ノモノヨリシテ直チニ客觀ニ移リ行カントセリ、主觀存セサレハ客觀ハ如何シテ獨リ存在シ得ヘキカ、是レ疑問ノ二ナリ、

以上ノ二問ハ實ニ「ヘーゲル」哲學ニ於テ一大打擊ヲ與アルモノナリ、固ヨリ之ヲ辨解スルノ方法ハ全ク絶スルニアラスト、雖モ、議論深遠ニ涉リテ「ヘーゲル」哲學ヲ熟



知スルニアラサレハ、到底之ヲ解釋スル能ハサルニヨリ、此ニハ之ヲ零スヘシ、終リニ

(六) 先天的唯心論

ト稱スルモノアリ、是レ「カント」シオツベンハワ「諸氏」ノ唱フル所ニ係ル、先天的トハ、先天的ト異ナレリ、先天的ノ思想ト云ヘハ、吾人カ生レナカラニシテ付與セラレタル思想是レナリ、而ルニ先天的ノ概念ト云ヘハ、其概念タル固ヨリ先天的ナリ、然レモ單ニ先天的ノミニテハ其思想カ果シテ外界物ト相應シテ確實ナルヲ得ルモノナリヤ否ヤ、即チ之ヲ換言スレハ單ニ吾人ノ空想ニアラサル乎否ヤチ知ルヲ能ハス、此先天的ノ思想ニシテ又能ク外界物トニ應用シテ誤ラサルモノ之ヲ先天的トハ稱スルナリ、是故ニ先天的唯心論トハ吾人ニ種々ノ先天的直觀或ハ概念ナルモノ付與セラレ然レモ此直觀或ハ概念ノミニヨリテ(フイヒテ)ノ主觀的唯心論ヲ唱フル如ク外界万物カ生レ來ルニアラス、外界ニハ又一種ノ秩序ナキ物トアリ、此物トハ材料ノ如ク先天的直觀及ヒ概念ハ形式ノ如シ、此二者相合シテ、而シテ吾人ノ知識ハ成ルナリ、外界万物即チ顯象ナルモノモ成立スルヲ得ルナリ、

此二者ニシテ孰レノ一チ欠クモ、外界万物ハ成立スルヲ得ス、即チ吾人ノ先天的ニ賦與セラレタル概念及ヒ直觀ハ、是レ万物ニ秩序ヲ與ヘ、又万物ヲシテ成立セシムル所以ノ必要條件ナリ、故ニ一方ヨリシテ之ヲ云ヘハ、此物ナクンハ万物ハ到底存在スルヲ得サルナリ、是ヲ以テ之ヲ先天的唯心論トハ稱スルナリ、  
「カント」ノ說ノ大要ハ次ノ如シ、  
「カント」ハ其純粹理性評論(即チ氏ノ知識論)ノ開卷第一章ニ於テ曰ヘリ、吾人ノ知識ガ經驗ヲ以テ始マルトハ、毫モ之ヲ疑フヘカラサルナリ、然レモ又決シテ之ヨリシテ生シ來ルモノニアラス、反テ吾人ノ經驗ヲ爲シ得ルニハ、必ラス先天的元理ノ之ヲ助クルナカルヘカラサルナリ、純粹理性評論ハ、知識の能力ノ批評的分析ニヨリテ、以テ外界知識ニ必用ナル先天的元理ヲ探究スルニアリ、而シテ此知識ノ能力ノ批評的研究ハ、之ヲ先天的哲學ト稱スルナリ、故ニ此哲學ニアリテハ、單ニ智識ノ如何ニシテ成立シ得ル乎トノ方法ヲ探究スルノミニシテ、決シテ外界物ト如何ニテ論スルモノニアラス、即チ吾人カ先天的智識ノ如何ニシテ成立シ得ル乎、又其元理



ノ應用シ得ラル、廣狹範圍ハ如何等ノ問題ヲ研究スルナリ、是レ真正ノ哲學ニ途ヲ啓ク所以ナリ、

已ニ云フ吾人ノ知識ハ經驗ニ始マル、而シテ經驗ヲ以テ足レリトセス、經驗ハ知覺ノ連續複合シテ成レルモノニ過キス、先天的ノ思想ノ之ヲ助クルナケレハ、決シテ吾人ノ知識ヲ成ス可能ハサルナリト、然ラハ先天的ノ思想ト經驗的ノ思想トハ如何ニシテ之ヲ區別スヘキヤ、其標準トスル所ハ果シテ何處ニ存スル乎、曰ク先天的知識ノ標準ハ普通ト必然ノ性ト是レナリ、經驗ハ實ニ吾人ニ其如何ナルモノナリヤヲ知ラシムルノミニシテ、何故ニ必ラス此ノ如クナラサルヘカラサル乎、何故ニ他ノモノナルヲ得サル乎、等ニ付キテハ一言之ヲ告クルモノニアラス、故ニ經驗ハ唯比較的ニ普通ト必然トノ性ヲ有スト雖モ、斷然タル二性ハ此ノモノ、決シテ有シ得ル所ニアラス、之ヲ換言スレハ經驗ニハ決シテ格外ノ事例アラストハ斷言スルヲ能ハサルナリ、此性ハ唯先天知識ノ獨有スルトコロトス、且ツヤ吾人カ知識ノ範圍ニ於テ、普通ニシテ必然ナル判斷ヲ有スルコトハ固ヨリ又影々トシテ蔽フヘカラサルノ事實ナリ、變化ハ總ヘテ其原因ヲ有ストノ判斷ノ如キハ、明ラカニ是

レ先天的ノモノタリ、其故何トナレハ變化トハ單ニ是レ事物ノ其状態ヲ新タニスルノ謂ニ外ナラス、是故ニ其思想ノ中ニ於テハ毫モ原因ノ概念ヲ有スルナシ、而シテ是レ普通のモノタリ、加之先天的元理ノ存スルナクンハ、吾人ノ經驗モ到底成立スル能ハザルナリ、即チ斯ノ元理ノ實在スルヤ又間然スルトコロヲキナリト、氏ハ次ニ感性ノヲ論シ、時間及ヒ空間ヲ以テ先天的ノ直觀ナリトシ、之ヲ以テ數學ノ成立シ得ル根基ト認ム、氏ハ空間ノ先天的ナルヲ證シテ、次ノ如クニ論セリ、

- (一) 空間ハ外界經驗ヨリシテ抽象シ來リタル思想ニアラス、何トナレハ吾人カ外物ノ位置ヲ知ル所以ノモノハ總ヘテ此思想ノ助ケニヨラサルヘカラサルレハナリ、故ニ空間ハ唯ニ經驗ニ獨立シ存在スルノミナラス、經驗ヲシテ成立セシムル所以ノモノナリ、
- (二) 空間ハ總ヘテ外界知覺ノ基本ヲ形成スル先天的ノ思想ナリ、何トナレハ吾人ハ到底空間ハ存在セストノ思想ヲ考フルヲ能ハサレハナリ、是レ第一ノ證明ヲ反面ヨリシテ見タルモノナリ、
- (三) 空間ハ万物ニ於ケル關係ヨリ推論シ得タル思想ニアラス、是レ純然タル



直觀的ノモノナリ、何トナレハ吾人ハ空間ヲ以テ唯一ノ無限ニ連續シタルモノト考ヘ、其ノ一々ノ部分ハ總ヘテ其ノ一大空間ノ部分ト見ナスヘケレハナリ。

(四) 空間ハ吾人ニ無限ノ大サヲ顯ハスモノナリ、乃チ其中ニ於テ表彰ノ無限ノ數ヲ含ム、然レモ無限數ノ思想ヲ自家ニ包含スルカ如キ浩大ナル思想ハ、吾人ノ能ク考ヘ得ルトコロニアラス、故ニ空間ノ思想ハ、先天的ニ吾人ノ直觀トシテ付與セラレタルモノナラサルヘカラス、是レ亦第三ノ證明ヲ反面ヨリ見タルモノニ過キス。

以上之ヲ空間ノ先天的ナル證明トナス、時間ノ先天的直觀タル、亦タ以テ類推スヘキナリ。

已ニ云フカ如ク空間ハ吾人ノ主觀的形式タルカ故ニ、此形式ヲ通セサレハ吾人ハ外界ノ一物モ之ヲ知覺スルコト能ハサルナリ、而モ又之ヲ以テ物ノ眞體ノ形式トナスニハアラス、唯其發表スルニ於テ必ズス通セサルヘカラスナルノ形式タルノミ、即チ之ヲ換言スレハ、吾人カ視テ以テ外界物體トナスモノハ、空間ノ理總ヘテ之ヲ包

含スト雖モ、其物自體ハ之ヲ吾人カ感シ得ルト否ヤトニ關ハラス、空間ノ中ニ存在スト云フコトハ是レナキナリ、故ニ空間ト云ヒ、或ハ廣延アル物體等ト稱スルハ、全ク是レ吾人々類ノ觀點ヨリシテ云フモノナリ、今若シ吾人ノ主觀的情件ヲ除去シ、吾人ノ感性ニ於テ之ヲ知覺スルコトナクハ、空間ノ思想モ亦ク是レ無義ノコトナルヘシ、之ヲ譬ヘハ猶ホ近視眼ノ人カ、眼鏡ヲ用ヒテ始メテ外界物體ヲ認識シ得ルカ如シ、眼鏡ハ即チ形式ナリ、眼鏡ヲ通セサレハ外界物體ノ知覺ハ決シテ之ヲ得ルコト能ハサルナリ、此ノ如ク眼鏡ハ外物ノ知覺ニハ必用ナリト雖モ、而モ之ヲ以テ外界物體ヲ定限スルモノトハ云フヘカラサルナリ、是故ニ吾人ハ當共ニ次ノ如ク云フヘシ、外界物體ノ吾人ニ表彰セラル、ハ知覺ニ關シテ之ヲ云フコトハ、是レ實有ノモノナリ、即チ客觀的ニ正確ノモノナリ、然レモ吾人ノ感性ニ關係ナク、理性ニ關リテ外物ヲ眞實體トシテ考フルコトハ、是レ單ニ理想的ノモノナリト。

空間ニ於ケルト同一ノ理由ヲ以テ、カントハ時間ノ經驗的實有ノモノニシテ、超越的理想ノモノタルヲ證セリ、曰ク時間ハ吾人ノ知覺及ヒ自己心狀ノ直觀タルニ過キス、是レ吾人ノ心理ニ於ケル種々ノ思想ノ關係ヲ定ムル所以ノモノナリ、而シ



テ外界顯象ハ、總ヘテ吾人ノ心理ニ映シテ始メテ吾人ニ知ラル、モノナレハ、時間ハ吾人カ心理ノ状態ノ形式タルト同時ニ、又間接的ニ外界物體ノ形式タラサルヲ得ス、且ツ時間ハ主觀ヲ離レテハ是レ空虚ノモノナリ、故ニ時間ハ内界經驗ニ關シテハ主觀的實有ナリ、

此ノ如ク時間及ヒ空間ハ共ニ主觀ヲ離レテハ獨立シ存在スルコト能ハス、唯吾人ハ外界ヲ知覺スルニ於テ、必用欠クヘカラサルノ形式タルニ過キササルモノナレハ、是レ亦吾人ノ知覺シ得ル物體ニノミ應用シ得ルモノナリ、即チ語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ、感覺的物體ニ付キテノミ之ヲ云フヘクシテ、決シテ物ノ眞實體ニ付キテハ之ヲ言フヘカラサルナリ、顯象界ハ吾人之ヲ知ルコトヲ得ト雖モ、眞實體ニ至リテハ吾人一毫ノ智識モ之ヲ得ルコト能ハサルナリ、何トナレハ、吾人カ直觀ノ形式ハ、顯象界(即チ吾人ノ知覺スル世界)ニノミ限ラル、モノナレハナリ、否、顯象界ハ之ヲ俟チテ始メテ成立シ得ルモノナレハナリ、

以上ハ吾人ノ感性ニ付キテ之ヲ云フモノナリ、吾人カ悟性(即チ判斷ノ能力)ニ付キテハ更ラニ次ノ如クニ論セリ、

吾人カ悟性ノ作用ハ物ヲ判斷スルニアリ、故ニ又之ヲ以テ判斷ノ能力ト稱ス、吾人ノ感性ハ、毫モ物ヲ考フルコト能ハサルカ、如ク悟性ハ、決シテ之ヲ觀ルコト能ハサルナリ、故ニ感性ハ直觀知覺ノ由リテ以テ生スル所ノ力ニシテ、悟性ハ思想ノ形式ヲ有シ、吾人ノ知識ヲシテ成立セシムル所以ノ力ナリ、思想ノ形式トハ、先天的概念是レナリ、判斷トハ此先天的ニ存在スル概念ノ力ニヨリ、吾人ノ感性ノ門ヨリ入り來リタル材料ヲ綜合的ニ連結セシメタルモノ是レナリ、此結合ノ基本タル所ノ先天的元理ノ如何ナルモノナリヤヲ發見スルカ爲メニハ、此ニ十分ノ判斷ニ於ケル歸一ノ作用ヲ示サ、ルヘカラス、

今若シ吾人カ判斷ニ於ケル内容判斷ノ言ヒ顯ハス事實ヲ抽象シ、單ニ其知力上ノ形式ニ付キテノミ考フルルハ、判斷ノ種類ヲ次ノ如クニ彙類スルコトヲ得ヘシ、

單稱的判斷……………正成ハ人ナリ

數量特稱的判斷……………或ル人ハ不忠ナリ

全稱的判斷……………總ヘテ人ハ死ス

肯定的判斷……………人ハ高等動物ナリ



性質 否定的判斷……植物ハ動物ニアラス

無限的判斷(或ハ有限)……靈魂ハ不滅ナリ

合式的判斷……人ハ万物ノ靈ナリ

關係 假設的判斷……雨降レハ地濡フ

離接的判斷……三角ハ銳角ナルカ、直角ナルカ、若クハ鈍角  
ナラサルヘカラス

未決的判斷……動物モ恐ラクハ理性ヲ有スヘシ

論勢 斷定的判斷……人ハ理性ヲ有ス

必然的判斷……生アルモノハ必ラス死ス

此等ノ判斷ヨリシテ、吾人ハ其判斷ノ由リテ以テ成立スル所ノ始原的概念ナルモノヲ推定スルヲ得ルナリ、始原的概念トハ吾人ノ悟性ノ先天的ニ有スルモノナレハ、之ヲ悟性ノ純然タル概念、若シクハ範疇ト稱ス、故ニ範疇ハ先天的ニ直觀的物、躰ニ應用シ得ル性質ヲ有スルモノニシテ、(即チ先天的ナルナリ)其數亦判斷ト相應セサルヘカラス、之ヲ表ニ列スルトキハ次ノ如クナルヘシ

數量……多

全

實有

性質……否有

有限

實躰及ヒ屬性

關係……因果及ヒ偶生

共作及ヒ互用

可成及ヒ不成

論勢……實在及ヒ不在

必然及ヒ偶然

此等ノ範疇ハ即チ是レ先天的ニ吾人ニ付與セラレタル概念ニシテ、之ニヨリテ總ヘテノ知識即チ判斷ノ形カ一定スルモノナリ、是レ吾人ノ心ニ於ケル自然ノ活動ニシテ、單ニ思想連合ノ如キ器械的ノ作用ニアラサルナリ、而シテ其能ク千種万類



ノ外界ノ事象ヲ見テ之ヲ統一スル所以ノモノハ、即チ是レ意識ノ統一ニシテ、カントハ之ヲ自覺ノ綜合的統一ト稱セリ、

範疇ニシテ果シテ先天的ニ吾人ニ付與セラル、モノナラシメハ、其内界ニ存在スルモノカ、如何ニシテ外界物體ニ應用セラレ得ル乎、曰ク範疇ナルモノハ、必ラス外物ニ適應セサルヘカラサルナリ、何トナレハ外界物體ハ唯之ヲ通シテ、始メテ吾人ニ考ヘラレ得ルモノナレハナリ、若シ此等ノ範疇ニシテ存在セザラン乎、如何ナルモノモ吾人カ經驗ノ目的物トナルヲ得サルナリ、唯之ヲ通シ吾人ノ悟性ニ來リ、始メテ經驗トナルヲ得ルナリ、故ニ範疇カ外物ニ適應スルヲ得ト云フニアラスシテ、寧ロ外物ハ必ラス範疇ニ一致セサルヘカラサルナリ、先天的概念ノ範疇カ客觀的正確ヲ得ル所以ノモノハ、實ニ此ニアリ、若シ此等ノモノナクハ、外界ハ秩序ナク、多變ニシテ、毫モ吾人ノ所謂物體ヲ成立スルヲ能ハサルナリ、是故ニ範疇ナルモノハ、單ニ先天的ナルニアラスシテ、之ヲ先在的ナリト云フナリ、

然ラハ如何ニシテ此内界ノ先天的概念カ、全ク之ト隔絶シタル多變ノ物質界ト相交渉スルヲ得ル乎、抑モ悟性ノ先天的概念ナルモノハ、經驗的直觀ト全然其類ヲ

異ニスルナリ、而シテ外界物體カ概念ノ下ニ映寫統一セラル、ニハ、是レ必ラス其類ヲ同フセサルヘカラサルノ理ナリ、然ラハ果シテ何レノ處ニ於テカ其同一ノ點ヲ發見スヘキ乎、カントノ曰ク然リ、是故ニ此兩者ノ間ニハ必ラス第三者存セザルヘカラス、而シテ此第三者ハ前兩者ノ性質ヲ共有スルモノナリ、是レ吾人カ想像ノ先在的綜合ニヨリテ生セラレタル思想ナリトス、而シテカントハ之ヲ悟性ノ先在的中立者ト稱セリ、即チ此中立者ハ一方ニアリテハ知力的ノ性ヲ有シ、他方ニアリテハ又感覺的ノ性ヲ有スルナリ、今時間ナルモノヲ考フルニ、方サニ之ニ該當ス、先天的形式トシテハ、一方ニアリテ範疇ト其類ヲ同フシ、感覺ノ形式トシテハ、他方ニアリテ顯象ト其類ヲ共ニス、故ニ範疇ノ顯象ニ應用シ得ルハ、全ク時間ノ先在的作

用ニヨリテ成ルモノナリ、即チ性質、數量、關係、及ヒ論勢ハ、時間ノ連續的性質、時間ノ内容、時間ノ秩序、及ヒ一般ノ時間ニヨリテ生スルモノナリ、更ラニ此ニ注意スヘキハ、カントノ所謂眞實體ナルモノ是レナリ、カントノ所謂眞實體トハ果シテ如何ナルモノナル乎、是レ吾人ノ到底知ルヘカラサルモノナリト雖、氏ハ之ニ二重ノ意義ヲ付セリ、二重トハ何ソ、曰ク肯定的、曰ク否定的ト是レナ



リ、否定的意義ヨリシテ之ヲ云ヘハ、吾人ノ知識ハ單ニ顯象界ニノミ限ラレ、之ヨリ  
 以上ハ秋毫モ知ルコト能ハサルナリ、而シテ其知ルヘカラサル所ヲ目シテ姑ラク眞  
 實界ト稱スルノミ、然レモ更ラニ肯定的ノ意義ヨリシテ之ヲ云フモ、宇宙ニ吾人  
 ニ知ルヘカラサル所ノモノアリ、之ヲ眞實界ト稱ス、而シテ此眞實界ハ總ヘテ吾人  
 ノ知覺シ得ル顯象界ノ本界ヲ形成スルモノニシテ、吾人知識ノ範疇以外ニ存スル  
 モノトナスナリ、一ハ即チ單ニ吾人ノ知識ノ限界ヲナスモノトナシ、一ハ即チ眞ニ  
 眞實界ナルモノカ存在スル如クニ云フナリ、然ルニ「カント」ハ第一ノ意義ヲ以テ眞  
 實界ノ正當ナル意義ナリトセリ、是故ニ氏ハ又曰ヘリ、吾人ハ眞實界ノ果シテ如何  
 ナルモノナリヤヲ知ルコト得ス、又之ヲ知ルノ必用ナキナリ、何トナレハ物界ノ吾  
 人ニ表彰セラル、ヤ、顯象界ノ外更ラニ之ヲ知レハナリト、又曰ク眞實界ノ存在ハ  
 未決的ノモノナリ、其思想ノ果シテ可成的ナリヤ、可成的トハ形成シ得ルコトナリ、將  
 タ不可成的ナリヤ、之ヲ知ルヘカラサルナリ、何トナレハ是レ感覺的形式及ヒ範疇  
 ノ支配以外ニアルモノナレハナリト、以テ「カント」ノ思想ノ如何ニ曖昧ナル乎ヲ知  
 ルヘキナリ、

吾人ハ懷疑的哲學ヲ取ラス、又獨斷的哲學ヲモ取ラス、乃チ「カント」ノ批評的哲學ハ  
 近世哲學者ノ一般ニ是認スル所ニシテ、吾人亦之ヲ取ラサルヘカラサルナリ、カ  
 トノ哲學的方法ハ吾人之ヲ是認セサルヲ得スト、雖モ「カント」ノ學說ニ至リテハ、  
 底之ヲ許諾スル能ハサルナリ、「カント」ノ哲學ニ於テ批評スヘキ點ハ固ヨリ夥多  
 リト雖モ、殊ニ其哲學ノ骨髓タル顯象、眞實兩界ノ區別ニ於テ、其服スヘカラサル  
 見ルナリ、「カント」ノ此二界ヲ分ツハ實ニ杜撰ノ極ニシテ議論ノ始メヨリシテ獨斷  
 的ニ之ヲ定ムルノ風ナキニアラス、何トナレハ氏ハ何故ニ此二界ヲ分立セサルハ  
 カラサル乎、何故ニ此二界ハ存在セサルヘカラサル乎、等ノ疑問ニ付キテハ、毫モ之  
 ヲ證明セス、唯此ノ如キ二界ハ存在スルモノト獨斷的ニ考フルモノナレハナリ、加  
 之、其眞實界ト顯象界即チ知識ノ對象トノ間ニ於ケル關係ニ至リテモ、甚タ曖昧  
 ルヲ免レス、是故ニ此點ニ付キテハ古說紛々タリ、或ハ曰ク「カント」ハ眞實界ヲ以テ  
 顯象ノ大本トナシ、吾人ノ知識ノ對象トナリ表顯スルモノトナスナリト、然ルニ「  
 オツベンハワー」ノ如キハ、顯象眞實二界ノ外別ニ知識ノ對象ヲ立ツ、即チ其關係ハ

顯象界——知識ノ對象——眞實界



ト云フカ如クニ三個ノモノ、存在ヲ唱アルモノトセリ、カントノ言タル曖昧ナルカ故ニ固ヨリ遠カニ其是非ヲ判スルヲ難シト雖也。余ヲ以テ之ヲ見レハ、シホツバシハ「ワ」ノ説其當ヲ得ルカ如シ、「ヘーゲル」ニ至リテハ此二者ノ關係ヲ論スルヲ實ニ其完全ノ域ニ到達シ、此二者ヲ以テ一ニシテ二ナラストセリ、吾人ハ「ヘーゲル」服スルモノニアラスト雖也、此點ニ於テハ氏ニ左袒セサルヲ得サルナリ、「ヘーゲル」ノ説ノ如何ハ、前已ニ之ヲ略述シタレハ、今此ニ之ヲ述ヘス、「ヘーゲル」ノ論ヲ熟讀シテ、而ル後、カントノ説ヲ讀メハ思ヒ半ハニ過キソ、

(乙) 實有論

唯心論ニ反對スルモノ之ヲ實有論トナス、實有論トハ外界ニ於テ主觀ヨリ獨立シ、即チ之ヲ換言スレハ、吾人ノ之ヲ知覺スルト否ヤトニ關セス、外物ノ實在スルヲ信スルモノナリ、而シテ其物體ナルモノハ、實ニ吾人カ之ヲ知覺スルカ如クニ存在シ、吾人ノ知覺ハ元來此物ノ感化ニヨリテ生シ來ルモノナリトナス、此中又二種ノ別アリ、

(一) 單純的實有論

是レハ哲學ノ歷史上極初ニ於テ起ルトコロノモノニシテ、全ク獨斷的ノ性質ヲ帶ヒ、批評的方法ニ反對スルモノナリ、抑モ吾人カ知力ノ發達スル方向ハ、常ニ外ヲシテ内ニ入り來ルモノナリ、小兒ハ其始メ我カ主觀ノ存在スルヲ知ラス、而シテ唯目前ニ現存スル物體ノ存在ヲ知ルノミナリ、譬ヘハ猶ホ吾人ノ眼ハ物ヲ見ル所以ノ切要ナル機具ナリト雖也、嬰兒ハ自己ノ眼ノ具ハルヲ知ラスシテ、唯外界ニ物體ノアルヲ知ルノミナルカ如シ、然ルニ智識漸ク進歩シ、而ル後始メテ外界ニ對スル内界ニ我ナルモノ、存在スルヲ推知スルナリ、一切ノ心理的發達ノ順序已ニ此ノ如シ、哲學ヲ説ノ開發ニ於クルモ亦復然ルナリ、希臘古代ノ哲學ハ總ヘテ皆宇宙ノヲ論シ、毫モ吾人カ心理的作用ニハ論及セス、之ニ論及シタルモノハ實ニ詭辯學派ヲ以テ嚆矢トナス、此時ニ當リテハ多少吾人カ精神ノ存在ヲ認ムルナキニハアラスト雖也、而モ其未タ精到ナル研究ノ其腦中ニ存在セサルヤ、毫モ疑ハテ容ルヘキニアラサルナリ、乃チ外界物體カ實在スルノ信ハ、固ヨリ又怪シムヘキナシ、何トナレハ心理的作用ノ之ニ對シ存在スルヲ認メサルモノナレハナリ、是故ニ此單純的實有論ハ、實ニ哲學ノ始メヲナスモノト謂ヒテ不可ナカルヘシ、



蓋シ此種ノ議論ハ非哲學的ニシテ、毫モ批評的ノ性質ヲ有セス、吾人ハ知覺ナケレハ決シテ外界物體ノ存在スルコトヲ認ムル能ハス、然ルニ此論ハ何故ニ知覺ヲ離レテ外界物體カ實在シ得ル乎ヲ證明セス、又吾人ノ知覺ナルモノハ、抑モ如何ナル作用ナル乎、認識トハ如何ニシテ生スルモノナル乎ヲ知ラス、乃チ此論ノ哲學上大ナル價值ヲ有スルモノニアラサル知ルヘキナリ、

(二) 先在的實有論

ト稱ス、是レ近世哲學者ハルトマン諸氏ノ唱フル所ニ係ル、先在的實有論ハ又之ヲ唯心實有論トモ稱スルナリ、是レ或ル意義ヨリ云ヘハ實有論ナリト雖モ、其實ハ「ハルトマン」唯心論ト通常ノ實有論トノ折中說トモ云フヘキモノナリ、

「ハルトマン」學說ノ大要ハ次ノ如シ、  
以爲ラク、世界ノ本體ハ無意識精神ナリ、是レ思想ト意志トノ兩性ヲ有スルモノナリト、「ハルトマン」ハ實ニ「シオツベンハワイ」ト、「ヘーゲル」トヲ合一シテ、以テ己レノ哲學ヲ組織セルナリ、氏以爲ラク、「ヘーゲル」ハ宇宙ノ万有ヲ以テ論理的思想トナスト

雖モ、果シテ論理的思想ノミニシテ、意志ノ作用ナケレハ、宇宙ノ實在ハ成立スルコト能ハサルナリ、「シオツベンハワイ」曰ク、宇宙ノ本體ハ意志ナリト、然レモ意志ノ不合理的的作用ノミニシテ、毫モ思想ノ性質ヲ有セサルハ、万有ハ決シテ斯クノ如ク能ク目的ニ應シ、進化發達シ行クコト能ハサルナリト、是ニ於テ乎氏ハ此二者ヲ以テ、宇宙大元ノ各一面ヲ見ルモノトナシ、之ヲ合一シテ一個ノ無意識的ナルモノヲ探リ來リ、宇宙ノ万象ヲ以テ悉ク之カ作用性質ニ過キストナセリ、是レ蓋シ「セーリンク」ノ晩年ニ至リテ發表シタル哲學的意見ニヨルモノナル可シ、意志ハ以テ世界万有ノ實際的存在ヲ示シ、思想ハ以テ其理想的本性ヲ教フ、即チ言ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ、意志ハ事物ノ現ニ此ノ如クナルコトヲ顯ハシ、思想ハ其如何ナルモノナル乎ヲ表ス、万有ハ實ニ此ノ如クナリト言フコトハ、決シテ論理的ニ之ヲ説明シ得ルモノニアラス、猶ホ意志ノ作用ノ目的ニ於ケルカ如シ、如何ナルモノナル乎トハ是レ全ク論理的ニ知り得ルモノナリ、猶ホ思想ノ事物ノ性質ニ於ケルカゴトシ、而シテ此本體ヲ無意識ト稱スル所以ノモノハ、此兩者ヲ無意識ニ統合シタルモノナレハナリ、此無意識ナルモノカ、其自己ノ中ニ固有スル目的、即チ思想ニ從ヒ、意志ノ作用ニ



論 概 學 哲

リ、漸ニ開發シ、以テ精神的及ヒ物質的ノ進歩ヲナスニ至ルナリ、故ニ万物ハ總ハテ此無意識的ノ發表スル所ニ外ナラストナス、此ノ如ク無意識ナル一躰カ、兩種ノ方面ニ向フテ發表シ、此ニ一方ニ於テハ精神的顯象トナリ、他方ニ於テハ物質的ノ顯象トナル、是故ニ精神ト物質ナルモノハ其歸着スル根本ニ於テハ一ナリト雖也、之ヲ以テ直チニ此二者ヲ同一ナリトハ云フヘカラサルナリ、精神ハ精神トシテ一方ニ實在シ、物躰ハ物躰トシテ他方ニ實在ス、唯心論者ノ如ク物躰ヲ以テ悉ク精神的作用ニ外ナラストナスヘカラサルカ如ク、又唯物論者ノ如ク、精神ヲ以テ悉ク物質ノ變態ナリトモ謂フヘカラサルナリ、實有論ハ物質的ノ一面ヲ見テ、其精神的發表ノ方面ノ存在スルヲ知ラサルモノナリ、唯心論ハ精神的ノ一面ヲ見テ、其物質的發表ノ方面ノ存在スルヲ了セサルモノナリ、乃チ此二種ノ哲學ハ共ニ吾人ノ取ルヘカラサルナリ、何トナレハ其根本的ノ無意識ニ於テハ、此兩性未タ發顯セスト雖也、已ニ之ヲ潛有スルモノナレハナリ、此ノ如ク物躰ト精神トハ、全ク隔離シテ存在スト云フト雖モ、二元論ニ陥ラス、何トナレハ此二種ノモノハ唯其發表ニ過キサレハナリ、唯其レ發表ニ過キス、是故ニ物質ト

論 概 學 哲

精神トハ各其一方ニ實在シ、以テ直接ニ相交渉スルヲ得ス、而モ同一根本ヨリシテ發生シ來ルモノナレハ、互ヒニ相應シテ顯ニル、ヲ得ルナリ、是故ニ「ハルトマン」ノ說ハ、畢竟スル所平行論ニ歸着セザルヲ得ザルナリ、斯ノ如クナルヲ以テ「ハルトマン」ノ說ハ之ヲ先在的實有論ト稱スルナリ、蓋シ無意識的ノモノカ一方ニ於テハ精神トナルト同時ニ、他方ニ於テ物躰トナリ、此二者兩々相平行シテ進歩開發シ、其間ニ於テハ直接ニ互ニ相關係スルトコロナシトナセハナリ、實有唯心論ナルモノハ抑モ如何ニシテ生シ來リシ乎、凡ソ吾人ハ唯心論ノ云フカ如ク唯、一心ノ作用ノミヨリシテ、宇宙ノ万象ハ決シテ説明スルヲ得ス、何トナレハ客觀ハ主觀ニ對シテ存在シ、此二者ハ決シテ此兩者ノ中ノ何レカーニ歸着スルヲ得ザレハナリ、之ト同シク、吾人ハ又實有論ノ唱フルカ如ク、宇宙ノ万象ヲシテ悉ク外界ノ物質ヨリシテ演繹シ來ルヲ得ス、之ヲ譬フルニ水ハ水酸二素ヨリ成ルモノナリ、是故ニ水素ヲ以テ酸素ノ化生スルモノトモ云フヘカラス、又酸素ヲ以テ水素ノ化生スルモノナリトモ稱スヘカラサルカ如シ、此ノ如ク互ニ相反對シテ



存在スルモノナレハ、其中ノ一ヨリシテ他ヲ演繹シ來ルヲハ、吾人ノ到底成ス能ハサル所ナリ、此單純ナル理由ヨリシテ實有唯心論ハ發生シ來レルモノナリ、然レハ此等兩種ノ哲學ヲ折中スルニ於テ吾人ハ此ニ大ニ注意ヲ要スルモノアリ、若シ之ヲ折中スルニ於テ、單ニ主觀ト客觀トヲ互ニ平行シ、超越シテ存在ストスルハ、是レ今日ニ所謂

平行論

ト稱スルモノトナラサルヲ得ス、是レ主觀ト客觀トハ各其自個ノ自發的ノ力ニヨリテ、進化發達シ、一見スルハ宛モ主觀カ客觀ニ感化ヲ及ホシ又客觀カ主觀ニ感化ヲ及ホスカ如クニ見ユルモ、其實ハ決シテ然ラス、此兩者互ニ相隔絶シテ秋毫モ其間ニ於テ交渉ヲ爲スヲ得サルモノナリ、乃チ其互ニ相交渉スルカ如ク見ユルハ、單ニ是レ皮相ノ見ニシテ、若シ其ノ眞體ニ付キテ之ヲ言フハ、各自別々ニ開發シ去ルモノナリ、而シテ其開發ノ順序ハ、始メヨリシテ其物ニ付與セラル、モノナレハ、内外互ニ相平行シテ進化スルナリト、然レハ此說モ、毫モ哲學上ノ價值ヲ有スルモノニアラス、何トナレハ

(一) 此說ハ一ノ獨斷的假定ヲ有ス、假定トハ何ゾ、曰ク主觀ト客觀トハ全然獨立シタルモノニシテ、其作用ハ互ニ相關係スルヲ能ハサルモノナリトナス、是レナリ、然レハ主觀ト客觀トカ果シテ此ノ如ク全然獨立シタルモノナリヤ否ヤハ、論議上決シテ之ヲ斷言シ得ルヲニアラス、固ヨリ現在ノ世界ニ於テハ、此等ハ全然別物ナリト雖モ、是レハ唯其發顯シタル上ノ一ナル乎モ未タ知ルヘカラス、其發表シタル上ニ付キテ之ヲ見レハ或ハ別ナリトモ、其眞實體ニ於テハ同一ナラスト謂フヲ得サルナリ、何故ニ此等ノモノカ同一ナルヲ得サル乎、何故ニ此等ノモノカ眞實體ノ發表ニ非ラサル乎ヲ十分ニ證明セザレハ、此論ハ到底確立スルヲ得サルモノナリ、

(二) 又此論者ハ心理的ト物質的勢力トヲ全ク其種類ヲ異ニスルモノナリトモ、然レハ是レ又一個ノ獨斷說ト謂ハサルヲ得ス、何トナレハ此等ノモノハ同一動力ノ變態ニアラサルヲ十分ニ證明シ得ザレハナリ、

(三) 次ニ主觀客觀カ各自平行ニ發達スルノ作用ヲ先天的ニ享有スト云フモ、亦是レ一ノ假定ト謂フヘキナリ、何トナレハ若シ之ヲシテ論理上止ムヲ得サルノ餘



果トシテ之ヲ唱フルモノナリトセバ、吾人ハ已ニ其發起點ノ主客兩觀カ全ク別體ナリト謂フコトノ真ナルヲ確知セス、已ニ之ヲ確知スルコトヲ得サレハ、之ヨリシテ、生レ來ル結果ノ又真ニシテ誤ラサルモノタルコトヲ知ルヘカラサレハナリ、又若シ然ラスシテ始メヨリ此ノ如キモノナリト唱フルアラソ乎、是レ一ノ獨斷、既タルヲ免レズ、而シテ哲學上秋毫ノ價值ナキモノナリ、

(四) 又若シ此論者ノ唱フル如ク此兩者カ全ク別物ニシテ、決シテ相交渉スルコト能ハサルモノナリトセハ、吾人ノ知識ハ、到底生スルコトヲ得サルヘシ、吾人ノ知識ハ果シテ得ル能ハサル乎、吾人ハ此ニ疑ナキヲ得ス、若シ知識ニシテ成立シ得トセハ、知識ニ於ケル真偽ノ標準ハ將タ何處ニカ之ヲ求ムヘキ、以上數條ノ理由ニヨリテ、吾人ハ此ノ如キ折中說ノ到底信ヲ措クニ足ラサルモノタルコトヲ斷スルナリ、

次ニ若シ折中說ニシテ、ハルトマン諸氏ノ唱フルカ如ク、無意識(其他如何様ニ之ヲ命名スルモ論スル所ニアラス、唯其絕對ヲ指示スルモノナリトス)等ト稱スル一種ノモノアリテ、之カ分化シテ一方ニハ主觀的作用トナリ、他方ニハ客觀的顯象トナ

ルト說クモノハ、是レ方今哲學者間ニ於ケル普通ノ議論ナリ、然レ此ニ注意スヘキハ若シ此ノ如キ一個ノモノアリテ、之カ兩種ノ互ニ相異ナリタル類ノモノヲ顯スト謂フキハ其絕對的ノモノカ如何ニシテ主觀的トナリ、又客觀的トナル乎、其普通的ノモノト各個顯象トノ間ノ關係ハ如何ヲ説明セサルヘカラス、而シテ是レ決シテ容易ノ事業ニアラス、若シ又兩者ノ普通ノ點ヲ抽象シテ、以テ所謂絕對的ノモノナリトセハ、是レ即チ論ニヨリテ得タル理想上ノモノタルニ過キス、此論必ラスシモ正當ナラスト謂フヘカラサルモ、此ノ如キ論法ヲ以テシテハ、反テ議論ノ繁雜ヲ來シ、困難ノ點ニ遭遇スルコト甚少ニアラサルヘシト信ス、何トナレハ其始メハ單ニ主觀ト客觀トノ關係ニ過キサリシモノカ、反テ主觀客觀ト及ヒ絕對トノ關係トナレハナリ、是故ニ吾人ハ寧ロ此ノ如キ絕對的ノモノガ主觀ト客觀以外ニ別ニ存在ストセスシテ、主觀ト客觀トヲ同一視スルコトヲ欲スルモノナリ、此ノ如クスレハ其關係モ之ヲ説明スルニ當リテ、決シテ繁雜ニ涉ルコトナク、其論法モ稍容易ナルコトヲ得ヘカレハナリ、但シ其詳細ノ點ニ至リテハ、此ニ之ヲ論スルコト能ハス



之ヲ要スルニ、主觀論及ヒ實有論ハ共ニ以テ宇宙ノ所有顯象ヲ説明スルニ足ラズ、唯宇宙一切ノ顯象ヲ説明シ得ル傾向ヲ有スルモノハ、僅カニ實有唯心論アルノミ、然レモ實有唯心論モ其形ニ至リテハ種々ニ論述スルヲ得ルモノナレハ、成ルハクハ主觀ト客觀トヲ合一シ、現在ノ狀態ニ於テハ此ノ如ク全然反對ノ觀ヲ呈スト雖モ、其眞躰ニ付キテ之ヲ云ヘハ決シテ別ナラス、而シテ其眞躰ハ又顯象ヲ離レテ存スルモノニアラス、顯象ハ眞躰アルニヨリテ能ク顯象タルヲ得、眞躰ハ又顯象アルニ由リテ能ク眞躰タルヲ得、眞躰ト顯象トハ畢竟是レ二ナラス、眞躰即チ顯象々々即チ是レ眞躰ト、此ノ如ク論シ來ルモハ議論頗ル簡易トナリ、諸種ノ繁雜ナル關係ヲ説明スルニ於テ、便益ヲ得ルヲ少カラサルヘシ、然レモ此事ヤ又容易ニアラス、必ラス學者ノ熟考ヲ要ス、此ニハ之ヲ詳論スルノ要ナキニヨリ、注意ノ爲メ其論ノ方法ヲ示スニ止マルノミ、

第五 宗教哲學

吾人ハ叙論ニ於テ已ニ云ヘリ、宗教哲學トハ單ニ純正哲學ノ應用ニ過キス、而シテ

此學ハ人生宗教ノ必ラス起ルヘキ所以ヲ論シ、宗教組織ニ於ケル哲學的本躰、即チ思想ヲ研究スルモノナリ、故ニ此學ニ於ケル所ノ研究ノ問題ハ方有ノ本躰トシテノ神ノ存在ハ出來得ヘキヲナルカ、此神ナル思想ニ哲學的形態ヲ與ヘ、宗教上ニ所謂神ナルモノハ如何様ノモノナルヘキ歟等ヲ研究スルモノナリト、

神ノ實在

是故ニ宗教哲學ニ於ケル第一ノ問題ハ、即チ神ノ存在ナリ、哲學史上此問題ニ付キテハ種々ノ說ヲ爲スモノアレモ、今一々之ヲ舉クルニ追アラス、唯簡單ニ其尤モ著シキモノヲ選ミテ之ヲ敘述スヘシ、

(一) 實躰論上ノ證明

是レ吾人カ有スルトコロノ神ナル思想ヨリシテ、神ノ眞ニ實在スルヲ證明セントスルモノナリ、始メテ此證明ヲ唱ヘ出セルモノハ、アソセルム、オプ、カンタペレト稱スル中古時代ノ耶蘇教哲學者ナリトス、氏ノ論法ハ次ノ如シ、  
神ハ實在スルモノ、中ニ付キテ最高ノモノナリ、即チ吾人ハ神ヨリモ一層高等ナルモノ存在シテ、神ハ其下ニ附屬スルモノトハ想像スルヲ得サルナリ、是故ニ神



ナルモノハ、即チ是レ宇宙ニ存在スルモノ、最高者ニシテ、決シテ之ニ勝ルモノアルヲナシ、故ニ神ハ又絶對的完全ナルモノナリ、吾人カ想像シ得ヘキ性質ニ於テハ總ヘテ完全ニシテ之ヲ綜合シタルモノナリ、而シテ實在トハ是レ亦一ノ性質ニ過キス、神已ニ所有性質ヲ自己ニ有ストモ、此性質モ亦神ノ有スルトコロタラサルヲ得サルナリ、而シテ唯吾人カ心理或ハ思想上ニ於テ實在スルノミナラス、實在世界ニ於テ實在セサルヘカチサルナリ、何トナレハ物ハ單ニ吾人ノ理想上ニ存在スト云フヨリモ、現實ノ存在ハ一層完全ナルモノナレハナリ、已ニ神ヲ以テ絶對的完全ナルモノトセハ、神ハ又實際ニ於テ存在セサルヘカチサルヲ明ラカナリト、要スルニ此證明ハ神ノ本體、眞性、及ヒ思想即チ一切ノ實在ヨリシテ抽象シ來レ、思想ヨリシテ神カ實在スヘキヲ證セントスルモノナリ、乃チ其本性ノ上ヨリシテ其實在ヲ證セントスルモノハ、必ラス此證明法ニヨルヘキナリ、カント以前ノ哲學界ニ於テハ此證明法ハ普通ニ用ヒラレタルモノナリ、而シテカント以後出ツルニ至リテ始メテ此論法ノ極メテ薄弱ナルヲ看破シ、之ヲ排撃セリ、

今試ミニ此論ヲ三段論法ノ形ニ約スルトハ次ノ如クナルヘシ、

- (一) 神トハ最モ完全ナルモノヲ意義ス、
- (二) 最モ完全ナリトノ思想ハ、其中又必ラス實在ノ性質ヲモ含有ス、
- (三) 故ニ神ハ實在ス、

ト、此證明ハ形式的ニ又實際上ニ共ニ不可ナルモノナリ、三段論法ニヨリテ吾人カ論理上正當ニ推究シ得ヘキ結論ハ、正ニ次ノ如クチラサルヘカラス、

故ニ神ハ實在的ノモノヲ意義ス、

ト是レナリ、此ニ吾人ハ實在ナル事實ト實在的ノモノハ、意義ストノ間ニ於ケル區別ヲ辨スルヲ要ス、何トナレハ吾人ノ實在スト思惟スルモノハ必ラスシモ皆實在スルモノナリトハ斷言スヘカチサレハナリ、

次ニ又最モ完全ナルモノ、思想ノミカ實在ノ性質ヲ含有スルカ如クニ思フハ、實際上ニ不可ナリ、何トナレハ最モ不完全ナルモノ、思想モ亦同シク之ヲ含有スヘカレハナリ、物カ不完全ナリト云フモ、已ニ其物カ存在セサルヘカチサルナリ、物カ存在セサレハ完全ナリトモ、又不完全ナリトモ斷スヘキ所以ノ理由ナキモノナリ、是故ニ實在ナルトハ、如何ナル物ニ對シテモ、決シテ之ヲ否定スヘキ性質ニア



(二) 宇宙論上の證明

此證明ハ世界カ實在ストノ事實ヨリシテ、神カ實在セサルヘカラサルヲ證明セ  
 ントスルモノナリ、而シテ其論法タル全ク原因結果ノ理法ニヨリテ確立セラル、  
 モノナリ、是レ頗ル單純ナルモノナリ、以爲ラク、如何ナルモノモ宇宙ニ發顯シ來レ  
 ルモノハ、必ラス其發顯スル所以ノ原因ヲ有セサルヘカラス、而シテ吾人カ今原因  
 ノ連鎖ヲ溯リ、原因ノ又原因ヲ探究スルトハ、必ラス遂ニ其最高原因ニ到達セサル  
 ヘカラス、是ニ於テ乎制裁ナキ絶對ノ原因、即チ神ハ存在セサルヘカラサルナリ  
 ト、然レモ吾人ノ此ニ疑フヘキハ、所謂原因結果ノ理法ナルモノハ、果シテ能ク此ノ  
 如キ最高原因ニ應用シ得ヘキモノナル乎、是レ吾人ノ顯象界ニ於テノミ應用スヘ  
 キモノニアラサルナキ乎、是レ吾人ノ豫シメ先ツ研究ヲ要スル問題ナリトス、若シ  
 又此ノ如ク論シ來ルトハ、吾人ハ到底一ノ神ナルモノニ於テ止マルヲ得ハ、其所  
 謂最高原因ノ原因ハ果シテ如何ナルモノナリヤテ討究セサルヘカラス、此ノ如ク  
 ニシテ而シテ無究ニ至ルヘキナリ、尙ホ一步ヲ譲リテ吾人カ其最高原因ニ到達ス

ルヲ得トスルモ、其モノカ果シテ所謂神ナルモノナル乎否ヤテ斷言スヘカラサ  
 ルナリ、即チ之ヲ換言スレハ、或ハ其最高原因ナルモノモ物質的ノモノナル乎未  
 タ容易ニ知ルヘカラサルナリ、其物ノ必ラス神ト稱スル如キ、精神的ノモノナリト  
 ハ何ノ理由ニヨリテ之ヲ斷言シ得ル乎、

(三) 物理的・神學的證明

此證明ハ固ヨリ宇宙論上ノ證明ヲ含ムモノナリ、然レモ尙ホ一步ヲ進メテ、其神ナ  
 ル所以ヲ證明セントセリ、宇宙論上ノ證明ニアリテハ、唯神ヲ以テ宇宙ノ創造者ト  
 ナスニ止マリ、其本質ノ如何ニ至リテハ之ヲ精細ニ論究セス、而ルニ此證明ニアリ  
 テハ、唯ニ神ノ存在スルヲ證明スルノミナラス、又併セテ神ノ性質ヲモ説カント  
 スルモノナリ、例之ヘハ、神カ全知全能ニシテ又善良ノモノナルヲ論スルカ如シ、  
 抑モ前證明ニ於テ謂フ所ノ最高原因ナルモノハ、前ニモ之ヲ駁スルカ如ク、何ヲ以  
 テカ物質的ナルヲ能ハスシテ、必ラス神ナラサルヘカラサル所以ノ理由ヲ説明セ  
 ス、即チ何故ニ神ハ此如キ全知全能ニシテ、又善良ナル性質ヲ具有スルヲ得ヘキ  
 乎、其理由次ノ如シ、曰ク吾人カ此世界ノ状態ヲ觀察スルニ、宇宙ノ万象ハ皆整然ト



シテ其序ヲ紊サス、一定ノ目的ニ向ツテ進歩開發スルヲテ顯ハセリ、動植物ノ如キ  
 嘗能ク其手段ノ目的ニ適合スルアルヲ以テ見レハ、是レ決シテ偶爾ニシテ然ルニ  
 アラス、必ラス大知者アリ、物ニ先チテ其意匠ヲ運ラシ、以テ之ヲ作り出セルモノト  
 斷言セザルヲ得スト、  
 然レモ是ヲ以テ之ヲ見レハ、是レ亦神ノ實在ヲ證明スルニ足ラス、假令ヒ現在ノ宇  
 宙万象ヲシテ整然秩序ヲ具有スルモノナラシムルモ、之ヲ以テ直チニ其原因ヲ神  
 ニ歸スルハ、決シテ其理ナキト謂ハサルヲ得ス、又一步ヲ讓リテ果シテ神カ之ヲ  
 成セリトスルモ、此證明法ニテハ万有ノ整頓者タル神ハ存在シ得ヘキモ、造物者タ  
 ル神ノ存在ハ毫モ之ヲ證明スルヲ能ハサルナリ、加之ニ由リテ以テ宇宙唯一神  
 アリトモ斷言スルヲ得サルナリ、

第二種殊ニ第一種ノ證明ハ、第十八世紀ノ哲學ニ於テ尤モ著明ナルモノナリ、即チ  
 歐洲哲學史ニ於テ文華ノ時期ナル名稱ヲ以テ唱ヘラレタル第十七世紀ノ後半ヨ  
 リシテ英國ニ兆シタル哲學ニアリテ、尤モ普通ニ認メラレタル所ノ顯象ナリ、彼ノ  
 物理學ヲ以テ有名ナル「アイザック・ニュートン」ノ如キハ、熱心ニ此說ヲ主張スル一人  
 ナリ、其他佛ノ「ボルトーレル」、「ルソー」及ヒ「ライブニッツ」ノ如キ、皆是ト同一ノ思想ヲ  
 有セリ、

(四) 倫理的宗教的證明

此證明ハ「カント」カ以上ニ説述セル諸證明ノ皆以テ吾人ヲ満足セシムルニ足ラザ  
 ルヲ發見シ、其後ニ於テ自カラ建立セルトコロノモノナリ、以爲ラク、凡ソ完全ナル  
 道德ノ實行セラル、ニ至ルハ、必ラスヤ德行ト之ヨリシテ伴生シ來ル幸福トヲ  
 相伴ヒ生スルカ如クナラサルヲ得ス、然ルニ眼ヲ開キテ當時ノ世態ヲ觀スルニ、大  
 德ナルモノモ時トシテハ苦痛ニ沈淪シ、極惡ノ人モ時トシテハ幸福ヲ享有スルヲ  
 往々ニシテ之ナキニアラス、若シ完全ナル道德ナルモノカ常ニ實行セラル、モノ  
 ナリトセハ、吾人ハ德行ヲ爲スヤ假令ヒ現世ニ於テハ十分ニ其功果ヲ得ルヲ能ハ  
 ストスルモ、之ヲ償フカ爲メニハ必ラス來世ニ於テ之ヲ受ケサルヘカラサルナリ、  
 是レニ由リテ之ヲ觀レハ、吾人ノ精神ナルモノハ決シテ死スヘキニアラサルヤ明  
 カナリ、即チ精神ハ不滅ノモノタラサルヲ得ス、然レモ如何様ノ德ヲ行ヘハ、如何程  
 ノ幸福ヲ與フヘキ歟、之ヲ一定シ、之ヲ支配シ行クモノナカルヘカラス、之ヲケレハ



如何ニ吾人カ進歩シ去ルモ、徳ト幸福トノ調和ヲ欠キ、到底其不公平ヲ來スヲ免レサルナリ、是ニ於テ乎吾人ハ神ノ如キ完全ナルモノ存在シ、之カ平均ヲ司トリ以テ幸福ト徳行トヲシテ相應セシムルアルヲ假定セサルヲ得ス、神ニシテ實在セザレハ、吾人ハ竟ニ最高ノ善ヲ實行スルヲ能ハサルナリ、乃チ之ヲ反言スレハ、若シ完全ナル道德カ實行セラル、モノナリトセハ、神ノ實在セサルヘカラサルヤ又明ナリト、

但シ此證明ハ「カント」カ自カラ公言スル如ク一個ノ假説タルニ過キスシテ、固ヨリ確乎不拔ノモノトハ稱スヘカラサルナリ、何トナレハ是レ道德ノ確實ナル根本ヨリシテ發シ來レル結論ニアラスシテ、完全ナル道德ハ必ラス實行セラルルモノナラントハ、感情ヨリシテ發シ、之ヲケレハ道德ノ完全ナルヲ到底望ムヘカラストノ論ヨリシテ生セシモノナレハナリ、故ニ「カント」モ其純正理性評論ノ終リニ於テ

「六、神ノ存在精神ノ不滅等」如キ思想ハ、畢竟スルトコロ、吾人カ理性ノ誤用ヨリシテ生シ來ルモノナレハ、實ハ吾人ノ知ルヘカラサルヲ屬スト斷言スル所以ナリ、之ヲ換言スレハ、神ノ存在ハ理論上ニハ到底之ヲ證明スルヲ得ス、然レモ之ヲケ

レハ道德ノ完全ナル之ヲ望ムヘカラスト、道德完全ナルヲ得サレハ、吾人ノ感情ハ之ニヨリテ満足ヲ感スルヲ能ハス、故ニ便宜ノ爲メニ假リニ之ヲ此ノ如ク定ムルノミト、以テ其證明ノ如何ニ不完全ナル乎ヲ知ルニ足ルヘキナリ、假令ヒ便宜上ニハ之ヲケレバ、吾人カ満足ヲ感スルヲ能ハストスルモ、満足ヲ感スルヲ能ハスト云フコトハ、決シテ其實在ヲ證明スル所以ニアラサルナリ、

以上ノ所論ニヨリテ之ヲ見レバ、神ナルモノ、實在ハ、古來哲學史上ニ顯ハレ來レル諸種ノ證明ニヨリテハ、到底之ヲ確立スルヲ能ハザルモノナリ、尙ホ之ヲ證明セント欲セバ更ラニ他ニ其方法ヲ求メザルヲ得ス、

神ト世界トノ關係

次ニ神ト世界トノ關係ニ付キテ一言スベシ、如何ニシテ、万有カ創造セラレシ乎、即チ之ヲ換言スレハ、世界創造ノ問題ハ如何ニシテ之ヲ解釋スヘキカ、此問題ハ現時ニ於テハ尙ホ未ダ十分ニ説明スルヲ能ハサルナリ、

神ノ一度ヒ此世界ヲ創造シテヨリ、神カ之ヲ維持スルカニ關シテハ、吾人ハ唯々



如クニ云ヒ得ルノミ、

若シ神ニシテ果シテ無限ノ力ヲ有シ神聖ニシテ慈悲ノモノナラシメハ、神ノ創造シタル生物ハ、其最モ愛憐ヲ受クヘキモノナラサルヘカラス、是故ニ最上ノ善ハ世界進歩ノ目的ナルヘク、神ハ世界ヲシテ此方向ニ於テ進歩セシメ、理法ト事象トヲシテ凡テ之ニ向ツテ助ケシムル如クナラシムヘシ、然リト雖モ其目的トスルトコロノ果シテ何レノモノニアリヤトノ詳細ナルヲハ、毫モ吾人ノ知り得ル所ニアラス、吾人ノ道德上ノ思想ハ吾人ヲシテ宇宙ノ大勢ニ向ツテ、其實行ヲ促カス如クスルヲ要シ、又吾人ノ如何ナルヲ勉ムヘキカヲ教フルモノナリ、吾人ノ此問題ニ付キテ云ヒ得ルヲハ、唯是ニ止マルノミ、其他ハ一切知ルヘカラサルナリ、

序ニ此ニ神學上ニ於ケル套語ノ三四ヲ掲ケ、其意義ヲ畧述スヘシ、  
(一) 超越神教 神ヲ世界ヨリ全ク分離シテ存在スルモノトナシ、互ニ秋毫ノ關係ヲ有セストナスモノ、即チ之ヲ換言スレハ、此二者ヲ以テ全然異種類ノモノトナシ、毫モ同一ノ性質ヲ有セストナスモノ、之ヲ超越的神教ト稱スルナリ、超越トハ其關係ニ於テ互ニ超越スルナリ、

(二) 感通神教 神ト万有トノ本質ノ性ハ互ニ相異ナルモ、尙ホ此兩者ノ間ニハ或ル交通ヲナシ得トナスモノ、即チ之ヲ換言スレハ、神カ万有ノ進歩ニ對シテ感化ヲ與ヘ得ルトナスモノ之ヲ感通神教トハ稱スルナリ、

(三) 万有神教 是レハ多少ノ度ニ於テ神ト、宇宙万有トヲ合一セシメントスルモノナリ、此中ニ付キテ又種々ノ度アリ、

(イ) 理想の万有神教 或ハ全然神ト宇宙万有(即チ自然界)トヲ同一視スルモノアリ、之ヲ理想的の万有神教ト稱ス、

(ロ) 自然の万有神教 或ハ又世界ノ絶對的ニシテ無限ノ根本(即チ神ヲ指ス)ヲ以テ、其發表シタル具體的ニシテ有限ノ形態ヲ有スルモノ(即チ万有ヲ指ス)ヨリ區別スルモノ、之ヲ自然の万有神教ト稱スルナリ

(四) 無神教 又如何ナル形態ニ於テモ、神ノ實在ヲ否定スルモノ、之ヲ無神教ト稱ス、

(五) 唯一神教 是レハ宇宙唯一神アリテ、多神アラサルヲ唱フルモノナリ、近代ニ於ケル哲學或ハ宗教ハ大抵此說ヲ取ル、



(六) 多神教。宇宙ニアル神ハ唯一ニアラスシテ、多ナルヲ唱フルモノナリ、古  
代ニ於ケル宗教ハ大抵此説ヲ爲ス、

神人ノ關係

次ニ又此等ノ神學的思想ヨリシテ、人間ノ地位ニ關係シ、又種々ノ異説ヲ見ルニ至  
レリ、

(一) 異性的見解。超越的神教等ヲ唱フルモノニアリテハ、其自然ノ結果トシテ、  
人類ナルモノハ神ト全ク別種ノモノタラサルヲ得ス、何トナレハ神ハ万物ト全然  
隔絶シテ、秋毫ノ關係ヲ有スルモノニアラサレハナリ、故ニ此見解ニヨレハ、神ハ人  
類ト全ク分離シ居ルモノナリ、而シテ此等兩者ノ性質ハ、秋毫モ同一ナルヲ能ハス  
ト謂ハサルヲ得ス、之ヲ異性的見解ト稱スルナリ、異性トハ其本性ノ互ヒニ類ヲ同  
クセサルノ義ナリ、此見解ニヨレハ神ト人間トノ關係、及ヒ人間發生作用ノ本源ヲ  
説明スルニ、尤モ困難ヲ感スルナリ、之ニ反スルモノヲ

(二) 同性的見解。ト稱ス、是レ此二者ヲ以テ其本性ニ於テハ、互ヒニ其類ヲ同ク  
スルモノトナスナリ、即チ神ノ本性ト、人間ノ本性トハ、其實全ク同一ナルナリ、唯其

發表ノ形態ニ異アルノミ、神ハ万有ノ本源ナルニ由リ、之カ發表シテ以テ万有トナ  
ルナリ、万有カ神ト異ナリタル性質ヲ有ストハ、是レ理論上ニ許スヘカラサル所ナ  
リ、又神ハ絶對的完全ナルモノナレハ、如何ナル性質ヲモ、之ヲ自己ノ中ニ有セサル  
ヘカラス、然ラハ万有又人間ノ有スル一切ノ性質ヲモ、其中ニ包含セサルヲ得サル  
ナリ、乃チ其性ニ於テ互ニ類ヲ同クスルヤ、又知ルヘキノミ、  
所有万有神教及ヒ之カ變態ナルモノハ、總ヘテ此説ヲ取ラサルヘカラサルナリ、即  
チ此説ニヨレハ、神ナルモノハ、万有ノ外ニ存在シ得ルニアラス、万有即チ神ナリ、神  
ヲ離レテ万有ナシト謂フモノナリ、ヘーゲルノ學說ノ如キハ、通常之ヲ万有理論ト  
稱ス、蓋シ前ニモ云ヘルカ如ク、ヘーゲルハ理ヲ以テ万有ノ本源トナシ、一切ノ万有  
ハ其理ノ種々ノ狀態ニ於テ、開發發表セシ階段ニ過キストナセハナリ、此万有理論  
モ實ハ万有神教ト同一ナルモノナリ、假令ヒ之ヲ理ト稱スルモ、又神ト稱スルモ、其  
万有カ一ノ絶對的ノモノヨリシテ爲ルト云フヲ主張スルモノナレハナリ、故ニ  
万有理論モ同シク此同性的見解ヲ採ルモノト稱スヘキナリ、

意志論



終リニ神ナルモノカ果シテ存在ストスルトキハ、神ハ人性ノ上ニ於テ如何ニ關係スル所アル乎、即チ之ヲ換言スレバ、人性ナルモノハ果シテ自由ナル乎、或ハ然ラスシテ人性ハ全ク神ニヨリテ支配セラル、モノナル乎、尙ホ言ヲ換ヘテ之ヲ云ヘハ人ノ意志ハ自由ナル乎、即チ人ハ如何ナルコトモ自己ノ心中ニ於テ、之ヲ爲スト爲ササルトテ選擇スルノ力ヲ有スルモノナル乎、或ハ人間ノ意志ハ自由ナラサルモノニシテ、其行爲ハ一々神ニヨリテ支配セラレ、自己ノ意志如何ニ由リテ之ヲ變更スルコト能ハサルモノナル乎ト、是レ倫理學上ニ於テ實ニ切要ナル問題ナリトス、

之ヲ解釋スルニ於テ、古來又種々ノ異説アリ、先ツ第一ニ來ルハ即チ

(一) 絶對的豫定説　ト稱スルモノニシテ、是レ彼ノ所謂宿命論ト同一ナルモノナリ、此説ニヨレハ、人ノ世ニ生スルヤ、其性已ニ天命ニヨリテ豫メ定マルアリ、其行フ所ハ一々神ニヨリテ支配セラレ、秋毫モ自己ノ意志ヲ其間ニ挾ムコト能ハサルモノナリトス、此故ニ此説ハ意志ノ自由ナルコト、即チ吾人カ行爲ヲ選擇スルノ自由ヲ全ク否定スルモノナリ、古代ニアリテハ、ストア哲學、近代ニアリテハ、スピノザノ哲學ハ此説ヲ持スルモノナリ、

「ストア哲學意見ノ概略ハ次ノ如シ、

世界ノ万有ハ悉ク天運ニヨリテ豫定セラレサルナシ、而シテ一物ノ能ク之ヲ脱スルナク、一物ノ能ク之ヲ變スルナシ、万物ハ唯々トシテ皆其爲スヘキノ義務ヲ盡ササルヘカラス、人モ此點ニ於テハ万物ト更ラニ差別スル所ナシ、唯人ノ万物ト異ナルコトハ其運命ノアル所ヲ知テ、以テ之ヲ實行スルニアリ、天命ハ吾人ノ決シテ背クヘキニアラス、故ニ靈心ヲ以テ之ヲ履行スルヲ要ス、此ノ如クシテ始メテ此ニ安心ノ所ヲ得、立命ノ地ト獨立ノ位トヲ保ツヲ得ヘシ、吾人ハ万物ニ對シテ須ラク無情ナラサルヘカラス、是レ吾人ニ於ケル唯一ノ善ナリ、其他世界ニ於ケル一切ノ善ハ、決シテ真正ノ善ニアラス、吾人若シ外物ノ爲メニ拘束セラレサルコトハ、一毫ノ苦痛アルコトナシ、何物カ又吾ヲ苦シメンヤ、從テ天下惡ナク、唯至ルトコロ幸福ヲ感スルノミ、所謂安心ノ地トハ感覺的ノ世界ヨリ獨立スルコトナリ、浮世ノ浮沈ニ關係スルコトナキニアリ、

而シテストア學者ハ外物ヨリシテ獨立スル所以ノ方法ヲモ教ヘタリ、曰ク吾人カ外物ノ拘束ヲ受ケサランニハ先ツ感覺的ノ慾望及ヒ感情ヲ制セサルヲ得ス、而テ



他方ニアリテハ人間ノ能力中ニ於テ、尤モ高尙ナル理性ヲ發達セシムルヲ要ス、若シ理性ニシテ吾人ヲ支配スルニ至レハ、万物ヨリ獨立スルヲ決シテ困難ヲ感セサルヘシ、吾人ヲシテ喜怒哀樂セシムルモノハ、皆是レ慾情ノ力ナリ、理性發達スルハ、之ニ由リテ吾人ハ吾人ノ眞性ニ從ヒ、生活スルヲ得ルモノナリ、此ノ如クニ生活シ、此ニ始メテ天意ニ合シ天命ニ從フモノト謂フヘキナリ、

絶對的豫定說ハ神ヲ以テ其支配者トナス、然レモ神ナルモノハ已ニ其存在ノ如何ヲ知ルヲ得サルナリ、從テ神カ吾人ノ意志ヲ支配スト云フコトモ之ヲ斷言スルヲ能ハサルナリ、然レモ豫定セルヲ決シテ疑フヘキニアラス、何トナレハ外界ノ事情カ吾人ノ意志ノ方向ヲ決セシムルモノナレハナリト、之ヲ

必然說ト稱ス、必然說ト宿命說トハ其實多ク相異ナルモノニアラス、此學者ノ說ニハ以爲ラク、吾人ノ意志ハ元來自由ナルモノニアラス、吾人ハ如何ナル事業ヲ爲サントスルニモ、皆外界事情ノ制スルトコロトナルナリ、外界事情ハ實ニ我ヲ馳リテ、已ムヲ得ス、吾人ヲシテ一定ノ方向ニ運動セシムルナリ、例之ヘハ今一定ノ事業ヲ爲サントスルニ當リ、甲乙二個ノ道アリト假定セハ、吾人ハ甲ノ道ヲモ、又乙

ノ道ヲモ、同様ニ之ヲ取ルヘキ便利ヲ有スルモノナリ、然ルニ今甲ヲ棄テ、乙ヲ取ルトセハ、誰レカ我ヲシテ一ヲ取リテ他ヲ棄テシムル所以ノモノナカルヘカラス、誰レカ之ヲシテ然ラシムル、人或ハ曰ク、我即チ之ヲ爲スナリト、然レモ我ハ何ヲ以テカ其同様ニ進行シ得ル道ノ中ニ付キテ一ヲ擇ンテ他ヲ取ラザリシ乎、吾人ヲシテ其一ヲ取ラシムル所以ノ理由ハ何處ニ存スル乎、是レ必ラス外界事情ノ我ヲ驅ツテ、此ノ如クナラシムルモノナリト謂ハサルヲ得ス、是故ニ吾人カ自カラ決スト思フモノモ、更ラニ之ヲ熟考スルモ、皆是レ外界事情ノ我ニ迫リテ、我ヲシテ已ムヲ得ス、此ニ出テシムルモノニアラサルハナキナリ、例之ヘハ今甲ノ道ハ我ニ利益多クシテ、乙ノ道ハ利益少キノミナラス、反テ害アリ、故ニ甲ノ道ヲ採ルヘント考フルハ、是レ一見我ノ選擇ニ出ツルカ如シト雖モ、仔細ニ之ヲ觀察シ來ルハ、決シテ其然ラサルヲ發見スヘシ、何トナレハ此ノ如キ場合ニ於テ、所謂我ノ決スルトコロトナスモノハ、即チ我ノ自カラ決スルニアラスシテ、其外界ノ事情例之ヘハ或ハ利益アリ、或ハ有害ナリ等ノ事情、我ヲシテ此ノ如ク決セサルヲ得サルニ至ラシムルモノナレハナリ、故ニ吾人ハ決シテ自由ナルモノニアラス、必然的ニ外界事情



ニヨリテ支配セラル、ナリト、  
 以上ノ論ハ主トシテ物理的方向ヨリシテ、哲學及ヒ論理學ヲ研究スルモノ、唱フ  
 ル所ナリ、原因結果ノ理法ヲ以テ唯一ノ理法ト見做シ、何レノ場合ニ當リテモ能ク  
 之ヲ應用スルヲ得、一切ノ顯象ヲ説明スルニ足ルモノナリト思惟スルヨリシテ  
 起ルモノナリ、

絶對的豫定説ノ論スル所ニ於テ、吾人ハ實踐倫理ノ理法トシテ、實ニ高尙ナル教理  
 ノ其中ニ含蓄セラル、ヲ發見スルナリ、然レモ何レノ點ヨリ之ヲ觀察スルモ吾  
 人ハ到底此説ニ服スルヲ能ハサルナリ、先ツ理論上ヨリシテ之ヲ評セハ、吾人ノ行  
 爲カ實際一々吾人以外ノ力ニヨリテ制セラレ、吾人ニハ秋毫モ選擇ノ自由ナシト  
 云フハ果シテ之ヲ證明シ得ル乎、吾人ハ固ヨリ何處迄テモ自由ナルヲ得サル  
 ナリ、吾人々類ノ外界事情ニヨリテ制セラル、ヲハ社會學上ノ研究已ニ之ヲ證明  
 シテ一毫ノ疑ヒヲ容レサルナリ、大ニシテ之ヲ云ヘハ、東洋ノ天地ニ生息スルモノ  
 ハ、自カラ其天地ニ應スルノ氣質慣習ヲ生シ來リ、西洋ノ天地ニ棲息スルモノハ、又  
 其天地ニ適スル氣質慣習ヲ生シ來ルカ如シ、小ニシテ之ヲ云ヘハ、四季ノ間、天氣晴

好ノ土地ニ生スルモノハ、自カラ快活ノ性ヲナシ、陰霧降雨ノ多キ土地ニ生スルモ  
 ノハ、自カラ沈鬱ノ性ヲ成スカ如キ、皆其例證ナリ、之ヨリシテ其土地人類ノ氣質思  
 想ノ上ニ於テ、著大ナル關係ヲ及ホスモノナリ、故ニ吾人ハ何處迄テモ意志ノ自由  
 ニシテ制限ナキヲ唱フルモノニアラス、幾分カハ外界ノ事情ニヨリテ制セラレ  
 サルヲ得サレハナリ、然レモ又微細ナル行爲ニ至ル迄テモ、皆外界事情ノ制スル  
 所ニ出ツト云フハ過激ニ失スルノ過ナキヲ得ズ、自由意志論者ノ言フ如ク、或ル範  
 圍ニ於テハ吾人ハ自由ニ決スルノ力ヲ有スルモノナリ、吾人カ爲スモ爲サ、ルモ、  
 毫モ吾人ノ利害ニ關係ナキ場合ノ如キニアリテハ、其之ヲ決スル所以ノ力ハ、全ク  
 吾人ノ意志ニアルヘシ、是レ何人モ自心ニ省ミテ之ヲ察スルアルモ、十分ニ證明  
 シ得ルナリ、

且ツヤ必然説ノ如ク、吾人ノ行爲ヲシテ悉ク皆外界事情ノ必然ヨリシテ生シ來ル  
 結果ナリトセバ、吾人ノ道徳ニ於テ實ニ恐ルヘキノ結果ヲ來サ、ルヲ得ス、何トナ  
 レハ善ヲ行フモ、又惡ヲ爲スモ、皆是レ吾人ノ之ヲ行爲スルニアラスシテ、外界事情  
 ノ吾人ヲシテ此ノ如クセシムルモノナレハナリ、蓋シ吾人ガ自カラ爲スニアラス



論 概 學 哲

シテ、外物ノ吾人ヲ馳リテ此ノ如ク動カシムル者ナレハ、其實吾人ニ非ズシテ、單ニ外物ニ存スヘキノ理ナリ、是故ニ善ヲ爲スモ、賞スルニ足ラス、惡ヲ爲スモ之ヲ罪スヘカラス、譬ヘハ猶ホ吾人ハ人形使ヒノ使用スル人形ノ如ク、如何ナル運動ヲ爲スモ、是レ其人形其物ノ爲スニアラスシテ、人形使ヒノ之ヲ爲スモノナルカ如シ、乃チ教育ノ如キモ又全ク無用ノ閑事業ニ屬スヘキナリ、何トナレハ此ノ如キモノハ、毫モ吾人ノ意志ヲ變化スルコト能ハス、從ヒテ又道德上何タル効果ヲモ之ナキモノナレハナリ、歷史上ニ於ケル大人豪傑モ、亦是レ偶然ニ發生シ來レル動物ニ過キス、譬ヘハ掌中ヨリ投ケ出サレタル賽ノ目ノ如シ、吾人ノ意志ヲ以テハ之ヲ如何トモスルコト能ハサルナリ、此ノ如キノ見解ハ吾人ノ進歩ヲ全ク阻隔スルモノナリ、德彝倫ヲシテ悉ク地ヲ拂ハシムルモノナリ、

此ニ宿命説ト全ク相反スル一ノ學説アリ、之ヲ

(二) 自由意志説ト稱ス、是レ耶蘇教ノ以テ正教トナス所以ノモノナリ、是レ古代ニアリテハ、オীগスチヌスノ唱フル所ニシテ、近世ニアリテハ「シオツペンハワー」ノ説之ニ近シトナス、但シ「シオツペンハワー」ノ説ハ其實、オীগスチヌス「ト」アラト

「オীগスチヌス」ノ説ヲ畧述スレハ次ノ如シ、

世界ニアリテハ固ヨリ自由ナルモノ發見セザルヘキニアラス、何トナレハ世界ニ於ケル人間ハ皆罪ノ下ニ伏スルモノナレハナリ、然レモ人間ハ又自由的ノモノトシテ考ヘラレサルヲ得ス、何トナレハ耶蘇教ニ於テ大切ナル罪ナル思想ハ、自由ナル思想ヲクシテハ到底之ヲ解スヘカラサルモノナレハナリ、若シ吾人カ自由ノ意志ナクシテ、以テ其事業ヲ爲スコアリトセハ、道德上ニ於テハ決シテ之ヲ惡ト稱スルコト能ハサルナリ、何トナレハ此ノ如キ事業ニ對シテハ吾人ハ秋毫ノ責任ヲ負フヘキモノニアラサレハナリ、責任ノナキ處ハ即チ是レ罪ノ存セサル所、罪ノ存セサル所ハ又之ニ應スル罰アルコトナシ、然ラハ吾人ハ如何ニシテ自由意志ト必然的行爲トヲ併セ立タシムルコトヲ得ヘキ乎、是レ「オীগスチヌス」ノ解釋ヲ要スル疑問ナリトス、

若シ此世界ニ於テ自由ナル意志ヲ存在スルコト能ハストセハ、自由ナル世界トハ此世界以前ノモノニシテ、即チ極樂世界ノ状態ナルヘキナリ、彼ノ人世ノ太初ニ於テ

論 概 學 哲



生セラレタリト稱セラル、<sup>「</sup>アダム<sup>」</sup>ハ、自カラ罪惡ニ陥ラサルト否ヤトハ固ヨリ其自由ナリシナリ、神ト共ニ無罪ノ清淨ナル状態ニ於テ、生活スルト否ヤトハ自由ナリシナリ、何トナレハ神ハ此始原ノ人ヲ造リ出スニハ自由ナルモノトナセハナリ而ルニ悲ヒカナ<sup>「</sup>アダム<sup>」</sup>ハ自カラ誤リテ其付與セラレタル自由ノ資性ヲ應用シ、以テ其子々孫々ニ至ル迄テ、永遠ニ之ヲ失ハシムルニ至レリ、全世界ニ於クル人間ナルモノハ<sup>「</sup>アダム<sup>」</sup>ノ身軀ニ於テ之ヲ試ミラレタルナリ、而シテ<sup>「</sup>アダム<sup>」</sup>ハ此ノ如キ誤用ヲナセシニヨリ、其子孫タルモノモ、今ニ至リテ彼ト共ニ其罪ヲ同フシ、其自由ヲ失ヘルナリ、之ヲ始原ノ罪ト稱ス、始原ノ罪ハ幾千歳ノ今日ニ至リ、一人トシテ之ヲ免ル、アルナシ、是レ即チ現今人類ニ於テ、一人ノ自由ナルヲ得サル所以ノ理由ナリトス、

「<sup>「</sup>オーグスチヌス<sup>」</sup>ハ宗教家ナリ、是故ニ其説クトコロ耶蘇教ノ爲メニスルモノナリ、乃チ其迷信ニ陥ルニ至ルハ、又止ムヲ得サルニ出ツル乎、通常自由意志ヲ唱フル論者ハ、吾人ノ意志ヲ以テ全く自由ナリトナス、如何ナル事業ヲ爲スモ、是レ皆吾人ノ撰擇ニ出ツルモノナリト云フ、此説ハ道德ノ顯象ヲ説明スルニ於テハ、實ニ必然説

ニ比シテ其勝ルヲ方々タルモノアリ、何トナレハ<sup>「</sup>オーグスチヌス<sup>」</sup>ノ云フカ如ク、吾人ニ責任ナクレハ、道德上ノ善惡ハ生スルヲナク、善惡ナクレハ道德的顯象ナルモノモ亦成立スルヲ能ハサルノ理ナレハナリ、

然レモ吾人カ此處ニ於テ問フヘキコトハ、果シテ吾人ハ此ノ如ク絶對的ニ自由ナルモノナル乎否ヤト云フニアリ、前ニモ云フカ如ク、吾人ハ假令ヒ所謂天命ナルモノアリテ、吾人ノ行爲ヲ一々支配スルカ如キコトヲナシトスルモ、外界ノ事情ニヨリテ多少其支配ヲ受クルコトハ掩フヘカラサルノ事實ナリ、例之ヘハ天氣ノ快活ナル處ニ生長スルモノハ、其氣質自カラ快活トナリ、山林ノ鬱蒼タル地ニ生長スルモノハ、其氣象亦自カラ沈鬱ニ陥ルカ如キ、山川明媚ノ土ニアルモノハ、自カラ美術ノ思想ニ富ミ、風景單趣ノ邊ニアルモノハ、自カラ此思想ニ缺クルカ如キ、或ハ荒原大野綱目皆是レ高山大川ナル所ハ、其思想モ亦浩大トナリ、豆大ノ地ニアリ、小山小流ノ外一物モ之ヲ見ルヲ能ハサルモノハ、其思想亦自カラ小トナルカ如キ、今日ニ於テハ社會學上何人モ共ニ認ムル所ニ屬ス、若シ吾人ヲシテ絶對的ニ自由ナル意志ヲ有スルモノナリトセハ、其外界事情ノ如何ナルニ關ハラズ、吾人ハ皆同様ノ思想氣象



ヲ有スヘキノ理ナリ、然ルニ事實上其結果ノ互ニ相異ナルハ、是レ外界ノ由リテ然ラシムル所ニシテ、吾人々類(万物モ一切然ルヘシ)ハ到底外界事情ト、全然獨立シテ生存スルヲ能ハサルニ由ルナリ、是レニヨリテ之ヲ觀レハ、吾人ハ絶對的自由ナルモノニアラスシテ、多少ノ度ニ於テハ、之カ支配ヲ受クルモノナリトノヲハ、容易ニ否定スヘカラサルノ事實ナリ、然ラハ自由意志說モ事實ノ上ニ於テハ、竟ニ矛盾スル所ナシト云フヘカラサルナリ、

(二八六)

此ニ又一說アリ、之ヲ

(三) 心理的豫定說 ト稱ス、此說ハ「ハルトマン」及ヒ「ライプニツ」ノ唱フル所ナ

リ以爲ラク人間ハ全ク豫定セラレ居ルモノナリ、然レモ人間ニハ又自由ニ其方向ヲ定ムル所以ノ力ヲ有ス、即チ人間ハ自家ノ理法ニヨリテ、自ラ支配スルヲ得ルモノナリ、是故ニ其撰擇ハ是レ自家ノ撰擇ナリト、  
此外又此ニ一ノ折中說アリ、是レ「カント」及ヒ「シオツペン」ハ「ワ」ノ唱フルトコロニ出ツルナリ、此說ハ自由說ト必然說トノ兩論ヲ調和セリトスルニ出ツ、此等論者ノ唱フル所ハ、其哲學的見解ヨリシテ發シ來ルモノナレハ一言以テ之ヲ説明スルニ

苦シム、然レモ此ニハ其大要ヲ記スヘシ、

此等ノ學者ハ宇宙ヲ分チテ、眞實界ト顯象界トノ二トナセリ、眞實界トハ物ノ本體ニシテ、顯象界トハ其發表シ出ツル所ナリ、前者ハ吾人ノ感官ニヨリテ知覺スルヲ得ス、唯知力ノ作用ニヨリテ之アリト推論スルノミ、後者ハ之ニ反シ、吾人ノ感官ニヨリテ知覺スルヲ得ルモノトス、而シテ人ハ此兩界ニ屬ス、我ト稱スルモノハ是レ眞實界ニシテ、之カ發顯シ種々ノ作用ヲ爲スニ至ルヤ、是レ最早ヤ顯象界トナルモノナリ、何トナレハ我カ存在スルハ、是レ感官ニヨリテ知覺シ得ルヲニアラス、唯吾人ノ推論ニヨリテ之ナカルヘカラスト論究シ得タル結果ト外ナラス、而モ吾人ノ行爲ハ皆是レ感官ニヨリテ知覺スルヲ得ルモノナレバナリ、是ニ於テ乎說ヲ爲シテ曰ク、吾人ハ知力的ニ自由ナルモノナリ、即チ言ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ、本體ノ上ヨリシテ之ヲ觀察スレハ、自由ナルモノナリ、然レモ感覺的ニハ必然的ナルモノナリ、即チ顯象界ニアリテハ、其行爲タル自由ナリトハ稱スヘカラサルナリト、然レモ顯象界ト眞實界トカ果シテ此ノ如ク全然獨立シテ存在シ得ルモノナル乎、否ヤハ吾人ノ疑ハサルヲ得サル所ナリ、若シ此兩界ニシテ此ノ如ク全然區別スヘ

(二八七)



キモノニアラストセハ、此説モ到底十分ニ證明シ得ルモノトハ稱スヘカラサルナ  
リ、此説ノ第一根本ニ於テ必要ナルハ、即チ此兩界ノ區別ニアリ、此兩界區別ノ存在  
不存在ハ、直チニ此説ニ影響スル所ナカルヘカラス、

上來叙ヘ來ル所ニヨレハ、絶對的必然論及ヒ絶對的自由論ハ共ニ取ルニ足ラス、又  
「カント」諸氏ノ如キ折中説モ、亦以テ完全ナリトハ稱スヘカラサルニ似タリ、然レモ  
此問題ニ關シテハ、望テ折中説ニ置カサルヲ得サルナリ、抑モ外界ノ万物ハ、皆自己  
ノ意識ヲ有スルモノニアラス、又意志アルモノニアラサルナリ、於是乎其狀態ノ變  
化亦悉ク外界事情ノ誘因ニヨリテ成ルモノナリ、吾人々類モ宇宙ニ於ケル生物ノ  
一員トシテハ、到底此等ノ物躰ト同シク、外界事情ヨリシテ全然獨立自存スルコト能  
ハサルナリ、前屢之ヲ述ヘタルカ如ク、天候ノ氣質ニ於ケル、山川ノ思想ニ於ケル、皆  
之カ爲メナリ、然リト雖モ吾人ハ高等動物ナリ、明了ナル意識ヲ有シ、理性ニヨリテ  
導カレ、種々ノ動作ヲ爲シ得ルモノナリ、豈ニ一々下等動物若シクハ生物若シクハ  
無生物ト同シキアラシヤ、吾人ハ幾分カノ度ニ於テ自己ノ意志如何ニヨリテ動作  
ヲ左右シ得ルコトヲ感スルナリ、日常ノ瑣事ニ至リテハ、何人モ皆其必然ニヨリテ動

作スルモノトハ思ハス、故ニ吾人々類ニ於テハ、一方ヨリシテ之ヲ見レハ必然的  
リト雖モ、又他方ヨリ之ヲ見レハ幾分カハ自由ナルモノナリト謂ハザルヘカラス、  
此論ハ固ヨリ今確證スルコト能ハス、何トナレハ吾人カ唯此ノ如ク感スルニ止マレ  
ハナリ、

### 第六 自然界哲學

吾人ハ純正哲學ノ部ニ於テ、已ニ宇宙ノ大本元理ナルモノハ、果シテ如何ナル乎ト  
ノ疑問ニ付キテ、古來ノ見解ノ大畧ヲ論述シ了レリ、宇宙ノ大本元理カ外界ニ發表  
シ來ルヤ、乃チ此ニ自然界ヲ成ス、自然界トハ、即チ吾人カ感官ニヨリテ知り得ル所  
ノ諸種顯象是レノミ、此等雜多ノ顯象ハ其形ニ於テハ、變化究リナク、其數ニ於テモ  
必ラスシモ限リアリトハ謂フヘカラス、然リト雖モ吾人ハ此等ノモノヲ以テ悉ク  
別物ニシテ、秋毫モ相關スルナキモノトハ考フルコト能ハス、若シ其レ大本元理ノ  
發表シテ、此等諸種ノ顯象ヲ形成スルモノナリトセハ、其顯象ハ無限ナリトスルモ  
必ラスヤ多少ノ之ヲ總括スル所以ノ元理存在スルナキヲ得ス、已ニ科學ノ研究ニ  
當リテ之ヲ見ルモ、一見毫モ相關セサルカ如キ顯象ヲ探リ來リテ之ヲ統一シ、



定ノ元理ノ下ニ歸着スルニアラスヤ、科學ハ一定ノ範圍ヲ限リテ、世中ニ於ケル自然の元理ヲ研究スルニ止マルノミ、未タ之ヲ以テ自然界全體ノ理法トハナスニ足ラサルナリ、是ニ於テ乎吾人ハ哲學上ヨリシテ、科學ニ於ケル所謂元理ナルモノカ、果シテ正當ナリヤ否ヤヲ試驗シ、其顯象ノ本質ナルモノハ、果シテ是レ一ナル乎、或ハ是レ多ナル乎、又其性質ニ於テハ果シテ物質的ナル乎、或ハ然ラスシテ精神的ノモノナル乎ヲ研究セサルヘカラサルナリ、是レ即チ自然界哲學ノ精神トスルトコロナリ、

是故ニ吾人ハ敘論ニ於テ已ニ次ノ如クニ曰ヘリ、吾人若シ宇宙万有ノ大原ヲシテ、不可知的ノ一物ナリトセハ、自然界哲學トハ此不可知的ノ一物ヲ研究シ、其物カ如何様ニ外界ニ發表スルカヲ論述スルモノナリト、又之ニ次テ曰ク、此學ハ一切ノ宇宙顯象ニ付キテ、哲學的説明ヲ付與スルノミニシテ、決シテ其一々ノ顯象ヲ討究シ、其如何ニシテ發生シ來リ、其狀態ノ變化ハ如何、又其間ニ存在スル自然法ハ如何等ノ疑問ヲ講述スルモノニアラス、何トナレハ此等ノ疑問ハ、皆是レ科學ノ研究スル範圍ニ屬スレハナリ、自然界哲學ハ科學研究ノ結果、及ヒ假定ニ採リ來リ、之ニ哲學

的元理ヲ應用シ、以テ批評的ニ其正確ナリヤ否ヤヲ試驗スルモノナリト

之ヲ要スルニ、純正哲學ハ宇宙ノ本性ヲ論ジ、自然界哲學ハ自然界ニ於ケル諸種顯象ノ大本ヲ研究スルモノナリ、此ノ如ク論スルハ此兩者ノ區別、極メテ明了ニシテ、其間決シテ相混一スヘカラサルカ如クナレハ、實際ハ決シテ然ラス、抑モ純正哲學ニ於テハ必ラス先ツ宇宙ノ本性カ何物ナル乎ヲ論セサルヘカラサルナリ、已ニ宇宙ノ本性ヲ論スルハ、固ヨリ此中ニハ又精神界ト自然界トノ未タ發表シ出テサル所以ノ大本ヲ論スルモノナレハ、其大本的ノモノカ如何ニシテ一方ニハ精神的顯象トナリ、他方ニ於テハ又自然的顯象トナリテ發表スルカヲ研究セサルヘカラス、是レ其論法ノ勢ヒノ必ラス此ニ出テサルヲ得サルナリ、

是故ニ古來ノ哲學者モ、自然界哲學ヲ純正哲學ヨリ全然分離シテ、別ニ之ヲ論述スルハ往々ニシテ之ナキニアラスト、雖モ而モ此二者ヲ混一シテ敘述スルモノ、亦實ニ尠ナリトセス、否寧ロ之ヲ混一スルヲ以テ常トナサ、ルヲ得ス、是故ニ純正哲學ハ、必ラス自然界哲學ヲ俟タレバ其完全ナルヲ得ス、自然界哲學モ純正哲學ヲ俟タレバ、到底其確乎タルヲ望ムヘカラサルナリ、



万有本原ノ性質論

(一九二)

自然界ト云ヘハ之レ一ナリト雖モ尙ホ之ヲ細別スレハ客觀的顯象ト主觀的顯象トナラサルヲ得ス、此二者カ其範圍ニ於テ互ニ相反對スト雖モ物ノ相反對スルヤ即チ其兩者ヨリ一層高尙ナル種屬ヲ成ス所以ノモノナリ、是ニ於テ乎、古來此二者ヲ探リテ以テ一ニ歸セントスルモノ少カラス、若シ果シテ之ヲ以テ一ナリトセハ、其本原的ノモノハ之ヲ精神的ナリトセン乎、或ハ物質的ナリトセン乎、乃チ吾人ハ此ニ二種ノ相反對スル學說ノ存在ヲ見ルナリ、二種トハ何ソ、曰ク唯物論、曰ク有神論ト是レナリ、

(一) 唯物論

唯物論トハ「ホツアス」「ラメツトリー」「ホルバツフ」諸氏之ヲ首唱シ、最近ニ至リテ獨「ドニヒサル」「フオーグト」「モレシオツト」諸氏之ニ和セリ、此等ノ學者ハ以爲ラク、宇宙ノ顯象ハ無限ニシテ究リナシト雖モ、吾人ハ之ヲ以テ悉ク一始原躰ニ歸着スルヲ得ヘシ、而シテ其始原ノ躰タル是レ物質的ノモノタルニ過キス、吾人ノ精神即チ人間ノ精神的作用ノ如キ、一見スルモハ物質ト大ニ其性ヲ異ニスルカ如シト

雖モ仔細ニ之ヲ研究スルモハ毫モ物質ト異ナルモノニアラサルナリ、所謂精神トハ何ソヤ、生理的或ハ物理的ニ之ヲ研究スレハ、畢竟是レ吾人ノ腦髓ノミ、心理學ハ最近數十年ノ間ニ於テ驚クヘキ長足ノ進歩ヲ爲セリ、而シテ吾人カ精神ノ作用モ日ニ月ニ其精細ナル驗究ヲ遂クルニ至レリ、今其研究ノ結果ニヨレハ、吾人カ腦髓ニ於ケル分子ノ變動ハ、即チ是レ吾人ノ所謂精神的作用ヲ發スル所以ナリトス、所謂分子ノ變動ナルモノハ、果シテ化學的ナル乎、或ハ物理的ナル乎、詳細ナル點ニ至リテハ、未タ容易ニ之ヲ判スルヲ得スト雖モ、而モ其分子ノ變動ハ、精神的作用ヲ發スルニ至ルトノ一事ハ、最早ヤ何人モ疑フベカラサル事實ナリ、白痴ノ如キハ常人ニ比シテ其腦髓ノ多少足ラサルトコロノモノアリ、是ニ於テ乎、其精神的作用缺乏ス、風癩ノ如キ、亦一時其腦ニ於テ變狀ヲ來スナリ、而シテ其精神的作用亦常ヲ失ス、其他精神ヲ過勞スルモハ、腦髓ニ於テ物質上ノ變化ヲ來スハ、何人モ皆熟知スル所ナリ、是ニ於テ乎、又之ヲシテ作用セシムルヲ能ハサルナリ、此等ノ事實ニ付キテハ、心理學、生理學、或ハ精神病學上、着々其證明ヲ見ル、是レニ由リテ之ヲ觀レハ、精神トハ、即チ是レ腦髓ニ外ナラサル斷シテ知ルヘシ、而シテ腦髓ハ是

(一九三)



レ亦物質ノ由リテ成ス所タリトス、然ラハ宇宙、唯物質アルハミ、物質カ稍變狀シテ此ニ精神ヲ生スルナリ、精神豈ニ物質ト其類ニ於テ異ナリトセンヤト、是レ近世唯物論者ノ唱フル所ナリ、先代ノ唯物論ト其詳細ノ點ニ於テハ、稍異ナル所ナキニアラスト雖モ、物質ヲ以テ宇宙顯象ノ大本ナリトナスニ至リテハ、古今一ナリ、今此ニ先代唯物論ノ例トシテ、ホツプス<sup>1</sup>及ヒ「ラメットリ」<sup>2</sup>二氏ノ言ヲ略述スヘシ、

「ホツプス」ハ以爲ラク宇宙ニ於ケル一切ノ作用ハ總ヘテ之ヲ運動ニ歸着スルコトヲ得ヘシ、如何ナルモノモ其他物ヲ動かサントスルニハ、必ラス先ツ自カラ動カサルヲ得ス、而シテ其運動ノ他ニ傳達スルヤ、必ラス又其中間ノ一物アルヲ要ス、距離ヲ有スルノ二物、互ニ直接ノ感化ヲ及ホスカ如キハ、到底此理ナキナリ、運動カ人間或ハ動物ニ感スルモ、總ヘテ腦ニ入り此ヲ以テ反動ヲ生ス、而シテ感覺トナル感官ヨリシテ入ル所ノ性質例之ヘハ音響、色彩等ノ類ハ、唯ニ是レ感覺的動物ニ對シテ存在スルノミニシテ、決シテ其實體ニ固有スルモノニアラス、而シテ此感覺ナルモノハ、即チ是レ吾人知識ノ大元ナリ、吾人カ一事物ヲ感スルヤ、印象トナリテ存シ、再

ヒ意識トナリテ喚起セラレ得ルナリ、所謂記憶ナルモノ是レナリ、吾人ハ符號ニ因リテ以テ此記憶スル物體ヲ他人ニ通ス、而シテ此ニ言語ナルモノ生ス、之ヨリシテ吾人カ漸々經驗ヲ積ミ、一語ニヨリテ以テ其互ニ相類似スル數個ノ物體ヲ表彰スルニ至ルヤ、此ニ普通のノ名辭即チ今日ニ所謂概念ヲ成スナリ、然レモ其謂フ所ノ普通トハ、語ノ普通ナルモノニシテ、決シテ其物體ノ普通のナルニハアラサルナリト、

「コンヂラー」ノ感覺說ハ、「ヘルベシユス」<sup>3</sup>ノ手ヲ經ラメットリ<sup>4</sup>ニ至リ、唯物論ト變化シ去レリ、蓋シ唯物論ヲ唱フルモノニアリテハ、其知識論ノ範圍ニ於テハ必ラス經驗論、或ハ感覺論ヲ取ラサルヲ得サルナリ、「ラメットリ」ハ以爲ラク、吾人ノ有ラニル心理的作用ハ、畢竟是レ吾人カ肉體組織ノ結果ニ過キス、吾人ハ單ニ是レ複雜ナル器械ノミ、吾人ノ手足ハ能ク運動ヲ爲スカ如ク、吾人ノ腦髓ハ是レ思想ヲ造出スル所以ノ器械ナリ、腦髓ハ始メ單簡ナル印象、即チ感覺ヲ生シ、之ヨリシテ漸ニ思想ヲナスト、

唯物論者ノ唱フル所ハ大率此ノ如キナリ、然リト雖モ此說ハ吾人ノ未ダ容易ニ承



認スルヲ得サルモノナリ、之ニ對スル駁論ハ固ヨリ二三ニシテ足ラサルヘシト雖也、此ニハ先ツ其尤モ主ナルモノ一二ヲ掲クヘシ、  
 此說ニヨレハ第一器械的、若シクハ化學的作用ト、精神的、作用ト、區別ヲ全滅セサルヘカラス、抑モ器械的作用トハ物體ト物體トノ間ニ於ケル作用ナリ、例之ヘハ今手ヲ以テ一物ヲ打ツルハ、其物ヲシテ運動ヲ起サシムベシ、此運動ニヨリテハ又諸種ノ作用ヲ爲サシムルヲ得、此ノ如キモノ之ヲ物理的ノ作用トハ云フナリ、化學的作用トハ、元子ト元子トノ間ニ於ケル作用ナリ、化學上ニ所謂元子ハ、其間ニ於テ互ヒニ相親和シ、或ハ相突キ離スノ力ヲ有スルモノトス、例之ヘハ水酸ノ二素ハ、互ニ相親和スル力ヲ有スルニヨリ此モノカ相親和シテ、以テ水ナル一ノ複合體ヲ形成スルナリ、此ノ如ク物體ノ中ニ於ケル化學的變化ニヨリテ生スル元子間ノ作用ハ、總ヘテ之ヲ化學的作用ト稱スルナリ、此等ハ皆此レ物質ノ間ニ於テ成ルモノナリトス、  
 之ニ反シ、精神的作用トハ此ノ如キ物質間ニナルモノニアラスシテ、物質ノ變化ハ之ニ伴ヒ生シ、或ハ物質上ノ變化ヨリシテ發シ來ルヲ之アリトスルモ、之ヲ以テ必

ラスシモ之ト同一視スベキニアラサルナリ、例之ヘハ感覺、知覺、感情等ノ如シ、唯物論者カ所謂腦髓ト精神トカ同一ナリト云フルハ、畢竟此等ノ作用ヲ同一視セサルヲ得ス、然レモ吾人ノ此ニ於テ先ツ問フヘキハ、所謂精神的ノ作用ナルモノハ、果シテ所謂物質的ノ作用ト同一ニ見做スヲ得ヘキ乎ト云フ、是レナリ、物理的及ヒ化學的作用ニシテハ、感覺或ハ知覺ノ如キ作用ヲ生シ得ヘキ乎、吾人カ感覺等ヲ生スルニハ、先ツ外界物體ノ刺撃ナカルベカラス、此等ノ刺戟カ神經ノ傳達ニヨリテ腦髓ニ達シ、此ヲ以テ其變化ヲ生スルナルヘシト、而モ是等ハ皆是レ物理的、或ハ化學的作用ト稱スヘキモノナリ、此等ノ事ニシテハ尙ホ所謂精神ノ作用ナルモノハ存在セサルナリ、是等ハ唯無生物ノ作用ニシテ、吾人ノ精神的作用、即チ感覺知覺等ハ、尙ホ一層高尙ナル作用之ニ附加スルナキヲ得ス、腦髓ノ組織ニ於テ變化ヲ生ズルハ、是レ唯物質ノ變化ノミ、之ヲ感ズルモノハ、物質以外ニ存ゼザルヲ得ザルナリ、感スト云フ、ハ已ニ是レ所謂物質ノ有シ得ベキ性質ニアラサレバナリ、人或ハ曰ハシ、吾人ノ腦髓ヲ研究スルニ別ニ精神ナルモノ存在スルヲナシ、吾人カ身體ヲ解剖スルルハ、唯是レ腦髓ノ存在スルヲ見ルノミト、曰ク然ラハ、凡ソ物ノ分



解的研究ハ唯其物ニ由リテ成立スル所以ノ元素ノ何タリヤヲ知ルノミ、分解的研究ハ、決シテ之ニ由リテ以テ其事物ノ知識ヲ盡セリトハ謂フベカラサルナリ、今吾人ノ身軀ヲ分解スレバ、大ニシテハ身軀四肢頭顱アルノミ、然ラハ則チ論者ノ言ニ從ヘハ人ナルモノハ存在セズト謂フ可ナラン乎、何トナレバ之ヲ分解スルモハ、唯此等ノ外一物モ存在セザレハナリ此ノ如キノ論果シテ之ヲ正當ナリト謂フテ得ヘキ乎、分解スレハ固ヨリ身軀四肢ト頭顱トニ過ギズト雖モ、此等ノモノガ相合成シテ、此ニ始メテ人ナルモノヲ成スナリ、人ハ身軀四肢等ヲ離レテ存在スルコトヲ得スト雖モ、身軀四肢各部ヲ取リテ之ヲ人ト稱スヘキ乎、手ハ人ニアラサルナリ、足ハ人ニアラサルナリ、其他身軀頭顱皆亦此ノ如シ、是ニ由リテ之ヲ觀レバ、身軀四肢等ノ以外、更ラニ人ナルモノ存在スト云ハサルヘカラザルナリ、吾人ノ精神ニ於ケルモ亦此ノ如キナリ、之ヲ分解スレハ腦髓ノ存在スルニ過ギズト雖モ、而モ其物質的ノ腦ノ中ニ寓シテ、以テ精神ヲ存在スルナリ、然ラザレバ所謂物質ナルモノハ、決シテ精神的作用ヲ有シ得ルニアラザルナリ、

然ラハ即チ唯物論者ガ、器械的作用ヲ以テ精神的作用ト同一視スルノ非ナルヤ知

ルヘキナリ、所謂器械的ハ單ニ器械的タルノミ、所謂精神的ハ單ニ精神的タルニ過ギザルノミ、此等ノモノガ如何ニ密接ニ關係シ、伴生變化スルモノナリトスルモ、決シテ之ヲ以テ同一ナリトハ謂フヘカラザルナリ、之ヲ以テ原因結果ノ關係ニヨリテ成ルモノナリトスルモ、決シテ其不可ナルヲ見ザルナリ、彼等ノ思フニ此等ノ二者ハ其性ニ於テ互ニ全ク相反スルモノナリ、而シテ同類ノモノニアラザレバ、一ノ作用カ他ニ及フコトヲ得ザルモノナリト考フルニ由リ、之ヲ以テ解釋ニ苦シムナリト雖モ、而モ其同類ノモノニアラザレハ、何故ニ互ヒニ相感化スルコトヲ得サルカ、是レ抑、怪シムヘキコトニアラズヤ、彼等ハ此レニ對シテ果シテ如何ナル證明ヲ與ヘ得ヘキ乎、此論ノ取ルニ足ラサルコトハ前已ニ之ヲ述ヘタレバ、今此ニ之ヲ述フルヲ要セザルヘシ、

唯物論ヲ主張スルモノハ、或ハ又曰ハシ、精神的作用ト、物理的或ハ化學的作用トハ、互ニ相異ナルモノナリトハ、是レ徒ラニ文字ニ拘泥スルノ論ナリ、吾人カ平常此ノ如ク區別スル所ノモノモ、畢竟其終ニ迄テ、論究スルトキハ、精神的作用ニ物質的作用ノ邊ニ過キサルヲ唱フルノミ、唯物論ハ決シテ物質的ト精神的作用トヲ直チ



ニ混一スルモノニハアラサルナリト、曰ク然ラス、若シ果シテ物質ニシテ精神的の作用ヲ有スルモノナリトセハ是レ己ニ物質ニアラザルナリ、物質的トハ、即チ精神的ニアラサルノ謂ナリ、若シ之ヲ取りテ精神的ノ作用ト區別スル所ナシトセハ、以テ此兩者ノ外、一種作用ノ存在ヲ證スヘキナリ、然レモ決シテ之ヲ以テ直チニ精神的作用ニ過キストハ稱スヘカラサルナリ、若シ又物質モ精神的ノ作用ヲ有スト云ハント欲セハ、直チニ物質ヲ取り來リ、以テ其精神的の作用ノ存在スルヲ證セサルヲ得サルナリ、唯物質的ノ變化ト、精神的ノ變化トカ、同時ニ相應シ生ストノヲハ決シテ此ラノ同一ナルヲ證明スルニ足ラザルナリ、何トナレバ其作用タル各自自發的ニ生スルモノナリヤモ、又相關連シテ生スルモノナリヤモ、將タ又此ラノ兩者ヨリモ一層深遠ナル作用アリテ、同時ニ此ノ如キ兩種ノ變化ヲ成サシムルモノナリヤモ、未タ容易ニ之ヲ判知スヘカラサレハナリ、然ルニ之ヲ以テ直チニ此兩者ヲ同一視スルハ、寧ロ速斷ニ失スト、謂ハサルヲ得ス、

之ヲ要スルニ唯物論ナルモノハ、客觀或ハ其作用ヨリシテ、直チニ主觀或ハ其作用ヲ演繹シ出サントスルニアリ、是レ實ニ驚クヘキノ謬論ナリトス、何トナレハ前ニ

屢之ヲ述ヘタルカ如ク、主觀ト客觀トハ其範圍ニ於テハ、互ニ相反對シテ容レサルモノナレハナリ、

次ニ唯物論ニ全ク相反對スル學說アリ、之ヲ

(二) 有神論 スピリチュアリズム

ト稱ス、有神論トハ神ヲ信スルモノニアラス、精神的ノモノヲ以テ、万有顯象ノ大元ナリトナスナリ、然レモ有神論ハ又唯心論トハ異ナリ、唯心論ニアリテハ吾人ノ精神ガ發達進化スル際ニ於テ、經過スル種々ノ階段、即チ是レ客觀的顯象ナリトナスカ(主觀的或ハ絶對的唯心論)或ハ自然界ノ知識ハ、一切吾人が主觀的ノ情件ニヨリテ支配セラレサルトハ、成立スルヲ能ハザルヲ説クモノナリ、(先在的唯心論)有神論ハ然ラス、所謂物質ト稱スルモノモ、皆是レ無意識ノモノニアラスシテ、其實悉ク精神ヲ有スルモノナリ、唯其精神發達ノ度ニ於テ、互ニ相異ナル所アルノミ、是故ニ其作用ガ外界ニ發顯シ來ル狀態ニ於テモ、此ノ如ク大ナル差異ヲ呈スルニ至ルモノナリ、即チ吾人人類ノ如キハ、其最モ發達シタルモノニシテ、又最モ能ク其作用ヲ外界ニ發表スルヲ得ルモノナリ、下等動物ニ至リテハ其階段一層ノ差異ヲ爲ス、而



モ尙ホ其意義ヲ有スルヤ、何人モ毫モ疑ヒテ容ルヘカラサルナリ、植物ハ尙ホ一層之ニ下リ、礦石或ハ所謂無生物ノ如キハ、其最下級ニ位スルナリ、是故ニ此等ノモノニアリテハ、一見意識的作用ノ存在セサルガ如シト雖モ、其實ハ尙ホ多少ノ之カ形迹ノ存スルアルヲ認ムルヲ得ヘシ、云ハ、是レ眠レル精神ノ状態ナリ、即チ無生物トハ畢竟其眠レル精神ノ状態ノモノヲ指シタルノ名稱ニ過キササルナリト、此說ヲ主唱スルモノハ、古來僂指ニ違アラス、然レモ近代ニ於テハ、「ライプニッツ」尤モ著シク之ヲ唱導シ、「ロツツエ」亦之ニ和セリ、

「ライプニッツ」ノ說ノ大要ハ次ノ如シ、  
氏ハ以爲ラク、實躰ヲ以テ實質的ノモノトナスハ大ニ誤レリ、吾人ハ考ヘ、吾人ハ自己意識ヲ有スルノ一事、以テ之ヲ證スルニ足ル、蓋シ人ハ又是レ實躰ノ一タレバナリ、然レモ「デカート」ノ定義未タ以テ足レリトナスヘカラス、「デカート」ハ實質的物躰ノ性質ヲ以テ、單ニ廣延ヨリ成立スルモノトセリ、然レモ身體ハ唯之ノミナラズ、又活動カヲ有スルモノナリ、然ラバ、「スピノーズ」ノ心身ハ實躰ニ於テ同一ナリトノ根本的思想ハ、是レ眞ナル乎、曰ク若シ世界ニ於テ眞ニ廣延ヲ有スル物躰存在セバ、

スピノーズノ說必ラズ眞ナラサルヘカラス、然レモ如何セシ、物躰ノ無限ニ分割シ得ルコトハ、已ニ其集合躰ニシテ、實躰ノ多ク相集合シテ成ルモノタルヲ證スルコト、眞正ノ實躰ト稱スヘキモノハ、是レ分割スヘカラス、又打破スヘカラサルヲ要スレハナリ、而シテ、「ライプニッツ」ハ此等ノ分割スヘカラサル所ノモノヲ稱シテ原子ト云ヘリ、

斯ノ如ク眞ニ分割スヘカラザルモノハ、是レ又自カラ一個躰タラサルヲ得ス、何トナレハ個躰ノ相集合シ成レルモノハ、又其個躰ニ分解スヘケレハナリ、故ニ原子ハ宛モ幾何學上ニ所謂點ノ如ク、哲學上ノ點ニシテ、是レ形式的ノモノナリ、然レモ又實有ニシテ、獨立ノ實躰ヲ有スルモノタリトハ、已ニ一個躰ナルカ故ニ、永存ニシテ打破スヘカラサルナリ、然ラハ則チ此單躰ハ當サニ如何ナルモノアルヘキ乎、曰ク眞正ノ單躰ナルモノハ、活力ノ外更ラニ之ヲ考フル能ハサルナリ、

原子ハ此ノ如ク自ラ活動スル性ヲ有スルモノナリト雖モ、又各個有限ノ原子ニアリテハ、受働的ノ方向モ全ク之ナキニアラス、眞ニ純然タル活力ノミナルモノハ、唯神ニ限レリ、受働ハ即チ抵抗カトナリテ、外ニ發表セラル、物躰ニ於ケル不可入ノ性



即チ是レナリト、氏ハ更テニ進ミテ曰ク、若シ物質ニシテ果シテ活力ヨリナルモノ  
 ナラシメハ、其中又感覺知覺ニ類スルモノナカルヘカラス、故ニ吾人ハ實體ヲ以テ  
 有限ノ精神ナリト考フルルキハ、稍其髣髴ヲ得ヘケン、各實體ハ己ニ知覺力ヲ有スル  
 モノタレハ、是レ又其裡面ニ於テ連續シタル活動ヲ爲スヤ必ヒリ、蓋シ吾人ノ精神  
 ニアリテハ、常ニ作用連續シ曾テ其中絶スルコト之ナクレハナリ、乃チ知ル、原子ノ互  
 ニ相均ニナルモノハ、決シテ存在スヘカラサルコトヲ、何トナレハ、是レ各其自己固有  
 ノ活動ヲ爲シ居ルモノナレハナリ、譬ヘハ、尙キ人間若シクハ動物ノ互ニ相均一ナ  
 ルチキカ如シ之ノミナラス、宇宙ノ方有ハ、皆此原子ノ成ス所ナレハ、方有ハ總ヘテ  
 又精神的ノモノタラサルヲ得ス、其廣延ノミアルカ如キモノハ、唯ニ是レ外見上ノ  
 コトニシテ、世界ハ實ニ是レ一個ノ有機體ニシテ、知覺力ヲ有セルモノ、相群集シテ播成  
 スル所ナリト、

此ノ如ク原子ハ自己ノ活力ニヨリ活動シ居ルモノナレハ、又各個固有ノ發達ヲ爲  
 スモコト謂ハサルヘカラス、而シテ活力ハ固ヨリ其内部ヨリシテ自發ニ來リ、其進  
 歩ヲ方向ヲ確定スル所以ヲモクナリトス、即チ原子ハ決シテ他ヨリ作用ヲ受ケ給

メテ活動スルモノニアラサルナリ、何トナレハ此ノ如キ活動ハ、所謂器械的ノ活動  
 ニシテ、是レハ唯廣延ヲ有スル物體ノ間ニアラサレハ決シテ行ハル、コト能ハサル  
 モノナレハナリ、而シテ原子ハ己ニ云フカ如ク、廣延チキモノナリ、故ニ原子ノ間ニ  
 ハ器械的相互ノ作用ハ之チキモノナリ、何トナレハ、ライオンノ鬚ニ原子ハ窓隔  
 チキモノナリト、

原子ハ他ノ原子ニヨリテ感發セラレ、コトナク、唯自發的作用ニヨリテ、以テ連續的  
 ニ發達進化シ止マサルモノナリ、何トナレハ各個ノ原子ハ其初ヨリシテ己ニ其發  
 達ノ順序ヲ確定セラレタレハナリ、例之ヘハ、ナキ植物ノ種子ノ、其生長シテ壯大ナ  
 ル植物トナル以前、己ニ其生長スヘキ性質及ヒ其樹幹枝葉等トナルヘキ部分ヲ自  
 家ノ裡ニ潛有スルカ如シ、而シテ原子ハ是レ精神的ノモノナレハ、其進化變遷ニ於  
 テ各各個ノ狀態ハ即チ思想ト稱スルモノタラサルヘカラス、故ニ原子ノ發達トハ  
 即チ思想ノ發達はレナリ、

然レモ原子ハ又他ノ原子ニヨリテ、其發達ヲ制セラレサルヲ得ス、何トナレハ如何  
 ナル原子ニモ、其發達進化ノ際ニ於テ其自己固有ノ位置ヲ保存シ得ル所以ノモノ



ハ亦唯其過去未來千萬無量ノ原子ノ存在スルアレハナリ、若シ此等ノ原子ニシテ存在セザレハ、如何ナル原子モ其固有ノ地位ヲ保チ得ヘカラス、之ヲ換言スレハ、如何ナル思想モ皆是レ過去未來千萬無量ノ思想ノ總計ニヨリテ、以テ感發セラレタルモノナリ、則チ一思想ヲ考フルニハ、必ラス此等無量ノ思想ヲ分明ニ考ヘサルヘカラス、尙ホ之ヲ略言スレハ、此等無量ノ思想ヲ自己一思想ノ中ニ反映シ有スルモノナリ、是故ニ「ライプニッツ」ノ曰ク、原子ハ一トシテ表彰的性質ヲ有セサルナシ、各個ノ原子ハ悉ク宇宙ヲ表彰スルモノナリ、世界ヲ反射スルモノナリ、何人モ若シ完全ニ一個ノ原子ヲ理解スルコトヲ得ハ、又之ニ由リテ以テ宇宙ヲモ理解スルコトヲ得ルナリ、何トナレハ是レ其反映ニ過キサレハナリ、而シテ各個ノ原子ハ皆其固有ノ觀點ヨリシテ、宇宙ヲ表彰スルナリ、但シ其ノ原子ノ占ムル地位如何ニヨリテ、其反射ノ度又自カラ明暗精粗ノ區別ヲ生セサルヲ得ス、

次ニ精神ト身軀トノ關係ニ付キテハ次ノ如ク曰ヘリ、精神ハ身軀ヲ支配スル所ノ原子ニシテ、之カ中心點トナルモノナリ、而シテ身軀ハ是レ元子ノ集合シテ成ルモノニ外ナラス、但シ吾人カ眼ニハ凝集シ廣延ヲ有スル物塊トナリ見ユル所以ノモ

ノハ、唯其思想ノ甚々開發セサルニ由リテナリ、是故ニ精神ト身軀トハ、其間ニ於テ決シテ純然タル性質上ノ差アルニアラス、唯其ノ開發ノ程度ヲ異ニスルノミ、

宇宙ニアリテハ、原子ト顯象トノ外、一物モ存在スルコトナシ、顯象トハ即チ吾人カ原子ニ於ケル知覺ヲ云フモノナリ、是故ニ廣延ハ總ヘテ顯象ニ屬ス、實質ヲ以テ實際連續シタル廣延ヲ有スルモノ、如ク思フハ、唯是レ吾人カ感官ノ誤リタル知覺ニヨリテ然ルナリ、若シ人能ク道理ヲ知り、抽象的理法ニ慣ル、ハ決シテ此等ノ顯象ニヨリテ欺カル、コトナシト、

人類或ハ下等動物ノ精神的作用ヲ有スルコトハ、固ヨリ彰々トシテ蔽フヘカラサルノ事實ナレハ、今新ニ之ヲ證明スルヲ要セス、獨リ物質ニ至リテハ、人皆其精神ノ存在ヲ疑フ、而シテ「ライプニッツ」ハ唯原子ハ活動力ナルニ由リテ、又精神的ナラサルヲ得スト云フニ止マルモノナレハ、未タ以テ其詳細ヲ知ルヲ得ス、是ニ於テ乎「ロツエ」ハ尙ホ詳シク此點ニ付キテ論シテ、次ノ如クニ曰ヘリ、

凡ソカハ直接ニ一軀ヨリ出テ、他軀ニ入り、此ニ以テ其變化ヲ生セシムルコト能ハス、即チ之ヲ換言スレハ、一物全ク受動的トナリテ、他物全ク自動的トナルコトハ、決シ



テ能ハサル所ナリ、何トナレハ活力、即チ變化ヲ起シ作用ヲ爲ス所以ノカハ、二物ノ相集マリタル上ニ於テ、始メテ顯ハレ得ルモノニシテ、一物ノミヲ以テシテハ、決シテ其作用ヲ呈シ得サルモノナレハナリ、是故ニ甲ノモノカ乙ノモノノ助ケナクシテ生レ、乙ノモノカ甲ノ力ヲカラスシテ其變化ヲ生スルコト之ナキナリ、例之ヘハ火藥ノ破裂スルニ見ヨ、火ノミアルモ決シテ之ヲ生スルコト能ハス、火藥ニ於ケル化學的性ノ能ク破裂スルカ如クニナリ居ラサルヘカテス、故ニ變化ノ生スルハ、甲カ乙ノ作用ノ反動ニ出ツルモノナリ、是ニ由リテ之ヲ見レハ、甲ハ乙ノ此ニ到達スルコトヲ知、覺セサルヘカラス、若シ乙ノ近前スルコトヲ感スルコトナケレハ、何者カ其時ニ於テ一變化ヲ生スルカハ之ヲ知ルコト能ハサルナリ、又若シ之ヲ知ラントセハ、乙ハ丙丁戊己等ノモノカ近前スルモ、同様ノ結果ヲ來サ、ルヘカラサルノ理ナリ、然ルニ此事ナシ、然ラハ則チ其之ヲ感スルヤ知ルヘキノミ、若シ果シテ前ニ云フカ如ク、乙カ甲ノ來ルヲ感シ、之ヲ知覺シ得トセハ、此ノ如ク知、覺シ、感スト云フコトハ、精神的作用ニ外ナラザレバ、物體ナルモノモ又精神的作用ヲ有スルモノト謂ハサルヘカラサルナリ、

之ヲ要スルニ物體ノ眞元素ハ即チ「ライフニツ」ノ謂フカ如ク、破壊スヘカラサル單一ナル原子ニシテ、是レ明ラカニ精神的作用ヲ有スルモノナリ、而シテ唯其發達ノ度ニ於テハ種々ニ異ナルナリ、即チ種々ノ程度ニ於テ發達セル精神ナリ、此說ニヨレハ、一切ノ動ト反動トノ間ニ於ケル難點ヲ解釋シ得ルナリ、然ラハ如何ニシテ甲カ乙ノ上ニ作用ヲ及ホシ得ル乎ニ付キテハ、尙ホ後ニ述フル所アルヘシ、然レモ余ヲ以テ之ヲ見ルニ、有神論未タ以テ精確ナリトハ稱スヘカラサルカ如シ、抑モ世界万有ノ大本カ、果シテ力ナルニモセヨ、又元子ナルニモセヨ、物質カ精神ヲ有ストハ、到底十分ニ之ヲ證明スルコト能ハサルナリ、眠レル精神ノ状態ト云フカ如キハ、精神ナル語義ヲ非常ニ擴大ニシタルノ嫌ヒナキニアラス、又一步ヲ讓リテ、物質ヲシテ眠レル精神ノ状態ナリトスルモ、此ノ如ク云フカハ必ラス物質ノ精神ナキモノニアラスシテ十分ナル證明ナキヲ得ス、唯「ライフニツ」ノ云フカ如ク、物質ハ此ノ如キモノナリ、此ノ如ク云ヘハ、万有ヲ打シテ一元ニ歸スルコトヲ得ルニヨリテ、便利ナリト考フルニ過キササルモノトセハ、是レ所謂獨斷ニシテ、實際此ノ如クナル乎モ知ルヘカラザレド、是レ論理上ニハ未決的ノコトナリ、即チ此ノ如クナラサル乎



モ未タ知ルハカラサルナリ、  
 又、ロツエノ説ノ如ク、一物カ他物ニ作用ヲ及ホストハ、即チ之カ來ルヲ知覺スル  
 モノナラハ、果シテ文字ノ正當ナル用法ニ合フモノナリヤ否ヤヲ疑ハサルヲ得ス、  
 若シ果シテ其知覺スルモノナルコトヲ明ラカニスルヲ得ハ、其ノ精神的ナルコトハ  
 固ヨリ論ヲ俟タサルナリ、然レモ此ニ疑フヘキハ、果シテ物質カ之ヲ知覺スル乎否  
 カト云フニアルナリ、物質ハ器械的、即チ毫モ精神ノ作用ナクシテ以テ能ク運動ヲ  
 受クルコトヲ得サル乎、物カ一ノ動ヲ受クルモ、之ト同様ノ反動ヲ生ストハ、是レ  
 物理學上ノ定説ナリ、然レモ反動ナルコトハ何故ニ物質ノミノ作用ニテ爲ストヲ得  
 サルモノナル乎、反動ハ何故ニ精神的ノ作用即チ知覺ト同一ナル乎、精神的ノモノ  
 ニアラサレハ、反動ヲ生スルコト能ハスト云フニハ尙ホ一層詳細ナル證明ナケレハ、  
 吾人ハ到底之ニ服スルコト能ハサルナリ、而シテ議論ノ困難トスルトコロハ、實ニ此  
 ニアリテ存スルナリ、  
 之ヲ要スルニ、有神論ハ必ラスシモ其中ニ議論ニ撞着ヲ有スルモノハ、ニアラス、然レ  
 モ單ニ是レ未決的ノモノナリ、哲學上ノ議論ハ到底未決的ノモノヲ以テ安ニスル

コト能ハサルナリ、吾人ノ安心ヲ得ルニハ必然的ニシテ普通のノ元理ニ到着スルヲ  
 要スルナリ、  
 「ライプニツ」ハ此ノ如キ原子ナルモノ、万有ノ本原タルヲ唱ヘ、此等ノモノハ感  
 覺知覺等ト稱スル如キ作用ヲ有ス、故ニ是レ精神的ナルモノナリト云ヘリ、然ラハ  
 精神ナルモノハ別ニ存在スル乎否ヤ、曰ク精神ハ尤モ開發シタル原子カ相集リテ  
 成ス所ノモノナリト、然ラハ精神ナルモノハ別ニ身軀ヨリ存在スルカ如クニ見ユ  
 ルナリ、然レモ此ニ又精神ナルモノ、存在ヲ否定スルノ學說アリ、之ヲ

(附) 思想伴生説

ト稱ス、是レ佛ノ「コント」ヲ始メトシテ「スベンサー」「ジョンステニアート」「ミル諸氏」ノ  
 唱フル所ナリ、其説ニ以爲ラク、吾人ニハ精神ト云フカ如キ一物アリテ、以テ精神生  
 活ノ主人公トナルコトハ決シテ之ナキモノナリ、精神的顯象トハ、種々ノ連合シタル  
 身軀作用(神經作用)ニ應スル所ノ種々ノ連合シタル精神作用ノ複合、ニ過キサル  
 ナリ、是故ニ生理學カ身軀ニ於ケル生活ヲハ、一切身軀成分ヨリ組織セラレタル身  
 軀ニ於ケル諸種能力ノ相互ノ作用ニ歸着スルカ如ク、心理學ハ精神的生活ヲハ、心



理的諸能力ノ連合シタル作用ニ歸着スヘキナリト、此說ニヨレハ、吾人ノ所謂精神トハ是レ一個ノ獨立シタル自存的ノモノニアラスシテ、多數ノ精神的成分或ハ狀況ノ集合シタルモノナラサルヘカラスト云フニアリ、然レモ此說亦吾人ノ服スヘキニアラサルナリ、蓋シ此說ハ吾人ノ實驗ニ反スルモノナリ、何トナレハ主觀ナキ單純ナル感覺ナルモノハ、事實上ニ於テハ何處ニモ存在スルアルナシ、譬ヘハ運動ノ如シ、吾人カ運動ヲ考フルニハ、必ラス運動スル所以ノ物體ヲ要スルナリ正サニ此ノ如ク、感覺モ之ヲ感スル所以ノモノ、必ラス先ツ存在セサルヘカラスト、感覺カ生スルニハ此ノ如クニシテ始メテナルヲ得ルモノナリ、若シ然テサレハ到底其發生ヲ見ルヲ能ハス、而シテ單ニ運動ナル作用ヨリシテ、運動スル物體ヲ推究シ出スト能ハサルカ如ク單純ナル感覺ノ中ヨリシテハ、決シテ之ヲ感スル主觀ナルモノヲ演繹シ來ルヲ得サルナリ、若シ今吾人カ單ニ他人ニ於ケル心理的作用ヲ觀察スルハ心理的狀態ナル感覺等ノ主觀ナクシテ存在シ、毫モ一個ノ不變ナル人性的主觀ノ實在ヲ要セサルカ如クナレモ、而モ吾人カ關テ吾カ内界ノ經驗ヲ徵スルハ、吾人ヲシテ必然的ニ意識ノ統一ナルモノ、存

在ヲ認メシムルナリ、

上來述ヘ來リタルカ如ク宇宙ノ万象ヲ取リテ、悉ク精神的ナリト云フモ、未タ信スヘカラスト、又物質的ナリト云フモ確然タル證明ヲ與ヘ得ルヲナシ、是ニ於テ乎更ラニ一種ノ說ヲ爲スモノアリ、即チ

(三) 二面論

是レナリ、レ古來種々ノ學者ニヨリテ唱道セラル、ナリ、クリッポールド「ペイン」等ノ諸氏亦此說ヲ持セリ、中ニ就キ「クリッポールド」ノ說ク所ハ一種ノ新說ナリ、

物理學上に於ける二面論

「クリッポールド」氏ハ以爲ラク、天地開闢以前万有ノ未タ發生セサルヨリシテ、宇宙ニハ心素ナルモノ存在セリ、是レ決シテ打破スヘカラスト、又永恒ニ亘リテ存在スルモノナリ、心素トハ如何ナルモノナリヤハ、固ヨリ之ヲ詳説スルヲ能ハス、何トナレハ此ノ如キモノ、在存スヘシトハ、唯吾人ノ臆說ニ止マレハナリ、而モ之カ一定ノ順序ニ於テ作用セシレ或ハ發達シ來レバ、即チ精神トナルナリ、然レモ其未タ十分ニ發達セサル當時ニアリテハ、精神的ノ作用ヲ有スルモノニアラス、而シテ又物質



的ナリト云フニモアラス、此兩様ノ性質潜有スルモ、未タ何レノ範圍ニモ屬セサルナリ、云ハ、此兩者ヨリモ一層始原的ナルモノナリ、是故ニ心素カ或ル事情ニ遭遇スレハ、即チ其從來潜有セル能力カ發表シテ精神的ノモノトナリ、又物質的ノモノトモナルナリト云フニアリ、即チ言ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ、宇宙ニハ始原的ノ心素ナルモノアリテ、物質及ヒ精神ノ兩性ヲ潜有シ、之カ發達スルモ、此等兩様ノ顯象ヲ呈スルニ至ルモノナリト、

「バイン」氏ノ如キモ、又精神身軀ノ二字ヲ合シテ以テ一字トナシ、之ヲ心身ト稱セリ、此心身ガ一面ヨリ見レバ精神トナリテ顯ハレ、他ノ一面ヨリ見レハ身軀(即チ物質)トナリテ顯ハルト、而モ其本質ニ於テ共ニ是レ同一ニシテ無差別ナルトテ説ケリ、或ハ最近ノ心理學ヲ研究スル者ニ至リテハ、精神モ一ノ力ナリ、物質モ一ノ力ナリ(「ウォルテツキス、セオリー」)其力ノ間ニ於テハ果シテ如何様ニ關係スルトコロアル乎、其本質ニ於テハ此等ノ二者カ果シテ同一ナリヤ否ヤハ、今之ヲ確知スヘカラスト雖モ、思フニ是レ必ラス一ナルヘシ、其一個ノ未知的ノ力カ一面ニ、即チ精神界ニ顯ハレ來レハ、精神的顯象トナリ、他ノ面即チ物質界ニ發シ來レハ、即チ物質的顯象トナルナリ、此ノ如ク其發表シタル上ニ付キテ之ヲ觀察スレハ、全然相異ナレルニ物ナリト雖モ、其本質ニ付キテ之ヲ研究スレハ、即チ是レ一ナルナリト云フモノアリ、最近ノ心理學者ニシテハ之ヲ唱フルモノ多シト雖モ、哲學者ニシテ此ト同一ノ見ヲ持スルモノ少カラス、トレンデレンブルグ氏ノ如キ其一例ナリ、

### 哲學上ニ於ケル二面論

「トレンデレンブルグ」氏ノ説ニ以テク、人間知識ノ最終ノ區別ハ、實ニ思考ト實験ト即チ之ヲ換言スレバ、主觀ト客觀トノ間ニアリ、主觀ト客觀トカ、如何ニシテ相合シテ以テ吾人ノ所謂知識ヲ成スニ至ル乎、即チ如何ニシテ主觀カ客觀ニ移リ行クト得ル乎、如何ニシテ又客觀カ主觀ニ入ルトテ得ヘキ乎、而モ主觀ト客觀トカ合一スルニアラザレハ、吾人ノ知識ハ到底成立スルト能ハサルナリ、是レ實ニ吾人ノ研究スヘキ重大ナル問題ナリ、古人ハ曰ヘリ、類ハ類ニヨリテ知ルト、然ラハ主觀ト客觀トカ其相合スルヤ、必シテ互ニ類似スルトコロアラサルナキヲ得ス、即チ此兩者ニ共通スル、始原ノ單一ナル活動ナカルヘカラス、此中間ニ位スルモノハ果シテ是レ何ツヤ、



凡ソ物質界ニ於ケルモノハ、一トシテ是レ運動ニヨリテ連結セラレサルハナシ、器  
 機的、化學的、有機的作用ノ如キハ、空間ニ於ケル運動ノ思想ヲクンバ、決シテ之ヲ考  
 フルヲ能ハサルナリ、空間ノ存スルトコロハ必ラス運動ノアル所ナリ、我カ内界ニ  
 於ケルモ亦正サニ然ルナリ、吾人ハ之ヲ區別スルカ爲メニ、内界ニアル運動ヲハ、特  
 ニ構成的運動ト稱ス、是ニ由リテ之ヲ觀レハ、運動ナルモノハ是レ精神ト物質、即チ  
 主觀ト客觀トニ共通ナル元素ナリト謂ハサルヲ得ズ、而シテ運動ハ又是レ始原的  
 ニシテ單一ナルモノナリ、何トナレハ是レ他ノモノヨリシテ變化シ成ルモノニア  
 ラス、又唯此ノ如シトシテ見ルノミニシテ、決シテ他ニ之ヲ説明スルノ方法ナキモ  
 ノナリ、乃チ運動ハ是レ吾人知識ノ最終元理タルヲ、言テ俟タスシテ明ラカナルナ  
 リ、  
 加之ノミナラス、空間及ヒ時間ハ、運動ニ必要ナル思想ニアラスシテ、運動ハ實ニ定  
 時間ヲ生スルニ欠クヘカラサルナリ、内部ヨリシテ、運動ヲ計算スルモノハ、時間は  
 レナリ、外部ヨリシテ是レヲ計算スルモノハ、空間是レナリ、而シテ運動ハ己ニ是レ  
 物質ト精神トニ共通スルモノナレハ、時間空間モ亦必ラス此兩者ニ共存スルモノ  
 ナラサルヲ得サルナリ、然ラハ則チ運動ハ是レ一切ノ科學ノ大本ヲ形成スルモノ  
 ト稱スヘシ、形ハ運動ノ定ムル所ニシテ、其實體タル實質ハ、動かサル、所以ノ物體  
 ナルニヨリ、之ヲシテ全ク運動ニ歸着セシムルヲ能ハスト雖モ、而モ其中ニハ因ヨ  
 リ運動ノ思想ハ包含セラル、ナリ、故ニ理想的ノ運動ハ、實ニ又先天的思想ノ原因  
 ナリ、

理想的運動ハ自己ヲ觀察スルノ力ヲ有ス、所謂自己意識ナルモノ是レナリ、是レ思  
 考ノ作用ナリ、概念トシテハ、事物ノ原因結果及ヒ相互ノ關係ヲ知り、範疇トナリテ  
 ハ主觀的及ヒ客觀的ニ正確ナル真理ヲ發見シ得、而シテ、トレンデレンブルグハ運  
 動ヨリシテ次ノ如キ八個ノ範疇ヲ演繹シテ出セリ、曰ク

- (一) 原因結果ノ關係
- (二) 實體
- (三) 數量
- (四) 性質
- (五) 度量
- (六) 統一
- (七) 附屬
- (八) 相互ノ作用

是レナリ、中ニ就キ活動的原因ハ其尤モ切要ナルモノナリ、  
 然レモ此八種ノ範疇ハ未タ以テ經驗的事實ヲ盡ク蔽フニ足ラサルナリ、有機體ノ



哲 學 概 論

顯象ニヨリテハ、又此ニ目的(意匠)ナル一ノ新元理存スルナリ、自己以外ノモノハ、目的ニヨリテ支配セラレ、モノハ、之ヲ器械的ト稱シ、之ニ反シ、自己ノ内部ニ其ノ目的ヲ有シ、之ヲ外ニ實行スルモノハ、即チ有機體ナリ、此ノ如キ内部ニ於ケル有機的目的ハ、是レ宇宙無限ノ顯象ヲ發生スル所以ノ元理ナリ、目的ト及ヒ之ヲ實行スル所以ノ力トヲ併セ有スルモノニシテ、始メテ自己ノ思想ヲ生ス自己ノ思想ヲ有スルモノハ、必ラスヤ精神的ノ性質ヲ有ス、而シテ精神ハ即チ其ノ自家ヲシテ現實ニ發表セシムル所以ノ目的ナリ、吾人人類以外ノ有機體ハ、皆是レ無意識ノモノナリ、而シテ人ハ獨リ倫理的動物トナルノ性質ヲ有ス、倫理的ノ目的ハ他ノ一切ノ目的ヲ支配スル所以ノモノナリ、

蓋シ思フニ、二面論ハ近世哲學ニ於テ尤モ行ハル、モノナリ、此ノ如ク説明スルハ精神ト物質トノ關係ヲ解釋スルニ於テ、頗ル容易ナルヲアレハナリ、但其ノ本原ノモノヲ以テ心身ト稱スル乎、心素ト稱スル乎、或ハ原子ト稱スル乎、將タ又實體本性ト稱スル乎、其人ノ命令ニ一任ス、而モ其名稱ハ又以テ其哲學ノ傾向ヲ窺フニ足ルモノナリ、是故ニ命令ハ瑣細ノヲタルカ如シト雖モ、學者タルモノ此ニ注意セ

サルヘカラサルナリ、

哲 學 概 論

尙ホ此ニ一言注意スヘキトアリ、前屢之ヲ云ヘルカ如ク、心身兩性ヲ具有スル始原的ノモノニシテ、其發顯シ成レル心身以外ニ存在セシムヘカラサルト是レナリ、クリツフオルド氏ノ如キ、所謂心素ト云ヘハ、今尙ホ存在スルハ固ヨリ論ナシト雖モ、此ノ如キ單純ナルモノハ、開闢ノ際ニ於テノミ存在シ、其ノ物カ現時ノ狀態ノ如クニ、各一方ニ進化シタルモノトノミ考フルカ如シ、若シ果シテ此ノ如ク考フルモノトセハ、是レ大ニ誤認ニ陥ルモノナリ、凡ソ樹木ハ其ノ種子ヨリシテ漸々發芽生長シ、遂ニ蒼鬱トシテ天ヲ蔽フニ至ルナリ、而モ其發芽ノ時ニモ己ニ是レ一ノ植物ナリ、一二尺ニ生長シタル時モ同シク是レ一ノ植物ナリ、又蒼鬱トシテ天ヲモ蔽フニ至ル時モ亦是レ一ノ植物タルニ外ナラス、乃チ其植物タルニ於テハ、如何ナル時ニアリテモ、秋毫ノ異ナルアルヲナシ、是故ニ未發達ノ時ハ心素ニシテ而モ己ニ十分ニ發達シタル時ニハ、精神ト稱スヘク、此等ノモノハ全ク別物ノ如クニ思推スルハ是レ蒼鬱タル樹木ハ植物ナレモ、僅カニ發芽シタル時、或ハ生長シテ一二尺ニ達セサルハ未タ以テ植物ト稱スヘカラスト云フカ如シ、樹木ハ十分ニ生長シタル後



ニアラサレハ、以テ植物トナスヘカラスト云フナキカ如ク、精神モ十分ニ發達セサレハ、以テ精神トナスニ足ラス、心素モ發達シタル後ナレハ、以テ、心素ト名付クヘカラスト云フナキナリ、是故ニ單純ナル心素モ發達シタル精神或ハ物質モ、共ニ是レ或照ヨリ云ヘハ、即チ其本性ニ於テハ同一無二ナルモノナリ、彼ヲ以テ始原的ノモノナリト謂フハ即チ可ナリト雖モ、其發達シタルモノヲ以テ別ニ存在スルカ如クニ考フルハ大ニ非ナリ、歴史的以前ニアリト謂ハ、即チ可ナリ、之ヲ以テ論理的以前ニナカルヘカラスト謂ハ、大ニ錯リ了レリ、但此事ハ唯ニ言語文字ニ迂回シテ論スヘカラス、學者其眞旨ヲ解スルヲ要ス、

以上ハ自然界方有ノ何タル乎ニ付キテ、古來哲學者ノ唱ヘ來レル意見ノ概要ヲ掲ケタルモノナリ、

心身ノ關係論

上來述ヘ來リタルカ如ク、其本原ノ如何ナル性質ヲ有スルナル乎ニ付キテハ、古來ノ異說紛々タリト雖モ、若シ其レ現在ノ狀態ニ付キテ之ヲ曰ハ、精神ト物質ノ互ニ相反對シ存在スルモノタルコトハ、如何ナル說ニアリテモ、共ニ一致スルトコロタ

リ、唯其ノモノカ、果シテ本原ニ於テ尙ホ精神的ナル乎、物質的ナル乎、或ハ又此等兩者ヨリモ別ニ異ナリタルモノ、存在スルアル乎ニ至リテ衆說ノ相容レサルヲ見ルノミ、然ラハ此世界ニ於テ、精神ト物質トカ如何ニシテ互ニ相感化スルコトヲ得ヘキ乎、假令ヒ其ノ本原ニ於テハ一樣ナリトスルモ、其已ニ分化シタル以上ハ、之ヲ以テ二種ノ相異ナリタルモノト爲サ、ルヲ得ス、已ニ二種ノ相異ナリタルモノナリ如何ニシテ其一カ他ニ作用ヲ及ボシ得ヘキ乎、尙ホ其範圍ヲ狭メテ之ヲ云ヘハ、如何ニシテ吾人ノ身軀ト精神トカ互ニ相感化スルコトヲ得ヘキ乎、此問題ニ付キテハ古來ノ異說區々トシテ一定スル所ナシ、今此ニ其ノ尤モ主ナルモノ三四ヲ掲ゲテ以テ其一斑ヲ窺ハシム

(一) 「デカール」ノ說

第一ハ佛ノ「デカール」ノ唱フル所ニシテ、之ヲ投機發生說ト稱ス、以爲ラク、吾人ノ精神ト身軀トノ間ニ於テハ決シテ直接ノ關係ハ存在シ得サルモノナリ、何トナレハ精神ト身軀トハ、是レ全ク種類ヲ異ニスルモノナレハナリ、然ラハ則チ如何シテ此兩者ノ間ニ感化スルアルカ如クニ見ユル乎、曰ク宇宙ニハ神ナル大勢力ノ實際ヲ



リテ、以テ此二者ノ間ヲ媒介スルナリ。若シ今精神ニ一定ノ變化生スレハ、其機會ニ於テ、神カ身軀ニ於テ之ニ相應スル一定ノ變化ヲ生セシメ、正ニ之ト同シク、若シ身軀ニ於テ一定ノ變化カ起ルコトアレハ、神カ其機會ニ於テ、精神ニ之ニ相應スル一定ノ變化ヲ生セシムルナリ、而シテ之ヲ知ラサルモノハ、精神ト身軀トカ、直接ニ相感化スルモノト思惟ス、之ヲ譬フルニ、吾人ノ精神ト身軀トハ、宛モ二個ノ時計ノ如シ、而シテ此等ノ時計ハ、決シテ其内部ニ於ケル器械的組織ニヨリテ、相連結セラル、如キコト之アラス、但シ一ノ時計師ノ後ニ坐スルアリ、以テ常ニ此二個ノ時計ヲ修正シ、互ニ相異ナル勿カラシムルモノナリ、此故ニ此等ハ能ク精密ニ同一時刻ヲ表スルナリ、是時計師ノ修正スルコトヲ知ラサルモノハ、此等ノ時計ヲ見テ、以テ爲ラシ是レ必ラス内部ニ於ケル器械的作用ニヨリテ、以テ此ノ如ク驚クヘキ一致シタル時刻ヲ表スルモノナラント、精神ト身軀トモ亦正サニ此ノ如シト、然レモ此說ハ未タ以テ完全ナリト謂フヘカラス、其難點ハ左ノ如シ

(一) 此說ハ其根據トスル所主トシテ精神ト身軀トノ全ク種類ヲ異ニスト云フニアリ、然レモ如何ニシテ二物カ互ニ相感化シ得ル乎トノ問題ニ於テ、實際上ニ困

難ヲ感スル點ハ、如何ニシテ一物カ他物ニ感化ヲ及ボシ得ヘキカト云フニアリ、而シテ其物ノ種類ヲ異ニスルト否ヤトハ更ラニ問フ所ニアラサルナリ、然ルニ「デカト」ノ說ハ秋毫モ此點ヲ解釋シ得ルモノニアラス、是レ其不可ナル點ノ一ナリ、

(二) 此說ハ以上ノ難點ヲ解釋シ得サリシノミナラズ、其困難ヲシテ一層深カク、ラシムルモノトナリ、何トナレバ最初ノ問題ニアリテハ、其關係單ニ身軀ト精神トノ間ニ存在スルノミナリシモ、今ヤ其關係ハ増加シテ精神ト身軀トノ二様トナレハナリ、即チ一種ノ關係ハ更ラニ二種ノ關係ニ増加シタルナリ、一重ノ關係スラ、尙ホ且ツ困難トシタルニ、况ンヤ二重ノ關係ヲ解釋スルニ於テヤ、是レ其不可ナル點ノ第二ナリ、

且ツヤ此問題ヲ解釋スルニ當リテ、神ヲ呼ビ來ルハ不可知的ノモノヲ以テ、不可解ノコトヲ解セントスルハ是レ即チ自カラ哲學上ニ解釋スル能ハサルコトヲ表スルモノナリ、何トナレバ神ヲ呼ビ來ルト同時ニ、科學的ノ解釋法ハ其ノ地ヲ去ルモノナレバナリ、



「デカート」ノ説ニ次キテ起ルモノハ即チ

(二) 「スピノーザ」ノ説

ナリ、是ニハ別ニ特種ノ名稱ナシ、スピノーザノ哲學的意見ハ、前已ニ之ヲ述ヘタレハ、今此ニ之ヲ評論スルヲ要セス、要スルニ氏ハ實體ヲ以テ万有ノ本原トナスモノナリ、而シテ氏ハ又之ヲ以テ神ト稱セリ、神ニハ二種ノ性質アリ、曰ク主性ト、曰ク屬性ト、是レナリ、主性トハ實體ニ欠クヘカラサルノ性質ニシテ、屬性トハ主性カ一々ノ場合ニ於テ、發顯シ來ル特種ノ形態タルニ過キス、主性トハ即チ思考及ヒ廣延是レナリ、屬性トハ即チ精神(思想)及ヒ身軀(物體)ト是レ、ナリ、前者ハ永存不變ニシテ、後者ハ變化止ムナキモノナリ、今之ヲ明了ニセシカ爲メ、表ニ列スルトキハ次ノ如シ



然レモ主性ト屬性トハ、互ニ分離シ存在スルモノニアラズシテ、常ニ相伴ヒ存セサルヘカラズ、屬性ナクシテハ主性モ存在スルコト能ハス、主性ナクシテハ屬性モ實在スル

コトヲ得サルナリ、故ニ屬性ト云フモ亦是レ神ノ眞性ニアラズト云ノコトナシ、蓋シ之ヲ譬フルニ、普通概念ト實體的物體トノ如シ、普通概念ハ實體的物體ナクシテ、普通概念タルコトヲ得ス、又具體的物體ハ普通概念ナクシテ、以テ一々ノ名稱ヲ得ルコト能ハサルナリ、

此ノ如ク神ハ思考的ノモノナリ、而シテ之ト同時ニ又廣延的ノモノトス、神ノ中ニアリテハ、神ノ本性ヨリシテ發シ來ル万物ノ思想ヲ有スルノミナラス、又必ラスヤ其ノ本性其物ノ思想ヲモ併セ有セサルヘカラズ、是故ニ神ハ思考的ノモノトシテハ一切ノ特殊ノ思考ヲ其中ニ有シ、廣延的ノモノトシテハ、有ラユル特殊ナル物體ヲ其中ニ具スルナリ、思想ハ知覺セラレタル物體ヨリシテ生シ來ルニアラス、物體ハ又其ノ相應スル所ノ思考ヨリシテ生シ來ルニアラサルナリ、若シ今一ノ主性ニ於テ一定ノ變化發生スルルハ、必ラス之ニ應シ、他ノ主性ニ於テ之ト并シテ所ノ變化ヲ來スモノナリ、而シテ其一主性ニ於ケル變化ノ原因結果ノ順次、及ヒ其ノ關係ノ如キハ他ノ主性ニ於テモ應サニ之ト同一ナル順次關係ニ於テ反省シ來ルナリ、何トナレハ其原因結果ノ順次及ヒ關係ニ由リテ生スル所以ノ主性ナルモノハ



其ニ是レ同一實體ノ本性カ顯ハル、モノナレハナリ、是故ニ又廣延ノ屬性ト及ヒ其ノ思想ナルモノハ、全ク是レ同一ニシテ無二ナルモノトス、此等ハ唯且ラク二種ノ異ナリタル方面ヲ取リテ顯ハレ出ツルノミ、

人身ハ廣延ナル主性ノ屬性ニ屬スルモノナリ、思考ナル主性ニ於テ之ニ相應スルモノハ即チ人心ナリ、人心ハ唯ニ物體ノ思想ヲ有スルノミナラス、自己即チ是レ一ノ思想ナリ、(即チ自體ノ思想ナリ)而シテ身體ナルモノハ元來是レ實質的分子ノ結合ヨリシテ成レルナリ、然ラハ精神モ亦之ニ相應スル所ノ思想ノ結合ヨリ成ルモノト謂ハサルヲ得ス、此ノ如ク精神ハ之ヲ以テ人身ノ思想トシテ考フルルハ、身體ノ作用ヲ悉ク自己ニ反映スルモノナリ、然レハ精神ノ一方ヨリ之ヲ見ルルハ又一ノ屬性ニ過キサレバ、宛モ精神カ身體ノ作用ヲ反映スルカ如ク、又精神ノ思想ヲ其中ニ反映セサルヘカヲサルナリ、之ヲ精神ノ自識ト稱ス、即チ精神ノ自識トハ、身體ノ思想ノ思想タルモノナリ、今又之ヲ前ノ時計ノ例ニ比セハ、是レ同一器械ヲ備ヘ而モ二種ノ相異ナリタル面ヲ有スル時計ノ如キナリ、其器械ハ元來是レ同一ナルカ故ニ、其面ノ互ニ相異ナルニ關ハラス、時錶ハ精密ニ同一ノ方向ヲ指スヲ得ル

モノナリ、而シテ其内部ノ組織ノ如何ヲ知ラサルモノハ、之ヲ以テ二種ノ相異ナリタルモノトナス、而モ其本原ヲ尋討スレハ、是レ一ナルナリ、實體ハ所謂同一器械ノ如ク、精神ト身體トハ是レ所謂二種ノ相異ナレル面ノ如キナリ、

第三ニ來ルモノハ即チ

(三) 「ライプニッツ」ノ説

ナリ、之ヲ先<sup>○</sup>天<sup>○</sup>調<sup>○</sup>和<sup>○</sup>説<sup>○</sup>ト云フ、

「ライプニッツ」氏モ「デカール」ト「スピノーザ」諸氏ノ如ク、一物ノ作用カ直接ニ他物ニ經過スルヲ否定スルモノナリ、即チ精神ヨリシテ身體ニ、若シクハ身體ヨリシテ精神ニ經過スル能ハサルノミナラス、元子ヨリシテ元子ニ移ルヲモ爲シ得サルモノナリトス、而シテ氏ノ所謂元子トハ、即チ是レ精神的ノモノニシテ、萬有始原ノ成分ナリ、氏以爲ラク一々ノ元子ハ皆自發的ノ力ニヨリテ、自己ノ性質ヲ連續的ニ發達シ去ラシムルモノナリ、而シテ自發的ノ作用ナルニヨリ、決シテ他ノ元子ニヨリテ感化セラル、ト云フヲナク、又從テ他ノ元子ニ感化ヲ與フルト云フヲモ之ヲキナリ、然ラハ則チ元子ハ如何ニシテ互ニ相平行シテ發達進歩スルヲ得ル乎、曰ク是



レ神ノ力ニ由ルナリ、即チ神ハ一々ノ元子ヲ創造スル時ニ當リテハ、預メ此ノ如ク發達スルカ如クニ定メタルモノナリ、換言スレハ一々ノ元子ニ於テ、神ハ創造ノ時ヨリシテ、其ノ將來ニ於ケル發達ノ順序ヲ一定シ置ケルモノナリ、是故ニ個々ノ元子ハ秋毫モ相互ノ間ニ作用ヲ及ボスコトナクシテ、能ク互ニ相平行シテ發達スルコトヲ得ルナリト、更ラニ之ヲ時計ノ例ニ照シテ論スレハ、神ハ極メテ熟練シタル時計師ナリ、世界創造ノ時ニ於テ、甲乙二個ノ毫モ互ニ相關セサル時計ヲ作リ、精緻ナル器械力ニヨリテ以テ常ニ同一ノ時刻ヲ報セシムルモノナリ、然レモ「ライプニッツ」ノ説ニヨレハ前ニモ述ヘタルカ如ク、宇宙ニハ原子ノ外一物ナキナリ、然ラハ則チ神モ亦是レ（假令ヒ發達未發達ノ別アリトスルモ）原子ノ一タリト謂ハサルヲ得ス、神ニシテ己ニ原子ノ一タリトセハ、神ナルモノハ如何ニ有力ナリトスルモ、其物カ他ノ無數ノ原子ニ感化ヲ及ボシ得トハ、果シテ如何ナル理由ニヨルモノナル乎、是レ吾人ノ得テ解スル所ニアラサルナリ、若シ又神ノ如キ不可知的ノモノヲ假リ來リ、以テ兩者ノ調和ヲ爲サシメントナラハ唯神ハ此ノ如ク命スト云フヲ以テ足レリトナス、何ソ必ラスンモ迂曲複雜ナル先天ノ説ヲ以テスル

ヲ要センヤ、而シテ己ニ神ヲ假リ來ル以上ハ、是レ最早ヤ科學的ノ解釋法ヲ去ルモノナリ、

最後ニ顯ハレタルモノハ

(四) 「ロツツエ」ノ説

ナリ、是レ別ニ一説トシテ見ナスヘキ程ノモノニアラス、唯「スピノーザ」ノ説ヲ少シク變形シ、其ノ言語ヲモ稍精細ナル數學的套語ヲ以テ顯ハシ出セルノミ、此ノ如ク其變化ハ實ニ瑣細ナルカ如シト雖モ、而モ此學說ハ頗ル近世ノ思想ニ合スル所ナキニアラス、故ニ此ニハ之ヲ第四ノ説トシテ掲クルモノナリ

「ロツツエ」ハ以爲ラク「デカート」「ライプニッツ」兩氏ノ説ニ於テ、其困難トスル所ハ皆其最初ニ於テ爲セル假定ニ存スルナリ、則チ此等ノ學者ハ世界ヲ以テ獨立體ノ集合ヨリシテ成レリト考フルモノナリ、乃チ其困難ナル點ヲ除カシカ爲メニハ、此假定ヲ除去セサルヘカラス、此假定ヲ除去セサレハ、到底物心二者ノ關係ニ之ヲ十分ニ解釋スルコト能ハサルナリ、今若シ宇宙ノ万有ヲシテ互ニ相互作用スルニヨリテ成立シ得ルモノナリトセハ、此ノ如キ獨立ノ孤生的ノ物體ハ其跡ヲ滅スヘキナリ、而シ



テ世界ハ完然タル一物トナルヘシ、而シテ物心ノ關係ハ容易ニ之ヲ解釋スヘキナ  
 リト、  
 是ニ於テ乎氏ハ説ヲ爲シテ曰ク、抑モ世界ハ是レ個々單獨的ノ物體カ、相集合スル  
 ニ由リテ成レルモノニアラス、今若シ物體ヲシテ(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)……等ノ文字ニ  
 ヨリテ表彰セラル、モノトセハ、宇宙ハ即チ(イ)ロハニホ……ト云フカ如キ一團  
 體ナリ、是故ニ若シ其中ノ一物(イ)カ(伊)ニ變セハ、其團體全部ノ釣り合ヒ打破セラレ  
 其全體ヲシテ舊ノ如ク存在セシメンカ爲メニハ(ロ)(ハ)(ニ)等ノモノハ皆亦タ多少ノ  
 變化ヲ爲シ(路)(仁)(保)等トナリ以テ、其變化ヲ補ハサルヲ得ス、是レ即チ其團體ノ權  
 衡ヲ保ツ所以ナリ、是故ニ(イ)ノ變化ハ唯ニ(イ)ノミニ止マラスシテ、其變化團體全體  
 ニ波及シテ、終ニ以テ全體ノ變化トナルヘキナリ、吾人ハ僅カニ其二三ノ變化ヲ見  
 ルノミナレハ、一物ノ變化ハ單ニ二三ノ物體ニ影響スルニ止マルカ如ク考フルモ  
 其實ハ決シテ然ラスシテ、團體カ團體ニ及ホス變化タルナリ、是故ニ其變化タル神  
 カ介シテ以テ爲ス所ノ超越的變化ノ類ニアラスシテ、其原因ヲ自家内部ニ有スル  
 所ノ自發的ノ變化タルモノナリ、乃チ精神ニ於テ一ノ變化ヲ生セハ、身軀亦之カ變

化ヲ受ケサルヲ得ス、自體ノ變化ノ精神ニ及ホス亦復此ノ如シ、要スルニ万有ノ釣  
 リ合ヒヲ保ツニアルノミト

因ニ曰フ、ロツツエハ世界ヲ以テ a b c d e ……ノ、アアノクシオンナリト云ヘリ  
 故ニ其結果ハ常ニ不變ノモノナリ、是ヲ以テ今 a, カ變ツテ b, トナレハ其ノ結果  
 ノ不變量ナルカ爲メニ、他ノ b, c, d, e 等モ亦各其量ヲ變化シテ、b, c, d, e, 等トナ  
 ラサルヲ得ス、若シ然ラスシテ a, ノミカ、トナルモ他ノ量ハ依然トシテ舊ノ如  
 クナリトセハ、到底其結果ノ前ト同一ナルヲ得サレハナリ、此ノ如ク、アアノク  
 シオント云フハ、其ノ思想解シ易クシテ明了ナリト雖モ、數學ヲ學ハサル人ニ  
 ハ、反テ之ヲ解スルニ困難ヲ覺ユルカ爲メ此ニハ特ニ數學上ノ文字ヲ除キ、平易  
 ニ之ヲ述ヘタルナリ、讀者幸ニ諒セヨ、

萬有本原ノ數量論

從來余輩カ説キ來リタルヲハ、皆是レ宇宙ノ本原ヲ以テ一ナリト假定シタル上ノ  
 一ナリ、然レモ此本原タル果シテ一ナル乎否ヤハ、又是レ別種ノ問題ナリト謂ハサ  
 ルヲ得ス、宇宙ニ發顯セル顯象ハ本ト是レ複雜ニシテ究紀アルヲナキナリ、之ヲ以



テ一トナスハ、決シテ論辯ヲ要セサルヲニハアラサルナリ、是レ亦自然界哲學ニ於ケル重大ナル一問題ナリ、是故ニ吾人カ更テニ從來ノ議論ノ本原ニ溯リ、果シテ宇宙ノ萬象カ一ニ歸着スルヲ得ヘキ乎、或ハ二種ノ根元ヨリシテ發シ來ルモノニハアラサルカ、將タ又多種ノ本原ヲ有スルモノニハアラサルナキ乎ヲ論究セサルヲ得ス此問題ニ關スル古來ノ論亦紛々トシテ一ナラス、然レモ今之ヲ大別スルハ以テ次ノ三類ニ約スルヲ得ヘキナリ即チ

- (一) 一元論
- (二) 二元論
- (三) 多元論

ト是レナリ、請フ多元論ヨリシテ之ヲ述ヘン、

(一) 多元論

多元論トハ、宇宙萬有ハ本ト是レ一個ノ單體ヨリシテ發生スルモノニアラスシテ其本原ヲ尋ヌレハ、數多ノ元素アリ、宇宙ハ實ニ之カ複合ヨリシテ成レルモノナリト云フニアリ、而モ其多種元素ノ性質ヲ述フルニ當リテヤ、此論ヲ唱フルモノ、又悉ク一ナルヲ得ス、是ニ於テ乎物質的多元論、精神的多元論、一元多元論ノ別ヲ生スルニ至レリ、

(甲) 物質的多元論

物質的多元論トハ、萬有ヲ構成スル所以ノ元子ヲ以テ物質的ニシテ而モ又多種ナルヲ唱フルモノナリ、古代希臘ニ於テ有名ナルデモクリトスノ元子論ナルモノ之ニ屬スルナリ、此說ハ近世ノ所謂化學ト極メテ相類似スル所ナキニアラス、但シ古代ニアリテハ、科學ノ研究固ヨリ今日ノ如ク盛ナラサリシヲ以テ、今日ノ化學ノ如ク能ク精細ナル實驗ニヨルニアラス、單ニ思想ノ上ニ於テ構成スルモノニ過キサルナリ、故ニ證據ノ確否ハ同日ノ論ニアラスト雖モ、其大旨ニ至リテハ蓋シ二致ナキナリ、

「デモクリトス」ノ論ハ、前已ニ之ヲ述ヘタレハ、此今ニ之ヲ詳説セズ、其大意ニ以テ之ヲ、万有ノ成分ハ元子ナリ、所謂元子トハ實質ヲ有スル分ツベカラサルノ體ナリ、是物ヤ永存ニシテ不滅ナリ、而シテ之ヲ成ス所ノ實質ハ如何ナル元子ニ於ケルモ、皆同一ニシテ區別ナシト雖モ、其形及ヒ大サニ至リテハ、互ニ相異ナラサルヲ得ス、万有ハ世ノ精神的ナルト物質的ナルトヲ問ハス、總ヘテ之ヨリシテ構成セラレスト云フヲナシ、是故ニ物質ノ消滅スルヲ決シテ之アルナシ、其消滅スルカ如ク見ユ



ルモノハ、唯其跡ノ分解シテ、舊來ノ元子ニ歸スルニ過キサレノミ、精神ハ物質ト極メテ相類セサルモノナリト雖也、而モ是レ元子ノ微細ニシテ運動シ易キモノヨリシテ成ルニ過キサレナリト、

之ニ對スル疑問ハ、固ヨリ一ニシテ足ラス、元子ニシテ果シテ分割スヘカラサル微小ノモノナラハ、其形及ヒ大衆ハ(即チ之ヲ換言スレハ廣延アル性)如何ニシテ之ヲ有スルヲ得ヘキ乎、若シ廣延アリトセハ、吾人ノ精神ニ亦廣延アルモノナル乎、廣延アル精神ナルモノハ、果シテ何處ニ存在スル乎、若シ廣延ナシトセハ、形及ヒ大衆ノ存在スル理ナキナリ、廣延ナクシテハ廣延アル物質ハ如何ニシテ之ヲ生スルヲ得ヘキ乎、又万物ヲシテ假令ヒ元子ヨリナルモノナリトスルモ、其之カ復合分離スルハ果シテ何ニヨリテ之ヲ爲ス乎、是レ豈ニ一定ノカノ作用ニアラスヤ、元子ノミナラハ如何ニシテ能ク自カラ或ハ分離シ、或ハ復合スルヲ得ヘキ乎、加之元子ニ此クノ如ク無限ニ存在ストセハ、其元子相互ノ作用ハ、如何ニシテ成ルヲ得ヘキ乎、元子ト元子、若シクハ物質ト物質トノ感化ハ如何ニシテ生シ得ヘキカトハ、是レ古來哲學上ノ一大疑問ニアラスヤ、而シテ、デモクトリトスハ、毫モ此等ノ問題ニ向ヒテ

釋テ與ヘス固ヨリ氏ノ如キ古代ニアリテハ、此等ノ説明ハ其ノ注意セサル所ナリシナランナレバ、今日ヨリシテ之ヲ批評スルニ當リテハ、到底此等重大ノ問題ハ、之ヲ默々ニ付スル能ハサルナリ、

之ヲ要スルニ、物質的多元論ハ到底吾人ノ是認スルヲ能ハサルモノナリ、物質的ナレハ精神のノモノ、由來ヲ明カニスルヲ得ズ、又其離合ハ元子ノミノ作用ニテハ、遂ニ爲シ得サル所ト謂ハサルヲ謂ス、若シ勢力ナルモノアリトセバ、已ニ万有ノ大本ニ於テ元子ト勢力トノ二ヲ認ムルモノナリ、然ラハ即チ是レ最早ヤ通常一般ノ多元論タルヲ能ハサルナリ、假令ヒ勢力ヲ以テ、元子ノ中ニ有スル性質ナリトスルモ、吾人尙ホ能ク物質其物ト勢力トノ差異ヲ辨別シ思想上ニ於テハ之ヲ區別スルヲ得ルモノナリ、

(乙) 精神の多元論

精神の多元論トハ、デモクトリトスノ物質的元子ノ代リニ、精神的元子ヲ以テシタルニ過キサレナリ、元子カ精神的ニシテ、又無限ノ種類ヲ有ストナスニヨリ、之ヲ此ノ如ク命名ス、近世哲學ニ於テ此論ヲ唱ヘタル最モ有名ナル學者ハ、ライプニッツ氏



ナリ、

「ライアニツツ」ノ説ハ前已ニ之ヲ述ヘタレハ、今此ニハ唯其大要ノミ記スヘシ、  
 氏ハ元子ヲ「デモクリトス」ノ如ク「アトム」物質的元子ノ義ト謂ハスシテ「モナツド」精  
 神的單體ノ義ト稱セリ、此「モナツド」ハ「アトム」ト同シク、永存不滅ノモノニシテ、大サ  
 ナク又形アルコトナシ、幾何上所謂點ノ如キモノナルニヨリテ、氏ハ又之ヲ以テ哲學  
 上ノ點ト云ヘリ、此ノモノハ即チ勢力ニシテ、自發的ノ力ヲ有ス、各元子ハ皆其自己  
 ノ内部ニ有スル所ノ力ニヨリテ、自然ニ開發進歩スルコトヲ得ルモノナリ是故ニ其  
 ノ開發ノ度ニ於テハ、一々ノ元子甚ク相異ナルヲ致スナリ、例之ヘハ吾人ノ精神ノ  
 如キハ、尤モ開發シタルモノナリ、而シテ動物ハ之ニ下リ、木石ニ至リテハ最モ下レ  
 リ、此等ノモノハ一見無生ノモノ、如ク見エト雖モ其實ハ眠レル精神ノ狀態ノ如  
 ク唯十分ニ開發セサルノミ、此ノ如ク勢力ナルニヨリ、此レヲ「モノハ又各其内部  
 ニ於テ精神ヲ有スルモノナリ、即チ感覺知覺等ノ能力ヲ有スルナリ、是ヲ以テ氏ノ  
 説ハ又之ヲ個人説トモ稱スルナリ、何トナレハ此ノ如キ無限ノ元子ハ、宛モ是レ一  
 個一個ノ人類ノ如クナレハナリ、又此ノ原子ハ各自他ノ一切ノ元子ヲ制限シ、又之

論 概 學 哲

ニ制限セラレテ、發達ヲ爲スモノナレハ、一個ノ元子ハ亦以テ當時ノ世界ノ狀態ヲ  
 窺フニ足ルモノナリ、蓋シ宇宙一切ノ元子ハ總ヘテ其一元子ニ反映シ來ルモノナ  
 レバナリト、

有神論ノ吾人カ容易ニ是認スヘカラサルコトハ、前已ニ之ヲ述ヘタレハ、今又此ニ之  
 ヲ反覆スルヲ要セサルナリ、又物質的元子ヲ變シテ精神的トナスモ、前條ニ於テ揭  
 ケタル疑問ハ、決シテ氷解セラレ得ルモノニアラス、固ヨリ物質的元子ノ時ニ於ケ  
 ルカ如キ、大ナル不都合ハ之ナシトスルモ、尙ホ個々元子ノ間ニ於ケル感化ハ、如何  
 ニシテ之ヲ解釋スヘキ乎、若シ原子カ單ニ元子ニ止マルトセハ、決シテ他ノ元子ニ  
 感化ヲ與フルコト能ハサルニアラスヤ、何トナレハ感覺知覺等ト稱スルモノハ、是レ  
 即チ吾人カ精神界ノ力ニアラスト云フコトナシ、假令ヒ元子カ之ヲ自家ノ内ニ有ス  
 トスルモ、前ニモ云フカ如ク、元子其物ト其勢力トハ吾人ノ思想上ニ於テ、十分明ラ  
 カニ之ヲ區別シ得レハナリ、之ヲ要スルニ精神的多元論ニアリテハ、物質間ノ感化  
 ハ遂ニ之ヲ解スル能ハサルナリ、

論 概 學 哲

(丙) 一元多元論



精神の多元論ヲ稍變化シテ、以テ多元ニシテ而モ又一元ナルノ說ヲ唱フルモノアリ、之ヲ「ヘルマン、ロツツエ」ノ說トナス、

「ロツツエ」ハ前ニモ云ヘルカ如ク、本ト是レ「ライプニッツ」ノ說ヲ承クルモノナリ、然レモ「ライプニッツ」ノ說ハ、徹頭徹尾多元論ニ止マルヲ以テ、今日哲學ノ傾向ト相容レズ、又世界ノ顯象ヲ説明スルニ於テ困難ナル點尠少ナリトセス、是ニ於テ乎氏ハ云フ一變シテ、一元論ニ歸着セシメタルモノナリ、「ロツツエ」ハ「ライプニッツ」ト同シク、又「モナツド」ヲ以テ万有ノ大元トナセリ、宇宙ノ万有ハ、悉ク多種ノ「モナツド」ヲ以テ成レリト雖モ、世界ハ元來是レ一個ノ有機體ナリ、之ヲ組織スル所以ノ成分ハ、固ヨリ多種ノ元子ナレハ是レ多ナリト雖モ、而モ此等カ組織セラレテ已ニ一體トナルヤ、是レ最早ヤ多ニアラスシテ、一ナルナリ、譬ハ猶ホ吾人ノ身體ノ如シ、之ヲ組織スルモノハ、生理的ニ所謂細胞ニ過キサレモ、細胞カ集合シテ一身體トナルト、各其ノ一定ノ機關トナリ、此等ノモノハ各自獨立ニ作用スルヲ得ズ、甲ハ乙ニ、乙ハ甲ニ、互ニ相倚リ、以テ其ノ作用ヲ營ムヲ得ルモノナリ、世界モ亦復此ノ如シ、是故ニ世界ノ一部分ノ變化ヲ生スルハ、則チ他ノ一切ノ部分亦之ニ相應シテ以

哲 學 概 論

哲 學 概 論

テ多少ノ變化ヲ生セサルヲ得ズ、身體ノ一局部ニ於ケル變狀ハ、以テ全身ニ多少ノ影響ヲ及ホスヲ免レサルカ如シ、乃チ世界ハ元子ノ持チ寄りナリ、

是故ニ之ヲ以テ一元ト云ヘハ、一元トモ謂フヘク、多元ト云ヘハ、又多元トモ稱スヘキナリ、一元トハ世界ヲ一完體トシテノ「ナリ」、多元トハ之ヲ其組織成分ヲ歸着シテノ「ナリ」、此ノ如ク「ライプニッツ」ノ多元論ヲ其儘ニ持チ來リ、之ニ世界ノ一完體ナル「ナリ」ヲ以テ之ヲ統一セシモノナリ、是故ニ此說ハ「ライプニッツ」ノ說ニ比スレバ、一層ノ進歩ヲ爲シタルモノト謂フヘキナリ、

而シテ其ノ所謂元子トハ如何ナルモノナル乎、曰ク、是レ「ライプニッツ」ト同シク、精神的ノモノニシテ、其内自發的ノ力ヲ有シ、永存ニシテ不變ノモノナリト、曰ク永存ニシテ不變ナルモノナラハ、如何ニシテ其集合體ノ世界ニ於テ變化ヲ生シ得ヘキ乎、曰ク是レ元子ノ變化スルニアラスシテ、唯元子カ其ノ舊地位ヲ變スルノミ、然ラハ元子ハ如何ニシテ其ノ舊地位ヲ變化スル乎、曰ク元子ハ古ヨリシテ今ニ至ル迄テ、又假令ハ將來幾千万年ヲ經過ストモ、常ニ同一（進歩開發スト雖モ、其元子ハ依然トシテ舊ト同一元子ナリ、例之ヘハ人身ハ變化發達スト雖モ、某ノ人ハ生ヨリ死ニ



至ル迄同一ナリト云フカ如シナリ、而モ其内部ニ於テハ自發的ノ力ニヨリテ、開發スルモノナレハ、自カラ其地位モ變更セサルヲ得サルナリ、而シテ一個ノ元子カ其ノ状態ヲ變シ、或ハ其舊地位ヲ易ユルトハ、世界一切ノ元子ハ之カ爲メ其舊來ノ鈞リ合ヒテ失フニヨリ、宛モ水中ニ石ヲ投スルトハ、其波動漸々傳達シテ、遂ニハ湖水一面ノ動搖ヲ見ルカ如ク、其影響ノ多少ハ之アリト雖也、全世界ノ之レカ其鈞リ合ヒテ新タニ保存セントスルカ爲メニ、總ヘテ動搖變化シ始ムルナリ、是レ即チ世界万有ノ漸々進化スル所以ナリトス、若シ其レ、一個元子ノ開發變化ナクンハ、世界ハ終始依然トシテ、舊態ヲ守ルヘキナリト、而シテ氏ハ尙ホ明ラカニ數學上ノ式ヲ假リテ之ヲ辨明セリ、

「ロツツエ」ノ理論ハ頗ル吾人ヲ啓發スルニ足ルモノアルナリ、元子ノ果シテ精神的ナリヤ否ヤハ、姑ラク之ヲ置ク、一元子カ變化スルトハ、全世界ノ元子カ悉ク多少ノ影響ヲ受ケテ變化ヲ爲ストハ、是レ万有ニ於ケル相互ノ作用、或ハ之ヲ廣言セハ、原因結果ノ理法ヲ極メテ明了ニ認ムルモノナリ、是レ固ヨリ「ロツツエ」ノ創見新說ニアラス、東西ノ大家已ニ之ヲ口ニスルアリト雖也、其ノ真理タルトハ、之カ爲メニ其

價值ヲ減スルモノニアラサルナリ、且ツヤ此ノ如ク説カハ、多元論ト雖也、又以テ一元論ニ歸スルヲ得ルモノナレハ、物質ト精神間ノ關係ヲ説明スルニ於テモ多少困難ノ點ヲ除キ得ヘキ乎、

(二) 二元論

一元論ニ次キ來ルモノヲ二元論トナス、二元論トハ字ノ如ク、宇宙顯象ノ本體ヲ以テ二種相異ナレル根元ニ歸着セシメントスルモノナリ、蓋シ物質ト精神トハ元來全ク其性質ヲ異ニスルニヨリ、其ノ相互ノ間ニ於ケル感化作用ノ到底爲スヘカラサルモノタルヲ感シ、之ヲ以テ二種ノ歸一スヘカラサル大元ナリトスルナリ、是故ニ二元論ハ大抵物質ト精神トノ二者ヲ以テ、其ノ根元ト見做スモノナリト雖也、必ラスシモ皆然リト謂フヘカラス、又此二者ヲ以テ、顯象ノ大本ナリトスルニ於テモ、之ヲ説明スル方法ニ至リテハ、各人多少ノ異ナルナキヲ得ス、是ニ於テ乎又種々ノ見解ヲ生スルナリ、

(甲) 絕對的の二元論

此說ハ二個ノ精神的ノモノヲ取り來リテ、以テ宇宙顯象ノ大本トナスモノナリ、若



シ其レ精神ト身軀(若シクハ物質)トヲ以テ二元トナスモノナラバ、物心二者ハ互ヒニ相關係シテ存スルニヨリ、吾人ハ之ヲ關係的ノ二元論ト稱スルナリ、然レモ此說ニアリテハ然ラス、二者共ニ精神的ノモノナルニ由リ、是レ互ヒニ相關係シテ存在スヘキニアラス、是レ此二元論ノ絕對的ト稱セラル、所以ナリ、例之ヘハ古代、ペルシヤノ宗教ニ於ケルカ如キ是レナリ、波斯ノ宗教ニアリテハ、二種同等ノ元理アリ、一ハ即チ「オルム、ツツ」(即チ善)ニシテ、他ハ即チ「ア、リ、マン」(即チ惡)ナリ、宇宙ノ太初ニアリテハ此二種ノ大元共ニ存在セシカ、互ヒニ相鬪争シ、遂ニ「オルム、ツツ」ハ悉ク「ア、リ、マン」ヲ制服シ、以テ全世界ヲ統御スルニ至レリト云フ、哲學上ノ歴史ニアリテハ、此類ノ二元論ハ未タ發見スルコトヲ得サルナリ、波斯宗教ニ於ケル二元論ノ如キハ、是レ唯一ノ宗教上神話ト見ナスヘキノミ、最早ヤ科學ノ範圍ニ屬セサルモノナリ、故ニ此ニハ唯其名稱ヲ掲クルヲ以テ足レリトナス、

(乙) 含有的の二元論

次ニ顯ハレ來ルモノハ含有的の二元論ナリ、含有的の二元論ト稱スルハ、宇宙ノ大本ヲ以テ二元ヨリシテ成レリト謂フニアラスシテ、寧ロ其身體ノ性質カ二種ノ主性ヨリシテ成ルト謂フニアリ、即チ言ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ、本軀ハ是レ一ナリト雖モ其中ニ於テ二種ノ相容レサル性質ヲ包含スト謂フモノナリ、例之ヘハ「ハートマン」若シクハ「スピノーズ」ノ哲學ノ如キ是レナリ、

己ニ述ヘタルカ如ク、「ハートマン」ノ哲學ニアリテハ、宇宙ノ本軀ヲ以テ無意識的ナリトセリ、無意識トハ元來是レ一ニシテ二ニアラサルナリ、而モ其中ニアリテハ二種ノ互ヒニ相容レサル主性ヲ有ス、即チ思想ト意志ト是レナリ、思想ハ万有進化ノ目的ヲ定ムル所以ニシテ、意志トハ其ノ實質ヲ成ス所以ノモノナリ、此二者ハ所謂形態ト實質トノ如ク、又宋儒ノ理ト氣トノ如ク互ニ相反對シテ容レサルモノナリ、而シテ無意識ニアリテハ此二性ヲ具有シ、未タ十分ニ之ヲシテ發達セシメス、而モ之ヲシテ發達セシムルモノハ、毫モ他ノ力ヲ假リテ然ルニアラス、自然ニ其内部ニ藏スル性質ニヨリテ、此ノ如ク全ク異ナレル状態ニ分化シ出ツルナリ、是レニ由リテ之ヲ含有的ト稱スルナリ、是故ニ此ノ如キ論ハ「ロツツエ」ノ說ノ如ク、二元論ト一元論トヲ合シタルモノニシテ、之ヲ一元論ト云ヘハ一元論トモナリ、又二元論ト云



へハ二元論トモ云フヲ得ルナリ、而シテ所謂無意識的ナルモノハ、精神的トモ又物質的トモ稱スヘカラス、而モ其外界ニ發表シ來ルヤ、明ラカニ此二種ノ異ナリタル性質ヲ帶フルナリ、

「スピノザ」ノ説モ正サニ之ト同シキナリ、氏ノ本體トスルトコロハ即チ實體是レテリ、或ハ之ヲ又神トモ稱ス、神ハ是レ一ナリ、而シテ万有ハ總ヘテ之ヨリシテ發セスト云フヲナシ、而シテ神ニハ二種ノ主性アリ、即チ思考ト廣延トナリ、是レヲ互ヒニ相反對シテ、秋毫モ相容ル、一能ハサルモノトス、而モ神ノ中ニアリテハ、相倚リテ以テ之カ性ヲ成ス所以ノモノナリ、此中孰レカーチ欠ケハ、神ハ最早ヤ神タルノ性ヲ失フ、即チ此二性ハ神ノ兩面ノ如シ、神ハ一方ヨリ之ヲ觀レハ、思考トナリ、顯ハレ、他方ヨリ之ヲ觀レハ、即チ廣延トナリ見ユルナリ、是故ニ神ハ又此兩種ノ方面ニ向ツテ十分ニ開發スルヲ得、而シテ其開發スルヤ、自己ノ中已ニ此等ノ兩性ヲ有スルモノナルニ由リ、敢テ他ノ力ヲ借り來ルヲ要セス、乃チ又之ヲ含有的ト稱スル所以ナリ、

凡ソ二元論ト云ヘハ、一元論ト相反對スルモノナルニモ關ハラズ、含有的の二元論ノ

如キハ、苟クモ合理的一元論ヲ唱フルモノ、必ラス須ラク探ラサルヘカラサルモノナリ、何トナレハ若シ然ラサレハ、底此顯象界ニ於ケル反對ノ性質ヲ解釋スル能ハサレハ、ナリ、故ニ二元論ハ一元論ト相反スルノ故ヲ以テ、必ラスシモ之ヲ排スヘキニアラサルナリ、加之、一元カ散シテ數多無限ノ形態ヲ有スル思想或ハ物體トナルヤ、此ニ所謂多元ノ形ヲ成ス、然ラハ則チ多元亦必ラスシモ皆斥クヘキニアラス、要スルニ唯其ノ説明ノ當ヲ得ル乎否ヤチ願ルノミ、人或ハ一元論ハ常ニ是ニシテ二元論多元論ハ常ニ非ナルカ如ク考フルモノアリト雖、是レ誤レルノ甚シキナリ、吾人ハ單ニ其名稱ノ如何ヲ見テ、之ヲ取捨スヘカラサルナリ、哲學上ノ意見ハ始メヨリシテ一元論或ハ二元論等ト自カラ定メテ之ヲ説クモノニアラス、其ノ名稱ハ唯後人ノ之ニ付スルニ過キササルナリ、是故ニ或ハ一元或ハ二元或ハ多元ト云フモ、其實何レノ部類トモ判スヘカラサルモノ往々之ナキニアラス、是レ即チ此等論說ノ割然トシテ區別スヘカラサル所以ノ證ナリ、學者其真ヲ探ルヲ要ス、徒ラニ其跡ニ泥ムコ勿レ、

此外尙ホ一種ノ二元論アリ、之ヲ



(丙) 一〇二重二元論

(三四六)

ト稱ス、是レ「デカート」ノ唱フル所ナリ、宇宙ニハ二種ノ顯象アリ、精神的ト物質的ト是レナリ、是レ互ヒニ相反對スル所ノモノニシテ、決シテ其ノ中ノ一ヨリシテ他ヲ演繹シ出スコト能ハサルナリ、其レ惟類ヲ異ニス、是故ニ之ヲ支配スル元理、及ヒ之ヲ説明スル所以ノ方法亦自カラ別ナラサルヲ得ス、即チ自然界若シクハ物質ノ間ニ於テハ、單ニ器械的作用ノミ行ハレ、之ニ反シ、精神界ノ顯象ニアリテハ、單ニ心理的ノ作用ノミカ之ヲ支配スルモノナリ、此二者ハ互ヒニ同等ノ地位ヲ占ムルモノニシテ、一主トナリテ他之ニ屬スルニアラサルナリ、乃チ世界ニ發表セラル、顯象ニ付キテハ、精神ト物質トハ是レ始原ノ二元ナリ、然レモ願テ他方ヲ見レハ、世界ニ於ケル一切ノ顯象ナルモノハ、元來是レ神ノ作ル所ニアラサルナシ、但シ神之ヲ造ルト雖モ、神カ一度ヒ此世界ヲ創造シタル以後ニアリテハ、神カ一々此世界ニ於ケル進行ヲ支配スルモノニアラス、之ヲ自然ニ放任シテ、物質若シクハ精神ヲシテ、各其方向ニ於テ自カラ發達ヲ遂ケシム、是ニ於テ乎一方ニ於テハ、神他方ニ於テハ、世界此二者ヲ以テ吾人ハ二種ノ相異ナリタル根元

ト見ナサ、ルヲ得サルナリ、之ヲ要スルニ、世界ト神ト、又世界ノ中ニアリテハ、精神ト物質ト、此兩種ノ二者ハ、互ヒニ相歸一スヘカラサルノ二元ナリ、此ノ如ク二様ノ二元論ヲ唱フルニヨリ、之ヲ二重二元論トハ稱スルナリ、此ノ如キ二元論ハ吾人ノ到底取ル能ハサル所ナリ、若シ神ヲシテ世界ヲ創造セシモノナラシメハ、神ノ中ヨリシテ此世界カ發生シタルモノト謂ハサルヘカラス、然ラハ世界ハ決シテ神ト其ノ地位ヲ同フシ以テ二元ノ位ヲ占ムルコト能ハサルナリ、若シ物質ナルモノアリ、神カ此已存ノ物質ヲ採擇整頓シテ以テ此世界ヲ作レリトセハ、是レ決シテ神ノ創造スル所トハ謂フヘカラス、單ニ之ヲ整頓スルノミ、創造スト云フキハ其世界ノ材料タル物質亦其自己ノ中ヨリシテ發シ來ルモノナラサルヘカラサルナリ、若シ一步ヲ讓リ神カ物質ヲ採リ來リ世界ヲ創造シタリトスルモ、已ニ神カ之ヲ創造シタルモノナレハ、神ノ手ヲ通セサレハ此世界ハ到底成立スルコト能ハサルシナリ、即チ之ヲ換言スレハ、神ト物質トノ關係ナクンハ此世界ノ万有ハ成ルコト能ハサルナリ、而ルニ神カ世界ニ超越ストハ果シテ如何ナル理由ナル乎、

(三四七)



已ニ神ノ關係ニヨリテ世界カ成レルモノナレハ、是レ決シテ超越トハ謂フヘカラサルナリ、神ハ全智全能ナルニ由リ、如何ナルヲモ爲シ得ルモノトセバ、此ノ如キヲモ或ハ爲シ得ヘカラサルヲニハアラサル乎、若シ神ヲシテ超越的ナリトセハ、吾人ノ世界ハ神ト全ク關係ヲ絶シタルモノナリ、然ラハ之ヲ以テ二元ノ一ニ算入スルヲモ能ハサルニアラスヤ、抑モ二元トハ何ソヤ、是レ即チ吾人カ宇宙顯象ノ大本ヲ謂フモノナリ、宇宙顯象トハ何ソヤ、吾人カ經驗ノ全體是レナリ、超越的ノモノハ是レ吾人ノ經驗ノ範圍以外ノモノナリ、經驗以外ノモノハ顯象ニアラサルナリ、宇宙ニアラサルナリ、自然界哲學ハ唯此宇宙ニ於ケル顯象ヲ論スルモノナリ、一元ト云ヒ二元ト云フモ、此等顯象ノ本體ヲ置キテハ更ラニ意義ナキヲナリ、今吾人カ此顯象ノ大本ヲ論スルニ當リテ、之ニ超越的ナル神ヲ取り來リテ之カ一元トナス、余輩ハ果シテ其ノ何ノ意ナル乎ヲ解スルヲ得ス、是レ全ク議論ノ根基ヲ誤ルモノナリ、之ヲ論理學ニ於テハ無關係ノ結論ト稱ス、誤謬ノ實ニ大ナルモノナリ、世ノ學者或ハ「デカート」ノ神ト世界トヲ以テ全ク超越的ノモノナリト謂フヲ聞キ超越的ノモノナラハ如何ニシテ此等ノモノカ互ニ相感化スルヲ得ル乎、即チ之

ヲ換言スレハ、其間ノ關係ハ如何ニシテ之ヲ説明スヘキ乎ヲ詰問セントス、然レ此詰問モ、余ヲ以テ之ヲ見レハ、全ク無用ノ事業ナリ、何トナレハ「デカート」ハ已ニ其議論ノ目的ヲ誤リタルモノナレハナリ、已ニ議論ノ目的ヲ誤リタル以上ハ、其議論ヨリシテ生シ來ル結果ノ如何ハ之ヲ問フニ足ラサルナリ、是故ニ此詰問モ亦是レ議論ノ目的ヲ忘レタルノ致ス所ナリ、次ニ身軀ト精神トヲ以テ二元トナシ、互ヒニ相感化スヘカラサルモノナリトセハ此二者ノ間ニ於ケル感化作用ハ遂ニ解スヘカラサルヲトナルヘキナリ、「デカート」ハ前ニ所謂投機發生說ヲ以テ之ヲ説カントス、然レ此投機發生說ノ到底完全ナル解釋ヲ與フルヲ得サル所以ハ、其ノ條下ニ於テ粗之ヲ論述シタリ、故ニ今此ニ費セス、若シ又「デカート」ノ謂フカ如ク精神ノ一變化ノ爲スヤ、其機ニ投シテ、神カ身軀ニ作用ヲ起スモノトセハ、神ハ是レ亦徹頭徹尾超越的ナルモノニアラスシテ、多少之ニ關係ヲ有スルモノト謂ハサルヘカラサルニアラスヤ、神ヲシテ果シテ超越的ナリトヒバ、氏ノ所謂投機發生說モ到底其確立スヘキ基礎ヲ失フモノト謂フヘキナリ、



以上掲ケタル理由ニヨリ、デカートノ二元論ハ支離取ルニ足ラサルモノト斷言セサルヲ得サルナリ、

(三) 一元論

一元論トハ何ソヤ、曰ク是レ宇宙万有ヲ以テ唯、一ノ本體ヨリシテ發シ來ルトナスモノナリ、即チ雜多顯象ハ唯其ノ一元ヨリシテ開發シ成レル發表ニ過キスト云フニアリ、例之ヘハ石ハ是レ一躰ナリト云ヘル、其形ヨリシテ云ヘハ圓ニ其色ヨリシテ云ヘハ白ニ其堅サヨリシテ云ヘハ堅等諸種ノ性質ヲ具有スルカ如シ、一元論ハ又分レテ三種ノ異説トナル、

(甲) 物質的の一元論

物質的の一元論トハ已ニ其名ニ於テ明ラカナルカ如ク、一個ノ單純ナル、無生的ノ永存不滅ナル物質アリ、全宇宙ハ一切之カ發生スル所ナリト云フニアリ、此説ハ佛國ニテ有名ナル、キルベツフ諸氏ノ著ハセル「宇宙ノ組織」ナル一卷、及ヒ近代ニアリテハ獨立ノ、ルードウツヒ、ピユヒチル氏ノ著ニ係ル、勢力及ヒ物質ト題スル書ニ於テ唱ヘラル、モノナリ、此書ハ唯物論者ノ尤モ尊敬スル所ニシテ、獨乙ニテハ此書ヲ

以テ唯物論ノ聖經ト迄テ呼ハル、ニ至レリ、

此ノ如キ説ハ固ヨリ此ニ詳説スルヲ要セス、唯宇宙ノ大本ハ物質ナリ、此物質カ種々ニ變化シテ以テ万象ヲ生ス、之ヨリシテ又所謂精神的作用ナルモノモ發生スルニ至ルト云フニ過キサルナリ、所謂唯物論ナルモノヲ唱フルトキハ必大抵皆此ニ出ツルモノナリ、物理學ヨリシテ哲學ニ入ルモノハ、多ク此説ヲ取ル、而シテ近世歐洲ノ思想界ニ於テハ、獨乙ヲ中心トシテ、以テ此説ヲ唱フルモノ、頗ル盛ナリシナリ、然レトモ最近ニ至リテハ此ノ如キ學説ノ到底吾人が精神の顯象ヲ説明スルニ足ラサルヲ發見スルヤ、遂ニ變シテ、平行論トナレリ、平行論ノ何タリヤ、又其ノ弱點ノ那邊ニ存在スル乎ハ、前已ニ其ノ條下ニ於テ詳述シタレハ、今此ニハ之ヲ述ヘサルヘシ、

(乙) 精神的の一元論

精神の一元論トハ宇宙万有ノ一元ニ出ツルト云フハ、前説ト敢テ異ナルヲナシト雖モ、唯其ノ物質的ノモノニ代ユルニ、精神のモノヲ以テシタルノミ、之ニモ又二種ノ別アリ、抽象的の一元論ト具體的の一元論ト是レナリ、哲學上ニ於ケル精神の一元



論若シクハ宗教上ノ形ヲ以テ顯ハレタル一元論ハ、常ニ必ラス同一哲學ノ觀ヲ呈スルモノナリ、

(イ) 抽象的。一元論

是レハ一個ノ大元ヲ以テ宇宙万有ノ根元ト見做スモノナレド、其ノ一元タル全々宇宙ノ實在的物體ヨリ分離セラレ、モノナリ、即チ言ヲ換ヘテ之ヲ言ヘバ、抽象セラレタルモノナリ、是故ニ此モノ、中ニハ實在ナル性質ハ全ク存在セサルモノトズ、乃チ此ノ一元カ宇宙ニ發顯セントスル所ハ、他ヨリシテ實在ノ性質ヲ借り來ラサルヲ得ス、是ニ於テ乎此說ハ實在的ノモノヲ以テ、一切吾人ノ夢幻ニ等シトナシ、實有ニアラスト斷スルナリ、但シ如何ナル抽象的。一元論ニアリテモ、吾人ノ感覺的世界ノ成立スル所以ハ、之ヲ説明セサルヲ得ス、而モ抽象的。一元論ハ、變シテ具體的。一元論トナルニアラサレハ、此等ノ事業ハ到底無益ノコトタルヲ免レス、何トナレハ此說ニヨレハ、宇宙ニ實有ナルモノハ唯此一元アルノミ、其他ノ所謂感覺的。二顯ハ來ル所ノモノハ、皆是レ夢幻虛影ニ均シクレハナリ、印度哲學ニ於ケル「マダンリ」哲學及ヒ希臘哲學中「エレア學派」ノ「パルメニデス」ノ哲學ノ如キ、即チ此一元論ニ

屬スルモノナリ、

「パルメニデス」哲學ノ大要ハ次ノ如シ、

氏ハ說ニ以爲ラク、絕對的。一元即チ是レ万有實在ノ大本ナリ、此物ハ唯ニ永存不變ナルノミナラス、此物即チ實在ニシテ、万有其物ナリ、所謂實在ノ概念トハ、實有的ノモノ、本體是レナリ、思考ト万有トハ、元來是レ同一物タルニ過キス、抽象的。万有或ハ實在トハ是レ轉化ノ性質ト相反スルモノナリ、如何ナルモノモ實在セハ、是レ轉化スルモノニアラス、苟モ轉化スルモノハ實在スルモノニハアラサルナリ、故ニ若シ實在ヲシテ實有ノ眞性ヲラシメハ、實有ハ決シテ轉化シ得サルモノト謂ハサルヲ得ス、然ルニ今吾人カ眼ヲ開キテ宇宙ノ状態ヲ觀察スルニ、万物ハ總ヘテ吾人ノ前ニ轉化セサルアルコトナシ、是レニヨリテ之ヲ觀レハ、宇宙ノ發顯スル一切變化ノ状態ハ、決シテ之ヲ以テ實有ノ本性トハ謂フヘカラサルナリ、是レ皆單ニ吾人カ感官ノ錯覺ノミ、万有ノ概念タル實有ノ本性ハ唯吾人ノ理性ニヨリテ理解セラレ得ルノミ、無限ニ變化スル所ノ夢幻ニ均シキ影象、即チ所謂世界ナルモノハ、是レ吾人感官ノ爲ス所タルニ外ナラサル明ラカチリ、此ノ如ク吾人知識ニ於ケル二個



ノ全ク相異ナレル原因ヨリシテ、此ニ又吾人知識ノ目的物ニ關シテモ、二種ノ異ナ  
 レルモノナキヲ得ス、一ハ即チ絕對ニシテ、是レ吾人カ理性ニヨリテノミ理解セラ  
 レ得ルモノナリ、第二ハ即チ具體的物體ノ世界即チ自然界、是レハ吾人知覺ノ付與  
 スル所ナリ、其故ニ第二ノモノハ是レ前者ニ比スレハ地位ニ於テ劣等ニシテ、實有  
 ノ性質ハ全ク之ヲ闕如スルモノタリ、自然界ニシテ實在セハ、之ト共ニ又無限ノ變  
 化ハ實在セサルヘカラス、然レニ要スルニ是レハ唯、無ト同一ナルモノニ過キサ  
 ナリ、

此ノ如ク、バルメニデスノ説ハ、抽象的一元論ナリト雖モ、又或ル點ヨリシテ之ヲ見  
 レハ、二元論ノ傾キナキニアラス、何トナレハ一方ニアリテハ絕對的本體ト、他方ニ  
 アリテハ關係的ノ方有、即チ自然界ヲ兩立セシムルモノナレハナリ、氏ハ前者ノミ  
 ヲ以テ實有ノ性ヲ有スルモノナリト云フト雖モ、而モ自然界ハ之ニヨリテ實在セ  
 サルモノナリトハ謂ハス、反リテ氏ハ之ヲ説明スルニ當リテ、火土ノ二元素ヲ取リ  
 來リ、之ニヨリテ成ルモノトミナセリ、火ヲ以テ實有ノ性ヲ表シ、土ヲ以テ無ノ性ヲ  
 顯ハサントセルナリ、是ニ由リテ之ヲ觀レハ、自然界ハ固ヨリ其地位ニ於テハ卑シ

ト雖モ、又絕對的一ト共ニ實有ナルヲ疑フヘカラサルカ如シ、然ラハ即チ氏ノ説ハ  
 之ヲ二種ノ元素ニ歸スルヲ得ヘキナリ、即チ一方ニハ永存ニシテ不變ナル絕對  
 的ノモノト、他方ニハ無限ノ變化スヘキ自然界ト是レナリ、若シ果シテ氏ニシテ此  
 宇宙顯象ヲ一切夢幻ニ均シト云ハントナラハ、此ノ如キ諸種ノ變化、及ヒ無限ノ万  
 有ノ悉ク實在セサルモノナルヲ證明セサルヘカラサルナリ、而シテ是レ果シテ  
 能ク證明シ得ヘキコトナル乎、吾人ハ之ヲ疑ハサルヲ得ス、此批評ハ、バルメニデスノ  
 説ニ付テノミ謂フヘキモノニアラスシテ、亦以テ一切ノ抽象的一元論ニ應用スル  
 ヲ得ルモノナリ、

是故ニ、バルメニデスノ如ク、徹頭徹尾抽象的一元論ヲ以テ貫通セ  
 ントスル哲學ハ到底成立スルヲ得ルモノニアラサルナリ、此説ヲシテ十分ニ論  
 理的ナラシメントセハ、必ラスヤ次ノ、

(ロ) 具體的一元論

ニ移ラサルヲ得サルナリ、具體的一元論トハ、實在的ノ方有ヲ以テ悉ク、宇宙顯象ノ  
 大本タル一元ノ中ニ包含セラルトナスナリ、即チ具體的ノ方有ヲ離レテ、別ニ一元



アルニアラス、一元ハ又具體的ノ万有ヲ外ニシテ抽象的ニ存在スルニアラサルナリ、此二者ハ元來是レ同一ニシテ無差別ノモノトス、但シ其外ニ發顯スルト否ヤトニ由リテ吾人ハ之ヲ區別シ、得ルノミ、是故ニ抽象的一元論モ、仔細ニ之ヲ研究シ、之ヲシテ完全ナラシメントスルハ、又必ラズ具體的一元論ニ歸セサルヲ得サルナリ、具體的一元論トハ、ハートマン諸氏ノ唱フル所是レナリ、

(ハ) 物心一元論

又此ニ一種ノ一元論アリ、是レ物質的一元論ヨリシテ精神的一元論ニ變化スル過度ノ處ニ住スルモノナリ、之ヲ物心一元論ト稱ス、此說ニヨレハ、精神ト物質トヲ分離シ存在スルモノトナサス、精神ヲシテ物質ニ屬セシメントスルナリ、但シ其作用タル、生活ト稱スル特殊ノ活動的元理ヨリシテ得來リタルモノニアラスシテ、物質ナル思想ニ於テ獨立ノ生活作用カ附屬シ居ルモノト見ナスナリ、ヘツケル氏ハ實ニ此說ノ代表者タリ、彼ノ精神物理學ヲ以テ有名ナルフエヒチル氏ノ如キニ至リテハ、此說ト無神論トヲ混一シタルモノヲ唱ヘタリ、吾人ハ古代ノ宗教、并ヒニ神學的及ヒ哲學的組織ニ於テ、物心一元論ノ萌芽ヲ發見シ得ルナリ、

物心一元論ハ主トシテ近代唯物論者ノ一派カ唱フル所ナリ、然レモ此說ハ頗ル曖昧不明ナル所ナキニアラス、物質的作用ト精神的作用トノ區別關係ヲ明了ニセザレハ、此說ハ十分ニ確立スルコト能ハサルナリ、此二者ノ區別ニ至リテハ余カ前ニ述ヘタル唯物論批評ノ條下ヲ參觀スヘシ、

以上自然界顯象ノ大本ニ基キテノ數量上ノ考究ヲ終ル、

顯象ノ終局

是迄テ述ヘ來ル所ハ、宇宙顯象ノ大本ハ數量上ニ於テ果シテ是レ一ナル乎、二ナル乎、將タ又多ナル乎ニ付キテ、古來ノ見解ノ一斑ヲ叙シタルニ止マルモノナリ、此ノ如ク其ノ大本ニ付キテハ、諸種ノ異說紛々トシテ生シ、一ナル能ハスト雖モ、而モ現在ノ世界ニアリテハ、雜多無限ノ顯象ノ并ヒ存在スルコトニ至リテハ、何人モ之ヲ否定スルコトヲ得ス、抽象的一元論ノ如キ、此顯象ヲ以テ總ヘテ夢幻ノ如シト云フト雖モ、之ニ由リテ以テ其無限ノ實在ヲ否定セントスルモノニアラス、否、其雜多ナルコトハ已ニ之ヲ承認スルモノト見ナサ、ルヲ得サルナリ、嘗ニ其ノ無限ニシテ、雜多ナルコトヲ許スノミナラス、又如何ナル學說ニアリテモ、其顯象ノ變化止マサルモノナ



ルヲ許スヘシ、假令其本體ハ永存ニシテ不變ナリトスルモ、此ノモノカ諸種ノ形態ニ於テ發顯シタル以上ハ、決シテ本體其物ノ如ク永存ニシテ不變トナリ得ルニアラス、反ツテ變化止ムナク、瞬時モ同一ノ状態ニ於テ實在スルモノニアラサルナリ、然ラハ則チ吾人ハ此ニ又一個人ノ疑問ヲ提起セサルヲ得ス、抑モ此ノ如キ無限ノ變化ハ、單ニ是レ變化ナルニ止マル乎、或ハ又然ラスシテ是レ即チ進歩ナル乎ト、尙ホ詳カニ之ヲ言ヘハ、顯象ノ時々刻々ニ轉化シテ、倏忽ノ間ト雖モ止ムヲナキモノハ、其變化ニ於ケル一定ノ目的ノ存スルアリテ、之ニ向ツテ漸ニ進歩シタルモノナル乎、或ハ單ニ其形態ヲ變スルモノニシテ、秋毫モ其ノ變化スル所以ノ終局ノ目的ヲ有スルアラサル乎、若シ目的ノ存セサルモノトセハ、水上ニ泛ヘル小舟ノ如ク、万有ハ唯生ヨリ死ニ至ル迄テ、左右ニ動搖シ居ルノミニシテ、毫髮ノ進歩アルヲナク、或ハ左或ハ右ニ移ルモ、其ノ地位ハ依然トシテ舊ノ如クナラサルヲ得ス、將タ又終局ノ目的ノ存在スルアリ、万有ハ之ニ向ツテ時々ニ進行スルモノナリトセハ、其形ヲ易フルヤ、單ニ變化スルニアラスシテ、一步々々其ノ完全ノ境域ニ近ツカントスルモノナリ、是ニ於テ千古來二種ノ異見ノ生スルヲ見ル、即チ

器械的ト、意匠的見解ト是レナリ、

(一) 器械的見解

器械的見解ハ以爲ラク、理ハ是レ宇宙ニ於ケル一切ノ顯象ヲ支配スル所以ノモノニシテ、一定ノ意匠ヲ有スル如キトハ、決シテ是レナキナリ、一切顯象ハ一トシテ器械的ノ作用ニヨリ、左右セラレ、運動セラレスト云フヲナシ、万有ハ器械的ノ外之ヲシテ運動セシムル所以ノ力ナキナリ、精神的ノ作用ト雖モ、亦此作用ニ外ナラスト、蓋シ此說ニヨレハ、精神的作用ヲ以テ、吾人ノ腦髓ト同一視スルモノナレハナリ、上節唯物論ノ條下参照、是故ニ宇宙一切ノ顯象ハ、物理、化學、生理等ノ諸學科ニヨリテ研究發見セラレタル、所謂理法ナルモノニヨリテ、以テ十分ニ解釋セラル、トヲ得ルモノナリ、所謂意匠ナルモノカ、宇宙ノ間ニ存在スト云フモノハ、是レ單ニ學者ノ空想ノミ、唯物論ヲ以テ哲學上ノ正說ト考フルモノハ、大底皆又此見解ヲ是認スルナリ

但シ此見解ハ吾人ニ満足ヲ與フルモノニアラス、此見解ニヨレハ、吾人ノ所謂美學的、道德的、若シクハ宗教的ノ思想ハ、全ク之ヲ排除スルモノナレハナリ、若シ此ノ如



ク單ニ器械的作用ノミカ方有テ支配スルモノトセハ、所謂變化ハ存在スト雖モ、進歩ハ決シテ之ナキニ至ルヘシ、宇宙ノ万有テ歴史的ニ觀察シ來ルモ、果シテ進歩ノ存在セサルヲ斷言シ得ル乎、又若シ此說ノ如クナラシメハ、道德上ノ顯象ハ如何ニシテ之ヲ説明セントスル乎、吾人ハ此等ノ範圍ニ於テハ、到底此說ヲ持スルヲ能ハサルモノナリ、

### (二) 意匠的見解

器械的見解ニ反シ、意匠的見解ハ以爲ラク、宇宙ニハ一ノ意匠ナルモノアリ、此モノハ必ラスシモ神ニヨリテ作ラレタリト謂フヲ要セス、万有ハ總ヘテ理ニヨリテ支配セラル、ハ、固ヨリ言テ俟タスト雖モ、理ニヨリテ支配セラレ意匠即チ最終ノ目的ニ向ツテ進歩シ居ルナリ、是故ニ万有ノ其形ヲ變スルハ、是レ決シテ單純ナル變化ニ止マルニアラスシテ、此變化ニヨリテ以テ一步々々ニ完全ノ域ニ接近セントスルモノナリト、此說ハ唯物論ヲ除ク外ノ一切ノ哲學ヲ唱フルモノ、取ル所ナリ但シ、マオン、スチユアイト、ミル、カント、スベンサー」諸氏一派ノ實驗學者ハ此限リニアラス、

但シ此說ニアリテモ、古代ノ神學或ハ一種ノ唯心論者ノ唱フルカ如ク、一切ノ器械的説明ヲ非ナリトシ、單ニ目的ニ向ツテ運動スルノミニシテ、器械的作用ナルモノハ秋毫モ存在スルコトナシ、神學者流ニアリテハ前ノ論者カ唱ヘタル器械的作用ニ易フルニ一切神ノ意ヲ以テセリト云ハ、又過激ニ失スルノ論ト謂ハサルヲ得サルナリ、何トナレハ物質上ノ變化、即チ諸種科學ノ研究スル範圍ニアリテハ、器械的作用ノ明ラカニ之ヲ支配スルヲ證明シ得レハナリ、又此作用ナクレハ到底合理的ニ之ヲ解釋シ得サルナリ、進歩ハ神ノ意志ニ出ツト云フカ如キニ至リテハ固ヨリ此ニ之ヲ評議スルノ價ナキナリ、

### (三) 合理的意匠論

是ニ於テ乎又合理的意匠論ナルモノ起レリ、是レ即チ第一第二兩說ノ折中說トモ云フヘキモノナリ、近代ニ於ケル哲學者ハ此說ヲ唱フルモノ少ナカラス、此說ハ以爲ラク、器械的及ヒ意匠的見解ハ共ニ是レ物ノ一面ヲ見タル僻論ナリ、是故ニ吾人ノ取ルヘカラサルモノナリ、吾人若シ仔細ニ純正哲學及ヒ自然界哲學ヲ研究スルモ、器械的見解ト意匠的見解トハ、決シテ互ヒニ相容レサルノ反對論ニ



論 概 學 哲

アラサルヲ發見スヘシ、蓋シ宇宙万有ノ變化スル痕ニ付キテ之ヲ觀察スルトキハ、吾人ハ正サニ悟ルヘシ、宇宙ノ其局面ヲ變化スルヤ、單ニ其面相ヲ易フルニ止マラスシテ、更ラニ其後ニ於テ一大目的ノ存スルアリ、万有ハ之ニ向ツテ着々進歩スルトヲ、宇宙一切ノ万有ハ總ヘテ此目的ヲ以テ目的トナシ之ヲ以テ其終局ノ處トナス、而モ其ノ一々ノ事物變化ノ際ニ付キテ之ヲ觀察スルルハ、即チ換言スレハ如何ニシテ此等ノモノカ變化スル乎ニ付キテ之ヲ言ヘハ是レ等ハ又器械的作用ニヨリテ然ルヲ發見スルナリ、之ヲ要スルニ、宇宙万有ノ構造ニ付キテハ、器械的作用之ヲ支配シ、宇宙万有變化ノ方向ニ關シテハ、一大意匠ナルモノ之ヲ支配スルナリト、

此說ハ畢竟是レ近代ニ於ケル科學研究ノ結果ト、從來ノ哲學的見解トヲ綜合シ成レルモノナリ、物質的ノ範圍ニアリテハ、器械的ノ作用ハ原因結果ノ理法ニ從ヒテ其ノ運動變化ヲ支配スルモノナルハ、吾人ノ最早ヤ疑ヲ容ルヘカラサル所ナリ、古人ノ一々之ヲ以テ神ニ歸スルカ如キハ、到底之ヲ以テ彼ヲ破ルヘカラサルナリ、而モ万有ニハ變化アリテ進歩ナシトスルニ至リテハ、吾人又容易ニ首肯シ得ル所ニアラス、密ニ人世ノ歴史ニ付キテ之ヲ觀察スルルハ、着々進歩ノ痕ヲ認メ得ルノミナラス、美學的、道德的ノ範圍ニ於テ之ヲ考フルニ、此見解ハ遂ニ左牴右牾スルアルヲ免レサレハナリ、是故ニ吾人ハ合理的意匠論ノ穩當ニシテ、事實ニ撞着セサルヲ取ラサルヲ得ス、

世界觀

一方ニアリテハ、世界終局ノ目的ト相關連シ、又他方ニアリテハ純正哲學上ノ意見ト相結合シテ、此ニ現在ノ世界觀ニ付キテ種々ノ異說紛々タリ、現世ノ世界ハ果シテ苦痛ニシテ惡ナルモノカ、或ハ快樂ニシテ善ナルモノ乎トノ問題はレナリ、此問題ニ關シテハ固ヨリ種々ノ議論アリト雖モ、而モ世界ニ於ケル哲學ノ歴史ニ付キテ之ヲ觀察スルルハ、四種ノ異見アルヲ發見スヘシ、四種トハ何ソ

- (一) 厭世主義
- (二) 快樂主義
- (三) 厭世的進化說
- (四) 超越的快樂主義

ト是レナリ

(一) 厭世主義

論 概 學 哲



厭世主義トハ現在ノ世界及ヒ人生ヲ以テ吾人ノ生活スルニ價ヒセサルモノナリトナスナリ、抑モ世界ノ状態ヲ觀察スルキハ、吾人ハ先ツ苦痛ノ常ニ快樂ヨリ多クシテ、到底僅少ノ快樂ヲ以テハ苦痛ヲ消スルコトヲ得サルモノナリ、且ツヤ當時人性ハ己ニ腐敗シ了レリ、故ニ其行爲ハ常ニ惡ニシテ、一毫ノ取ルヘキアルコトナシ、要スルニ此世界ハ實ニ苦痛ノ世界ナリ、吾人ノ喜ヒテ以テ生ヲ托スルノ處ニアラス、一世苦ヲ受ケテ空シク生センヨリモ、寧ロ早く死スルノ勝レルニ如カサルナリト、此說ノ起原タル實ニ邈焉トシテ、殊ニ近代ニ始マルモノニアラス、表面ニアリテハ希臘羅甸ノ詩歌中ニ於テ此ヲノ元素非常ニ夥シク、東洋ニアリテモ印度ノ宗教ハ本ト此性質ヲ帶ヒタルナリ、其他支那ニ於テモ老莊ノ學ヲ始メトシテ是レト同一意見ヲ抱クモノ實ニ僅少ナリトナサ、ルナリ、近世哲學者中ニアリテハ、シオーペソハワ、氏之ヲ唱ヘ、印度ノ思想大ニ其助ヲ與ヘタリ、其傾向實ニ一世ヲ風靡スルニ至レリ、蓋シ快樂ノ詩歌ハ巧ナリ難クシテ悲愴ノ詩歌ハ巧ナリ易シ、哲學ノ流行ト否トハ多クハ多數人民ノ向背如何ニ由ルモノナレハ、流行スル哲學ハ必ラスシモ以テ其說ノ高妙ナルヲ證スルモノニアラスシテ、寧ロ人心ヲ感スルコト大ナルモノナリ、而シテ悲哀ノ情ノ人心ヲ感シ易キハ、決シテ快樂ノ情ノ比ニアラス、シオーペソハワ、哲學ノ一世ヲ風靡シタル、其時世若シクハ其文章大ニ之カ因ヲ爲スナキニアラスト雖也、而モ其哲學ノ傾ノ人心ヲ感スルコト太甚シキニヨルモノナルヲ疑ヒテ容レサルナリ、

「シオーペソハワ、氏ノ大要ヲ掲クレハ次ノ如クナリ、  
人ノ本體ハ意志ナリ、而シテ意志ノ性ハ素ト衝動的ノモノニシテ斷ヘス吾人ニ刺戟ヲ與ヘ、吾人ヲシテ運動セシメントスルモノナリ、故ニ吾人ハ常ニ不満足ヲ感シ、恒ニ物ヲ得コトヲ欲シ、之ヲ充サ、レハ靜止スルコトヲ得ス、是レ人ノ性ナリ、是故ニ人若シ慾望ヲ有セサレハ、決シテ生活スルコト能ハス、吾人ノ智識ハ如何ニ進歩スルモ、慾望ハ之カ爲メニ滅シ得ルモノニアラス、唯少シク其種類ヲ變スルノミ、其ノ事物ヲ慾望スルノ一事ニ至リテハ、今尙ホ古ノ如ク、將來幾百ケ年ノ後モ、亦猶ホ今ノ如キナリ、而シテ慾望ストハ即チ爭ヒ取ルコトナリ、爭ヒ取ルコトハ即チ苦痛ヲ感スルコトナリ、苦痛ヲケレハ決シテ吾人カ物ヲ慾望スルコトナシ、唯己レニ足ラサル所アルニ由リテ、之ヲ満足セシメント欲シ、外物ヲ爭ヒ取ラントスルナリ、是故ニ之ヲ満足



セシムル迄テハ、其ノ苦痛ハ決シテ消シ得ルモノニアラス、而シテ一旦之ヲ満足セシムル片眞、其ノ瞬間ニアリテハ、苦痛ハ消滅スヘシ、然レモ是レ又永續シ得ルモノニアラス、一慾止メハ直チニ又他ノ慾望代リ生ス、此ノ如クニシテ吾人ハ生ヨリ死ニ至ル迄テ、一日モ満足ノ状態ヲ以テ安ニスルコト能ハス、常ニ欲シ常ニ苦シム、譬ヘハ猶ホ大渴ノ人ノ如シ、如何程飲ムモ決シテ其渴ヲ止メ得ルコトナキナリ、慾望ノ止ム所ハ即チ是レ死ノ至ル時ナリ、

快樂ハ決シテ實有ノモノニアラス、吾人ハ常ニ物ヲ欲ス、而シテ之ヲ得ル所ハ一時其念ヲ匿スルコトヲ得、是レ快樂ノミ、幸福ト云ヒ快樂ト稱スルモ、別ニ其ノモノアルコトナキナリ、唯苦痛ノ状態ヲ脱シ得タルノ謂ニ過キサルナリ、然レモ現世ニアリテハ唯一物ノ能ク吾人ヲ慰ムニ足ルモノアリ、之ヲ美術トナス、吾人ガ美術ヲ見ル所ハ、最早ヤ自己ノ存在ヲ忘レ、以テ美術ト冥合ス、故ニ吾人ハ之ヨリシテ快樂ヲ感スルナリ、然レモ是レ亦永續スルモノニアラス、直ニ意志ハ自己ニ歸リ來ルヘシ、故ニ又苦痛ヲ感スルナリ、且ツヤ美術ヲ見テ快樂ヲ感シ得ルモノハ、世界ニ於テ極少ノ人ノミ、故ニ常人ハ到底快樂ヲ感スルコト能ハスト謂フ不可ナルコトナシ、而シテ何物

カ之ヲシテ然シムル、是レ皆意志ノ存在スルカ爲メニアラサルナシ、吾人ノ本體即チ是レ意志ナレハナリ、

是故ニ吾人カ苦痛ヲ脱セントスルニハ、自己ノ意志ヲ滅セシムルニ如クハナシ、然ラサレハ決シテ之ヲ去ルコト能ハス、而シテ意志ヲ滅スルニハ、知力ヲ發達シ、之ニ由リテ以テ世態ヲ觀スルヲ要ス、意志ノ消滅ニハ二種ノ階段アリ、

第一 ハ博愛慈仁ヲ行フノ時期是レナリ、此時ニハ知力ヲ以テ事理ヲ悟リ、他人ノ苦痛ノ状態ヲ見テハ同情相憐ノ念ヲ起シ、他人ノ事業ノ爲メニ、自己ノ存在ヲ忘レテ、以テ自己ノ意志ヲ消スルナリ、世ニ所謂聖人ナルモノ亦皆是レノミ、然レモ是レ尙ホ未タ以テ完全ナリトナスヘカラス、是レ始ラク自己ノ意志ヲ忘ル、ノミニニシテ、決シテ之ヲ消滅シ了ルモノトハ謂フヲ得サレハナリ、全然之ヲ消滅シ了ランニハ必ラスヤ

第二 ニ至リ、隱遁スルコトヲ要ス、隱遁スト云フモ、世事ニ失望シテ自殺等ヲナスヘシト謂フニアラス、何トナレハ自殺ハ決シテ意志ヲ消滅スルモノニアラスシテ、反リテ之ヲシテ盛大ナラシムルモノナレハナリ、隱遁スルニハ吾人ハ先ツ情慾ヲ



制セサルヘカラス、此慾ヲ制シ、漸々肉體ノ慾ヲ斷シ、以テ自己ノ意志ヲ消滅スルニ至ルモハ此ニ始メテ平和ニ生活スルヲ得ルモノナリト

- (一) 生活ストハ慾望スルヲナリ、
- (二) 慾望ストハ欠乏ヲ感スルヲナリ、
- (三) 欠望ヲ感スルハ苦痛ノ状態ナリ、
- (四) 故ニ生活スルハ苦痛ノ状態ナリ、
- (五) 乃チ吾人ハ隱遁ヲナシ自己ノ意志ヲ消滅シ去ラサルヘカラス、

ト是レナリ、蓋シ天人才ヲ生シ之ヲシテ能ク當世ニ伸フルヲ得サラシム、是ニ於テ乎滿腔ノ不平之ヲ漏スニ所ナク、居常鬱悒トシテ樂マズ、乃チ詩歌ニ文章ニ、之ヲ吐露シテ以テ漸ク之ヲ散スルニ至ルナリ、而モ一心已ニ不快ナルニヨリテ、春花秋月、人ノ以テ樂シトナス所、己レ曾以テ悲愴ノ觀ヲ呈セサルナキナリ、乃チ厭世的世界觀ハ成ルナリ、若シ其レ然ラサレハ、身軀ノ脆弱ニシテ、素ト奇才ヲ負ヒ大志ヲ抱クト雖モ、之

ヲ實行スルニ途ナク、之ヲ發表スルニ由ナク、鬱々トシテ、遂ニ此ニ至ル乎、此二様ノ原因ノ尤モ主タルモノナリ、然レモ厭世主義ヲ唱フル學者ノ中ニ付キテモ、二種ノ別アルモノ、如シ、一ハ人生ヲ苦痛ナリトシ、而モ意氣揚々トシテ、詩歌文章ニ傾リニ其ノ不平ヲ吐露スルモノト、他ハ人生ノ苦痛ヲ感シ直チニ山野ニ隱遁シ、若シクハ自殺ヲ遂ケントスルモノト是レナリ、後者ハ之ヲ隱遁(或ハ遁世)主義ト稱ス、蓋シ是レ厭世の觀念ノ其極ニ達スルモノナリ、

快樂苦痛ハ素ト是レ定名ニアラズ、快樂ハ苦痛ニ對シテ存シ、苦痛ハ快樂ニ對シテ存スルモノナリ、是故ニ一人快樂ト稱スルモノモ、他人ニアリテハ苦痛ト感シ、一人苦痛ト感スルモノモ、他人ハ之ヲ以テ快樂ト見ナスヲ往々ニシテ之アリ、是レ其ノ關係的ニ存在スル所以ナリ、若シ果シテ之ヲシテ定名タラシメハ、一人ノ苦痛トスル處ハ、万人ノ苦痛トスル所、一人ノ快樂トナス所ハ、即チ是レ万人ノ快樂トナス所タラサルヘカラサルナリ、然ルニ實際ニ於テ然ク感セサルヲ以テ見レハ、其ノ定名ニアラサル斷シテ知ルヘキナリ、故ニ此世界ニハ比較的ニ快樂ヨリモ苦痛多シト云フハ實ニ是レ無義ノヲナリ、何トナレバ快樂苦痛トスル所、各人ニヨリテ異ナレハ



ナリ、厭世主義ヲ唱フル人ニアリテハ、天地万物皆悲愴愁嘆ノ觀ヲ呈セサルナキヲ以テ、此ノ如ク感スルコトハ或ハ之アルヘキナレドモ、是レ自己心理ノ狀況ノ之ヲシテ然ラシムルモノ、必スシモ之ヲ以テ宇宙ノ常態カ此ノ如クナリト稱スヘカラサルナリ、快樂主義ノ世ニ存在スルヲ以テ見レハ愈其ノ眞ナラサルヲ知ルヘキノミ、何トナレハ世界ノ常態ニシテ已ニ苦痛ノモノナラシメハ快樂ナリト稱スルコトハ到底ナシ能ハサレハナリ、

且ツヤ人間ハ動物ノ中ニ於テ、所謂最高等ノ地位ヲ占ムルモノナリ、乃チ單ニ下等動物ノ如ク、感覺若シクハ感情ノ世界ニノミ住スヘキニアラス、固ヨリ吾人ハ自然ニ此等ノ能力ヲモ付與セラレ得ルモノナレハ、強テ之ヲ排斥スヘキコトアラサレドモ、此等ノ世界以外ニ於テ更ラニ高尚ナル世界ノ存在スルコトヲ認メサルヘカラサルナリ、若シ其レ感覺的世界ニノミ動作スルヲ以テ足レリトセハ、吾人々類モ下等動物ト更ラニ擧フ所ナキナリ、吾人ノ所謂最靈ナリト稱スル所果シテ何處ニカ存スヘケン、是レニ由リテ之ヲ觀レハ、世界ヲシテ假令ヒ快樂ヨリモ苦痛ノ多キモノナラシムルモ、之ヲ以テ直チニ其世界ヲ厭離シ、山野ニ隱遁シ、若シクハ自殺ヲ遂ケン

トスル如キハ實ニ其心志ノ最モ賤シムヘキヲ見ルナリ、何トナレハ此等ノ輩ハ到底感覺的世界ヲ離ル、コトヲ得サルモノナシハナリ、吾人ノ住スヘキ最靈ノ世界ヲ認ムル能ハサルモノナレハナリ、之ヲ要スルニ厭世論者ノ言フ所ハ、吾人ノ到底服スル能ハサルモノナリ、一步ヲ讓リテ其言フ所ヲシテ悉ク眞ナラシムルモ吾人ハ厭世主義ナルモノヲ以テ、正當ナル世界觀ト稱スルヲ得サルナリ、是レ或ハ人類以下ニ位スル下等動物ノ唱フルモノトシテハ適當ナル所アラン、然レトモ人類ノ唱フル所トシテハ是レ其最靈タル所以ヲ沒スルモノナリ、

其他國家社會上ニ於ケル影響ニ至リテモ、亦實ニ恐ルヘキモノアルヘシ、然レモ是レ等ハ實際上ノ結果ニシテ、以テ其論ノ正邪ヲ判スルニ足ラサルモノナレハ、實際上ノ問題ニアリテハ重大ナルモノナルニモ關ハラス、此ニハ之ヲ述ヘサルヘシ、理論ト實際トハ固ヨリ離ルヘキニアラスト雖モ、而モ其間又區別スル所アリテ存スレハナリ、

厭世主義ニ反對スルモノナリ

(二) 快樂主義



哲 學 概 論

トナス、是レ現在ノ世界ヲ以テ最モ快樂ニシテ、最モ善良ノモノトナスナリ、此主義ハ固ヨリ宇宙ニ發顯シ來ル一切ノ顯象ヲ取リテ一々善盡シ美盡セリトナスニアラス、而モ神ハ種々ノ狀態ニ於テ世界ヲ造リ得ヘシ、然レモ其ノ無限ノ世界ノ中ニアリテ、此世界ハ最善、最美ニシテ之ヨリハ一層善良ナルモノヲ造リ出ス能ハサルモノトナスナリ、尙ホ詳カニ之ヲ言ヘハ宇宙顯象ノ中ニハ固ヨリ醜惡ナルモノモ之アリト雖モ是レ等ハ物質界ノ到底免ル能ハサル所ナリ、神力如何様ニ世界ヲ造リ出スモ物質的要素ノ之ニ混入スル間ハ、到底此等ノ醜惡ナルモノヲ一切除去スルヲ能ハサルナリ、而シテ其醜惡ナルモノ、存在スル中ニ付キテ、此世界ハ最モ完全ニシテ、又尤モ善惡ノ僅少ナルモノナリ、是故ニ吾人ハ之ヨリモ一層完全ナルモノヲ望ムヘカラス、現在ノ狀態ニ於テ満足シ、以テ其快樂ヲ享有セサルヘカラスト、此說ハ近代哲學ニアリテ有名ナル「ライブニッツ」氏ノ唱フル所ニ係ルナリ、此ノ如キ說ヲ唱フルモノハ、宗教家ヲ除キテハ多ク得難シトナス、然レモ「ヘーゲル」ノ如キモ又此說ヲ唱フルノ一人ナリ、

「ライブニッツ」ノ說ハ上來述フル所ト同意ナレモ、尙ホ少シク詳カナル所アレハ此

ニ其大要ヲ約出セシ

氏ハ以爲ラク、神(即チ實體ナルヲ記憶セヨ)ハ始原的單一ナル實體ニシテ、万物ハ總ヘテ之ヨリ迸出シ來タルモノナリ、是ヲ以テ世人ハ万物ヲ以テ神ノ創造スル所トナセリ、神ハ万有ノ大原ナルカ故ニ、總ヘテ此等ノ物體ヲ知ラスト云フヲナク、万物ハ又總ヘテ神ノ眼前ニ顯ハレスト云フヲナキナリ、神ハ實ニ創造者トシテ世界ヲ支配セリ、

哲 學 概 論

已ニ云フカ如ク世界カ神ノ造ル所ナルカ故ニ、是レ成ルヘクタク完全ナルモノナリ(快樂主義)何トナレハ若シ現在ノ世界ヨリモ一層完全ナル世界ニシテ、果シテ實在スルヲ得ルモノナリトセハ、神ノ全知ハ當サニ之ヲ知ルヘク、神ノ至仁ハ當サニ之ヲ欲スヘク、神ノ全能ハ又當サニ之ヲ作ルヘケレハナリ、然ルニ神ノ已ニ之ヲ作ラサリシヲ以テ之ヲ見レハ、此世界ノ最善最良ナル斷シテ明ラカナリトス、又假令ヒ此世界ニシテ善惡ナルモノナリトスルモ、其實ヤ最モ僅少ナルモノニシテ、而モ是レ又有限界ノ止ムヲ得サルニ出ツルモノタリ、若シ世界ニシテ實在セハ如何ナル世界モ必ラス多少ノ善惡ノ之ニ伴ヒ生スルハ、勢ノ到底避クヘカラサル所ナ



リ、今現世ノ害惡ヲ檢スルニ之ヲ三種ニ別ツテ得ヘシ、

(三十四)

(一) 哲學上ノ惡、是レナリ、是レ吾人ノ有限ニシテ万物ノ不完全ナルニ由リテ生  
スルモノナレハ避クヘカラサルナリ、何トナレハ世界ハ万有ノ集合シテ成ルモノ  
ナレハ、無限絶對完美ノモノ相集マリテ之ヲ成立スル時ノ如キトハ、到底之ヲ望ム  
ヘキニアラサルナリ、但世界ハ其ノ全體ヨリ觀察スルルハ、完全タリ、而シテ各個體  
ハ皆亦其ノ完全タルトニ向ツテ應分ノ務ヲ盡シ居ルモノナリ、

(二) 物質的ノ惡トハ苦痛、疾病、天變、地異等ノ類、皆之ニ屬スルナリ、是レ亦去ルヘ  
カラサルナリ、何トナレハ若シ此等ノ苦痛ニシテ存在セサレハ、吾人ハ又其反對ナ  
ル快樂ヲモ感スルヲ能ハサレハナリ、故ニ苦痛ナケレハ吾人ノ生活ハ現今ヨリモ  
一層興味ヲ失フニ至ルヘシ、而シテ人生ニ於ケル快樂ハ苦痛ヨリモ一層大ナルモ  
ノナリ、何トナレハ多數ノ苦痛ハ吾人カ道理ヲ解スルノ力ニヨリテ以テ之ヲ排除  
スルヲ得ヘケレハナリ、

(三) 道德上ノ惡トハ固ヨリ有害タルモノナリ、然レモ神ノ罪惡ノ此世ニ存在セ  
シムル所以ノモノタル之ナケレハ吾人ハ又善ノ善タル所以ヲ知ルヲ能ハサレハ

ナリ、若シ罪惡ニシテ存在セサレハ、道德ト云ヒ責任ト云フモ吾人ニハ無義ノ語ト  
ナルヘシ、蓋シ惡ナルモノハ人ノ自決ノ力ヲ除クニアラサレハ決シテ去ルヲ能ハ  
ス、而シテ自決ノ力ヲ去ルルハ道德的顯象モ亦全ク成立スルヲ能ハサルニ至ルヘ  
キナリ、

厭世主義カ正當ノ世界觀ト稱スヘカラサルカ如ク、快樂主義亦正當ナリトハ謂フ  
ヘカラサルナリ、而シテ其理由ハ厭世主義ニ於ケルト亦正ニ同一ナリ、現在ノ世界  
狀態ハ出來得ヘキタク完全ナルモノナリトハ、果シテ是レ眞ナル乎、如何ニ物質カ  
混スレハトテ、現在ノ世界ヨリモ、一層完全ナル世界ハ吾人ノ容易ニ想像シ得ル所  
ニアラスヤ、例之ヘハ天災地異ノ如キ、疾病其他一切ノ苦痛ノ如キ此等ノ類ハ物質  
ト必ラスシモ相伴生スヘキトニアラス、若シ又「ライプニツツ」ノ言ノ如ク、此等ノ害  
惡ナケレハ善ノ善タル所以、快ノ快タル所以ヲ感スルヲ能ハスト云フカ如キハ、是  
レ實ニ没理的ノナリ、何トナレバ則チ是レ當時ノ人性ヲ以テ動カスヘカラサル  
モノト假定スレハナリ、現在享有スル人性ニアリテハ、或ハ然ルヘシ、然レモ神ニシ  
テ若シ全知全能ナラシメハ、人性ヲモ變易シ、此ノ如キ苦痛ヲ受クルヲナクシテ、快

(三七五)



樂ヲノミ享クルヲ得ルカ如クニ作り出スヘカラサルノ理ナキナリ、神ニシテ若シ全能力ヲ有スルモノナラシメハ、此世界ハ將ニ無限ニ完全ナルヲ得ヘク、此世界ニシテ若シ完全ナラストセハ、神ハ全知ナラサルカ全能ナラサルカ、或ハ至仁ナラスト云ハサルヘカラス、是故ニ「ライプニッツ」ハ三頭ノ論法ニヨリテ以テ此世界ノ尤モ完全ナルヲ證セントスト雖也、吾人ハ兩頭ノ論法ニヨリテ以テ正サニ氏ノ假定ヲ覆スヲ得ヘキナリ、即チ次ノ如シ、

「ライプニッツ」ハ曰ヘリ、

若シ此世界ヲシテ不完全ナリトセハ、其結果左ノ何レカ一トナラサルヘカラス、

- (一) 神ハ最モ完全ナル世界ノ何タルヲ知ラサリシ乎、
- (二) 或ハ之ヲ知ルモ之ヲ作り出スト能ハサリシ乎、
- (三) 或ハ之ヲ作り得ルモ作ルヲ欲セサリシ乎ト是レナリ、

然レモ第一ノ場合ハ然ラス、何トナレハ是レ神ノ全知ト撞着スレハナリ、第二ノ場合モ然ラス、何トナレハ是レ神ノ全能ト矛盾スレハナリ、第三ノ場合モ不可ナリ、何トナレハ是レ神ノ至仁ト相反スレハナリ、是故ニ此世界ハ出來得ルタテ最

モ完全ナルモノナリト、

然レモ余ハ將サニ次ノ如クニ云フヘシ、

神ノ作レル此世界ハ、完全ナル乎不完全ナルカ何レカ一ナラサルヘカラス、神ニシテ全知全能至仁ナラシメハ、此世界ハ完全ナラサルヘカラス、此世界ニシテ不完全ナラハ、神ハ全知全能至仁ノ三者或ハ何レカ一ヲ欠クヘシ、此世界ハ不完全ナリ、故ニ神ハ彼レノ三性若シクハ其何レカ一ヲ欠クヘシ、ト或ハ尙ホ簡單ニ三段論法ニヨリテ、

神ハ全知全能至仁ナラハ、此世界ハ完全ナラサルヘカラス、然ルニ此世界ハ不完全ナリ、

故ニ神ハ全知全能至仁ノ三者或ハ何レカ其一ヲ欠クヘシ、ト是レニ由リテ之ヲ觀レハ「ライプニッツ」ハ全ク其假定ノ眞ナリヤ否ヤヲ試ミス之ヲ眞ナリト假定シ以テ推論スルモノナリ、是故ニ此ノ如キ反論ヲ生スルニ至ルナリ、

加之、「ライプニッツ」ノ快樂主義モ亦是レ感覺的ノ世界ヲ以テ唯一ノ世界トテスモ



ノ、言ナリ、若シ感覺以上ニ一層高尚ナル世界ノ存在スルアルヲ知ラハ、此世界ノ快樂苦痛ハ固ヨリ論スルニ足ラサルナリ、故ニ吾人ハ快樂主義ト厭世主義トハ、其外觀ニ於テハ非常ノ差異アルニモ關ハラズ、同一基本ノ上ニ立ツモノナリト斷言スルニ躊躇セサルナリ、

(三) 合理的進化論

以上説キ來ル所ノ二説ハ共ニ事實ノ一方ニ偏スルモノナリ、一ハ快樂ヲ見ルノミニシテ他ハ苦痛ヲ見ルノミナリ、是ニ於テ乎「ハートマン」氏ハ折衷主義ヲ唱へ出セリ、氏ハ以爲ラク人生ノ事業ハ固ヨリ苦痛罪業ノ充滿スル所ナリ、此點ヨリシテ之ヲ云へハ人生ハ固ヨリ惡ナルモノニシテ、厭世論者ノ唱フル所ハ、實ニ至當ノ説ト謂ハサルヲ得ス、然レモ現在ノ世界ノ状態カ、此ノ如クナリト云フヲ以テ、直チニ苦痛ト害惡トカ、吾人々生ノ目的世界進歩ノ終局ナリトハ認ムヘカラサルナリ、即チ之ヲ換言スレハ、此ノ如キ苦痛ノ状態カ、常ニ此状態ノ儘ニシテ永存スヘシトハ謂フヲ得サルナリ、故ニ世界ノ大局ヨリシテ之ヲ言へバ厭世主義ヲ以テ完全ナリトハ稱スルヲ得ズ世界及ヒ人生ハ日ニ進歩シテ止マサルモノナリ、而シテ其ノ進

歩ノ方向ヲ察スルニ、蓋シ善良ニシテ快樂ナル所ニアルモノ、如シ、乃チ人生及ヒ世界ハ遂ニハ必ラズ善良ニシテ快樂ナル所ニ至リ了ランノミト、「ハートマン」ハ現世ノ苦痛ナル所以ヲ詳論シテ、次ノ如キ言ヲ爲セリ、曰ク古ヨリ快樂ヲ得ントスルニ付キテ三種ノ思想アリ、

- (一) 人文ノ未タ開發セサルヤ、人皆此世界ニ於テ快樂ヲ得ンヲ欲セリ、
- (二) 進ンテ中古時代トナレハ現世ニ於テハ到底幸福ノ得ヘカラサルヲ知リ未來ニ於テ之ヲ求メントセリ、

(三) 時愈下リ智愈進ミ近代ニ至リテハ現世ニ於テハ幸福ヲ得ルモ固ヨリ多カルヘカラス、又未來ノ有無モ確乎トシテ知ルヘカラス只科學ノ術漸ニ發達進歩セハ、將來幾百十年ノ後ニ於テハ、人生必ラス多クノ幸福ヲ得ルヲアラント、然レモ此等ノ説タル皆誤レルモノナリ、請フ少シク其理由ヲ陳セソ、

(一) 現世ニ於テハ固ヨリ多クノ快樂ヲ得ルヲ難シ、蓋シ吾人ノ神經ハ之ヲ使用スル愈多クレハ、其ノ疲勞スル愈太甚シキモノナリ、故ニ再度ニ受クル苦痛ハ初度ノ時ニ比スレハ苦痛大トナリ、再度ノ快樂ハ初回ノ快樂ニ比スレハ、其ノ快樂ノ感



情薄弱トナラサルヲ得ス、故ニ快樂ハ漸ニ減シテ、苦痛ハ日チ逐フテ長スルモノナリ、次ニ人生多クノ快樂ハ、其前ニ受ケタル苦痛ヲ排シテ得タルモノナリ、而ルニ其ノ苦痛ヲ排除シテ得タル快樂ハ、其前ニ感シタル所ノ苦痛ニ比スレハ、其度極メテ低キモノナリ第三ニ苦痛ハ吾人ノ一度ヒ之ヲ受クルヤ、常ニ之ヲ感スルヲ切ナリト雖モ、快樂ハ暫時之ニ慣ル、ヤ直チニ其ノ快樂タルヲ忘ルニ至ル、即チ之ヲ換言スレハ、快樂ハ忽チニシテ消滅スト雖モ、苦痛ハ常ニ殘ルモノナリ終リニ科學及ヒ美術ノ如キハ固ヨリ多少ノ快樂ヲ吾人ニ與フルナキニアラスト雖モ此等ノモノヲ味ヒ、以テ之ヲシテ快樂ヲ感シ得ルモノハ、世界蒼生ノ中ニアリテハ極メテ少數ノモノナリ、其故ニ人生ニハ常ニ苦痛多量ニシテ、快樂ハ誠ニ得難シトナサ、ルヘカラサルナリ、

(二) 來世ニ於テ幸福ヲ得ルアラソトテ希望スルモ、是レ亦毫モ頼ムテ足ラサルナリ、何トナレハ來世ノ世界ナルモノハ、果シテ存在スルヲ得ル乎否ヤハ決シテ之ヲ斷言シ得サレハナリ、

(三) 人文進歩シ、科學開發スルモ、亦決シテ苦痛ハ消滅シ去ルモノニアラス者ヨ

醫學ハ如何ニ進歩スルモ、疾病ハ決シテ之カ爲メニ消滅セサルニアラスヤ、否、疾病ハ世ノ開發ト共ニ漸ニ恐ルヘキモノヲ發生シ來ルモノナリ、又道德ハ進歩ト稱スルモ、今日ノ状態ヲ以テ之ヲ考フルハ、唯惡事ヲ爲スノ方法古ト變化スルノミニシテ、反テ之カ爲メ兇惡ナルヲアリ、又吾人カ漸ニ進歩セハ、神經モ從テ鋭敏トナルニヨリ苦痛ヲ感スルヲ一層切トナルヘキナリ、物質文化ヲ開クルヤ、瀛車傳信ノ便モ自由トナルカ爲メニ、吾人々類ハ多少ノ利益ヲ蒙リ快樂ノ感情ヲ増加スルアルハ固ヨリ論ナシト雖モ、而モ人民一般ハ之カ爲メニ職業ノ競争ヲ烈シクセサルヲ得ス、競争烈シクナレバ苦痛ノ感情モ亦舊ヨリ一層甚シカラサル能ハス、又科學ノ進歩ニヨリテ幾分ノ苦痛ヲ減シ得トスルモ、是レ唯反面的ノミナリ是故ニ人生ニ於テ快樂ヲ多ク享有スルヲ到底望ムヘカラサルナリ、乃チ世界ニハ苦痛ノ幸福ヨリモ多量ナルハ免ルヘカラザルノ結果ナリト、

厭世的進化論ハ二者ヨリモ、一層進歩シタルモノナリト謂ハサルヲ得ス、然レモ此說モ亦以テ完全ナリト稱スヘカラサルニ似タリ、人生苦痛ノ多クシテ快樂ノ少キト否ヤトハ姑ラク之ヲ置ク、要スルニ此論亦畢竟幸福快樂ヲ以テ目的トナシ、其多



少ヲ以テ去就ヲ決セントスルモノニ過キサレナリ、故ニ其根基ニ於テハ、前兩説ト秋毫モ相異ナルナキナリ、然ラハ則チ前二説ノ人生ニ價セサルト同シク此ノ説モ以テ完全ト謂フヘカラサル明ラカナリ、已ニ吾人此説ヲ以テ満足ヲ感ズルヲ能ハストスレハ、之ヨリモ一層高尙完備ナル説ノ尙ホ此外ニ存在スルナカルヘカラス如何ノ説カ果シテ能ク前述ノ弊ニ陷ラス、吾人ヲシテ能ク満足ヲ感セシムルモノゾ次ニ掲クル所ノ説即チ是レノミ

(四) 超越的快樂説

超越的快樂説トハ、印度ニアリテハ佛教大乘教ノ唱フル所、支那ニアリテハ李白一派詩人ノ咏スル所、泰西ニアリテハ、スピノーザ、若シクハ、マオルダノ、ブルノ、諸氏ノ説ク所、即チ是レナリ、此等諸賢ノ此ノ如キ説ヲ唱フルニ至リシ根本的思想ハ、假令ヒ厭世主義ヨリシテ脱化シ來リタリトスルモ、其ノ起原ノ如何ハ必ラスシモ令間フヲ要セサルナリ、唯其ノ終局スル所ノ思想ヲ視ルヘキノミ、此等ノ人ハ世界ヲ以テ苦痛ナリトセス又快樂ナリトモ謂ハス、云ハ、苦痛ト快樂トニ超越スルモノナリ、余ハ今此ニ假リニ超越的快樂説ノ名ヲ命シタリ然レモ又

之ヲ以テ超越的厭世教ト稱シテモ決シテ不可ナルヲナキナリ、何トナレハ快樂ト快樂トニ超越シタル世界觀ナレハナリ、蓋シ厭世主義ヲ唱タルモノハ終始苦痛ノ感情ノ爲メニ支配セラレ、竟ニ感覺的ノ世界ヲ脱スルヲ能ハサルナリ、感覺的世界ヲ以テ唯一ノ世界トナシ、常ニ其ノ間ニ區々タルニヨリ、目前ニ横ハル苦痛ヲ消スルニ途ナク止ムヲ得ス、遂ニ山野ニ隱遁スルカ、若シクハ自殺ヲ希望スルニ至ルナリ、其ノ志ノ小ナル真ニ憐ムヘキモノアルナリ、快樂主儀ハ此點ニ付キテハ一見甚タ釋然タルモ、アルカ如シト雖モ、其實決シテ然ラス、快樂ト苦痛トハ元來是レ獨立シテ存在シ得ルモノニアラス、唯相互ノ比較對照ニヨリテ定マルナリ、之ヲ換言セハ、快樂アリテ苦痛アリ、苦痛ナクシテ獨リ快樂存スルヲ能ハス世ニ絕對的ノ苦痛ナキカ如ク、又絕對的ノ快樂ナキナリ、是故ニ此世界ハ快樂ナリト唱フルモノハ、即チ是レ其裏面ニ於テ苦痛ヲ認ムルモノナリ、苦痛ヲ認メ快樂ヲ認メ一ハ之ヲ厭ヒ一ハ之ヲ喜フ是ニ於テ乎快樂ナルカ故ニ此世界ハ善ナリトナスモ若シ世界現時ノ狀態ニシテ一變シ、厭世論者カ謂フ如ク苦痛ヲ以テ充満スルモノトナラハ彼等ハ又忽然其説ヲ變シテ、以テ厭世主義ヲ唱フルニ至ランノミ、是故ニ此等ノ輩



ハ、厭世論者ト均シク、感覺的世界ノ中ニ沈淪シテ、之ヨリモ一層高尚ナル世界ノ存在スルヲ認ムル能ハサルモノナリ、快樂厭世主義ノ已ニ此ノ如ク、其レ賤シムヘキモノタルヲ知ラハ、「ハートマン」ノ進化主義ノ尙フニ足ラサルヤ、亦知ルヘキノミ、

吾人ハ所謂最高動物ナリ、理性ノ力ヲ十分ニ發揚シ得ルモノナリ、是故ニ吾人ハ須ラク此等感覺的ノ世界ヲ超越シテ、以テ之ヨリモ一層高尚ナル理想上ノ世界ヲ發見セサルヘカラス、單ニ感覺ノ爲メニ支配セラレスシテ、悠然理想ヲ以テ樂シム所ナカルヘカラサルナリ、人間ノ所謂最靈ナル所以ノモノハ、實ニ此ニアリテ存スルナリ、「カント」ノ所謂品位ヲ維持スト云フモ、亦之ヲ外ニシテ存スル所ナシ、試ミニ美術ニ於テ之ヲ見ヨ、高尚ニシテ完全ナル美ト稱スルモノハ、決シテ實在界ニ存セスシテ理想上ニアルニアラスヤ、感覺的世界ヲ以テ唯一ノ世界トナスモノハ、是レ動物ノ宜シク然ルヘキ所、人類ノ爲スヘキニアラサルナリ、若シ其レ吾人カ快樂苦痛ノ感情ヲ超越シ、以テ完全ナル理想上ノ世界ニ棲息セハ、之クトコロトシテ安カラサルナク、至ル所トシテ樂シカラサルナキナリ、此ノ如ク謂フモ、全ク俗界ヲ隔離シ

テ、之ト秋毫ノ關係ヲ有セサレト謂フニアラス、俗界ヲ離レスシテ而モ俗界ノ爲メニ煩ハサル、トナシ、何ヲ以テノ故ニ此ノ如クナル、唯理想ノ世界ニ住スレハナリ「スピノザ」ノ言ニ笑フ勿レ、悲シム勿レ、嫌フ勿レ、唯認識セヨト、又「ブルノ」ノ語ニ曰ク、苦痛ノ時ニ際シテモ心志精澄ナレ、心志精澄ノ時ニ際シテモ苦痛ヲ忘ル勿レト共ニ是レ其ノ中和ノ境界ヲ言ヒ顯ハセルモノナリ、

李太白ノ素ト厭世的ノ詩人タルトハ固ヨリ言テ俟タス、而レモ其至極スルヤ竟ニ又超越的の中和ノ境界ニ到達セリ、白カ齊有僊生、魯連特高妙、明月出海底、一朝開光輝、却秦振英聲、後世仰未照、意輕千金價、願向平原笑、吾亦澹蕩人、拂衣可同調ト云ヒ、沐浴子ニ沐芳莫彈完、浴蘭莫振衣、處世忌太潔、至人貴藏輝、滄浪有釣叟、吾與爾同歸ト云カ如キ、白カ太潔ヲ嫌ヒ千金ヲ輕ンシ、放逸不羈ニシテ釣叟ト伴タラントテ欲ス、心胸頗ル悠々タリト雖モ、尙ホ一片厭世ノ氣慨ノ其ノ裡面ニ伏在スルヲ認ムルナリ、送友人入蜀ノ詩ニ升沈應已定、不必問君乎ト云フニ至リテハ、白カ觀念尙ホ一步ヲ進メ、今ヤ天命ニ安ンシ得喪ニ關ハラス、厭世快樂ノ二念消然トシテ更ラニ蹤ノ未ムヘキナク、白ノ胸中是ニ於テ乎豁然トシテ始メテ明カナルヲ見ル、其他白カ獨坐



敬亭山ノ詩ニ衆鳥高飛盡孤雲獨去閒相看兩不厭只有數亭山ト云ヒ又山中答問ノ詩ニ問余何意柄碧山笑而不答心自閒桃花流水窅然去別有天地非人間ト云ヒ又尋雍尊師隱居ノ詩ニ

群峭碧摩天直遙不記年撥雲尋古道倚石聽流泉花暖青牛臥松高白鶴眠雨來江色暮獨自下寒煙

ト云フカ如キ皆其悠悠自適ノ境遇ヲ寓セルモノナリ又陶淵明ノ雜詩ニ

結廬在人境而無車馬喧問君何能爾心遠他自偏採菊更籬下悠然見南山山氣日夕佳飛鳥相與還此間有真意欲辨已忘言

ト云フカ如キモ亦應サニ此境ニ近カルヘシ

佛教亦固ヨリ厭世的思想ヨリシテ入ルモノナリ然リト雖モ大乘真悟ノ境ニ至リテハ決シテ又厭世ニ止マルモノニアラス是レ詳カニ此ニ述フルヲ要セサルナリ故ニ左ニ寒山ノ詩二首ヲ掲ゲテ以テ之ヲ證ス

家住綠巖下庭蕪更不芟新藤垂繚繞古石豎巉崑山果欄猴摘池魚白鷺銜仙書一

兩卷樹下讀喃喃

欲得安身處寒山可長保微風吹幽松近聽聲愈好下有斑白人喃喃讀黃老十年歸不得忘却來時道

ト其ノ他世ニ所謂十午圖ナルモノ、第十段ニ畫ケル圖及ヒ其上ニ題セル詩歌ヲ見ルモ亦以テ其一斑ヲ窺フニ足ルナリ

是ニ由リテ之ヲ觀ルニ超越的快樂說ハ尤モ高尚ナル學說ニシテ吾人ノ取ラサルヘカラサルモノナリ何トナレハ是レ感覺的ノ世界ヲ超越シテ以テ優ニ理想的ノ世界ニ遊フモノナレバナリ而モ感覺的ヲ厭離シテ山野ニ隱遁スルヲ要セス感覺的世界ノ中ニアリテ感覺的世界ノ中ニ溺レス感覺的世界ヲ離レスシテ之カ爲メニ汚サレサルモノナリ

終リニ合理的の心理學ニ付キテ一言スル所ナカルヘカラス合理的の心理學トハ吾人カ心理的ノ狀態ヲ觀察實驗スルヲナク單ニ思辨的ニ心理學ヲ構成セントスルモノナリカント以前ニ至ル迄テハ此ノ如キ科學カ成立シ得ルモノナリトハ哲學者間一般ニ信セラレクルモノナリ然ルニカントノ世ニ出ツルヤ合理的の心



理學ノ到底成立シ得ヘカラサル所以ヲ證明シ、之ヨリシテ此學ハ一變シテ實驗的トナリ、テ生理的トナリ、遂ニ以テ今日所謂心理學ヲ生シ、全ク哲學ト關係ヲ絶スルニ至リシナリ、而シテ其ノ始メテナシタルモノハ實ニ「カント」ナリキ、由リテ左ニ氏ノ、説明ノ大要ヲ掲ク、

合理的心理學ノ駁論

抑モ合理的心理學ナルモノ、由リテ來レル根本ハ、我カ考フナル一語ニアリ、蓋シ思考スル我ハ是レ内官ノ目的物ニシテ精神是レナリ、外官ノ目的物タル我ハ、即チ身軀是レナリ、是ノ故ニ思考的ノ我ナル文字ハ心理學ノ目的トスル所ニシテ、之ヲ精神ノ合理的認識ト稱ス、余ハ今此ニ我ナル概念ヨリシテ推論シ得ラル、モノハ姑ク之ヲ置ク、經驗ヲ離レテハ、精神ナルモノニ付キテ如何ナル「チ」モ知ル能ハザルヲ辯セントスルモノナリ、

若シ秋毫經驗ノ元素カ此中ニ入ルルハ是レ最早ヤ合理的心理學ニアラスシテ、經驗的心理學ナリ、合理的心理トハ唯吾ハ考フナル一事ヨリシテ、我ハ實軀ナリ、我ハ行爲ノ原因ナリ等ト、心理學全軀ノ組織ヲ作り出サントスルモノナリ、即チ其主ナル性質ハ次ノ如シ、

- (一) 精神ハ實軀ナリ、
- (二) 其性質ニ關シテハ單純ナリ、
- (三) 其存在スル種々ノ時間ニ關シテハ數量上同一ナリ、即チ換言スレハ精神ハ唯一ニシテ多ニアラス、
- (四) 精神ハ空間ニ於ケル物、軀ニ關シテ存在ス、

ト是レナリ、

所謂純粹(經驗)カラサルニヨリ純粹ト云フ、即チ合理的ノ「チ」ナリ、心理學ノ概念ナルモノハ、單ニ此等ノ元素ノミニヨリ秋毫モ他ノ元理ノ助ケテカラスシテ成立スルモノナリ、即チ此實軀ナルモノハ單ニ是レ内官ノ目的物ナルカ故ニ、以テ不滅ノ概念ヲ與ヘ、單一的物、軀ナルカ故ニ破壊スヘカラサルモノ、概念ヲ與ヘ、其同一ノモノナルヨリシテハ、人格ナル思想ヲ得、此等ノ三性相合シテ、此ニ又有神の、思想ヲ生スルナリ、又空間ニ於ケル物、軀ト相關係シテ存在スルニヨリテ、肉軀ト相感ノ思想ヲ生セサルヲ得サルナリ



但シ此所謂我トハ單純ニシテ内容ナキ我ナル表彰ナリ、此我ハ決シテ概念ニアラズシテ一切ノ概念ヲ生セシムル表彰ニ過キササルナリ、吾人ハ此ノ如キ我ナルモノヨリシテ單ニ思考ニ於ケル先在的主觀ノ存在スヘキコトヲ推知シ得ルノミニシテ、其ノ他ハ一切之ヲ知ル能ハサルモノナリ、而シテ之ヲ知ルハ唯其ノ屬性ナル思考ノ助ケニヨルノミ、而モ主觀其ノモノニ付キテハ秋毫ノ知識ヲ得ルモノニアラストス、是故ニ此等ノ單純ナル概念ノミニヨリシテハ、到底特殊ノ事實ニ於ケル認識ハ、之ヲ得ルヲ能ハサルモノト謂ハサル能ハス、乃チ此等ノ思想ノ助ケニヨリテ、以テ心理學ヲ構成セントセハ、必ラスヤ循環論理ノ謬論ニ陥ラサルヲ得サルナリ、然レモ吾人ハ、通常吾人ノ思考シ得ルヲハ、其思考スル物體ニ關シテモ、亦正確ナルヲ得ルモノナリト信スルカ如シ、是レ抑モ何ノ故ニシテ然ル乎、同ク是レ認識ノ先天的情件ヲ以テ意識ノ表彰ト混一スルニ起ルモノナリ、抑モ我ナルモノニ付キテハ決シテ外界經驗ノ助ケニヨリテ知了シ得ルニアラス、唯自己意識ニ由ルノミニシテ其ノ意識ニ表彰セラレ來ル所ノモノハ、是レ我ノ眞體ニハアラスシテ、唯其ノ表彰ニ過キササルナリ、是故ニ我ナルモノカ實在スト考フルハ、是レ外物ノ意識ト

同シク自己ナルモノ、意識ヲ外界ニ移シ出シタルニ外ナラス、之ヲ要スルニ吾人ハ思考ストノ一事ヨリシテ、我ナルモノカ實在スト云フカ如キハ、是レ全ク未決的ノトニ屬スト謂ハサルヘカラス、若シ此說ヲ助クルニ思想發達ノ狀態ヲ觀察シ、其ノ間ニ於ケル理法ヲ研究スルニ於テハ、是レ已ニ經驗的心理學トナラサルヲ得サルナリ、合理的心理學ニアリテハ、單一ナリ等ト云フカ如キ經驗的性質、及ヒ思考的物體ノ性質等ニ至リテハ、決シテ之ヲ斷言シ得ル所ニアラトナス、以下尙ホ少シク之ヲ述ヘン、抑モ吾人カ吾人ヲ認識スト云フヲハ、決シテ思考ニヨリテ吾人ノ意識ニ表彰セラレ、ニ由ルニアラスシテ、自己ノ直觀ノ意識ヲ通セサルヘカラサルナリ、吾人ノ意識中ニ於ケル自己意識ノ一切ノ變態ハ、是レ物體ノ概念ニアラスシテ、唯吾人カ論理的推論ノ結果タルニ過キストス、故ニ吾人ハ自己ヲ一ノ物體トシテ知リ得ルヲ能ハサルナリ、

一切ノ判斷ニ於テ、我ハ其間ニ存在スル關係ヲ定ムル所以ノモノナリ、思考スルモノハ常ニ主辭タラサルヘカラス、其目的物トナルヤ單ニ是レ同一命題タルノミ、而